

# はじめに

行橋市は、平成 11 年 3 月、女性問題を解決し「男女共同参画社会の実現」をめざして、「行橋市男女共同参画プラン」を策定、各種の施策を推進しています。

その後、少子・高齢化の進展、経済活動のグローバル化等により、私達を取り巻く社会情勢は、さらに急速に変化しています。

このような、状況の中、本市は、諮問機関「行橋市男女共同参画推進会議」において、市民のみなさまのご意見を頂きながら、現在条例を策定中です。

女性問題についての第 1 回目の意識調査は、平成 9 年「女性問題懇話会」において、設問内容を検討し「行橋市民の女性に関する市民意識調査」を実施、行動計画策定の参考といたしました。

今回は、それから 6 年が経過しており、これまでの社会環境の変化に伴う、市民の女性問題に関する意識と実態を把握し、今後の条例制定に対応した計画の見直し等を図るために、第 2 回目の「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました。これは、その調査結果を報告書としてまとめたものです。

性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮することができ、お互いに責任を分かち合う、男女共同参画社会実現のために、みなさまに広くご活用頂ければ幸いです。

最後に、この調査にご協力を頂きました市民のみなさま、並びに分析をお願いしました熊本学園大学篠崎正美教授をはじめ関係者のみなさまに、心より厚くお礼を申し上げます。

平成 15 年 9 月

行橋市長 八並 康一

# 目次

## ・調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 調査の企画と実施機関・分析者	2
5. 留意事項	2
6. 標本特性	3

## ・調査結果の概要

<b>第1章 男女平等意識について</b>	<b>9</b>
1. 性別役割分業観	9
2. 男女の立場平等意識	12
<b>第2章 女性の人権について</b>	<b>17</b>
1. 女性の人権	17
2. 女性・男性にとって大切だと思うもの	18
3. 妻に対する夫の行為について	21
4. 夫や男性からの暴力について	23
<b>第3章 結婚について</b>	<b>25</b>
1. 結婚観	25
2. 選択的夫婦別姓制度について	27
3. 晩婚化について	29
4. 離婚について	33
5. 女性の生き方について	34
<b>第4章 出産・子育てについて</b>	<b>41</b>
1. 「女らしく」、「男らしく」について	41
2. 出生率の減少について	43
3. 女性の働きながらの子育てについて	46

<b>第5章 家庭生活について</b> .....	<b>49</b>
1. 平日の状況について.....	49
2. 家庭のもつ役割について.....	50
3. 家庭での役割について.....	51
<b>第6章 仕事や職場について</b> .....	<b>57</b>
1. 就労状況について.....	57
2. 職場での状況について.....	66
3. 相談窓口の利用について.....	70
4. 職種について.....	70
5. パート・アルバイトの就労状況について.....	76
6. 理想の就労形態について.....	77
<b>第7章 社会活動について</b> .....	<b>79</b>
1. 社会活動の参加意向について.....	79
2. 社会活動に参加する上での支障について.....	83
<b>第8章 女性の政治や行政への関わりについて</b> .....	<b>87</b>
1. 政治や行政への女性の意見反映について.....	87
2. 政治や行政への女性の参画について.....	88
3. 社会活動の委員就任意向について.....	90
<b>第9章 老後と介護について</b> .....	<b>93</b>
1. 自分の老後への不安について.....	93
2. 介護保険の利用について.....	95
3. 介護への希望について.....	97
<b>第10章 ストレスや生きがいについて</b> .....	<b>99</b>
1. 悩みなどのストレスについて.....	99
2. 生きがいについて.....	101
<b>第11章 女性問題全般について</b> .....	<b>105</b>
1. 女性問題で見たり聞いたりしたことのあることについて.....	105
2. 男性が女性とともに家事などに参加していくために必要なこと.....	107
3. 「男女共同参画社会」への市の取り組みについて.....	108

## **・調査結果のまとめ**

調査結果のまとめ.....	111
---------------	-----

## ・調査資料

1．クロス集計票.....	117
2．使用した調査票.....	179
3．その他回答のまとめ.....	205
4．自由回答のまとめ.....	221

# ．調査の概要

## 1．調査の目的

近年、少子高齢化など私たちを取り巻く社会経済環境が急速に変化していくなかで、男女がお互いに性別による固定的な役割分担意識にしばられることなく、家庭、職場、地域で、それぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会づくりが求められている。

このような状況に対応するため、行橋市における男女共同参画問題に関する市民の意識と実態を把握し、今後の男女共同参画行政をより効果的に推進するための基礎資料を得ることを目的として実施した。

## 2．調査項目

- (1) 男女平等意識について
- (2) 女性の人権について
- (3) 結婚について
- (4) 出産・子育てについて
- (5) 家庭生活について
- (6) 仕事や職場について
- (7) 社会活動について
- (8) 女性の政治や行政への関わりについて
- (9) 老後と介護について
- (10) ストレスや生きがいについて
- (11) 女性問題全般について

## 3．調査の設計

調査対象者 : 行橋市在住の満 20 歳以上の男女 1,500 人

質問数 : 49 問

調査方法 : 調査票配布・回収は郵送法

標本抽出 : 住民基本台帳より無作為抽出

調査期間 : 平成 15 年 7 月 14 日～ 7 月 27 日まで 7 月 22 日督促 1 回

配布・回収の状況

		配布数	有効回収数	有効回収率
全体		1,500	758	50.5%
性別	女性		399	52.6%
	男性		350	46.2%
	不明・無回答		9	1.2%

## 4 . 調査の企画と実施機関・分析者

調査主体：行橋市総務部秘書企画課男女共同参画係

調査結果の分析と執筆：篠崎 正美（熊本学園大学教授）

実施機関：（株）日本出版 都市計画事業部

## 5 . 留意事項

回答の割合を示すすべての数値は少数第2位で四捨五入している。このため、単数回答の結果の合計が必ずしも100.0%に一致しない場合がある。

複数の回答を求めた設問では、集計対象総数に対する割合を示しており、合計が100.0%を超える。

グラフおよび表における「不明・無回答」とは、回答が示されていないもの、回答の判別が著しく困難なものである。

図表中のN（サンプル数）は、集計対象総数を表している。

今回の調査は、次の資料と比較分析を行っている。

総理府	「男女共同参画社会に関する世論調査」	平成14年7月
福岡県	「女性問題に関する意識調査」	平成12年
行橋市	「行橋市民の女性に関する意識調査」	平成9年8月

## 6 . 標本特性

単位：%、( )内は人

		全体	性別	
			女性	男性
総 数		100.0 ( 758 )	53.3 ( 399 )	46.7 ( 350 )
年 齢 別	20 代	12.1	11.3	13.1
	30 代	12.1	11.5	13.1
	40 代	14.9	17.8	12.0
	50 代	23.0	23.3	22.9
	60 代	20.4	19.0	22.6
	70 歳以上	16.9	17.0	16.3
	不明・無回答	0.5	-	-
校 区 別	行橋校区	10.6	12.5	8.3
	行橋北校区	8.3	9.0	7.1
	行橋南校区	9.4	8.3	10.9
	菟島校区	1.6	1.3	2.0
	今元校区	9.1	8.3	10.3
	仲津校区	16.5	16.5	16.6
	泉校区	14.6	14.8	14.9
	今川校区	6.9	6.8	7.1
	稗田校区	6.1	6.8	5.4
	延永校区	11.1	10.8	11.7
	椿市校区	2.5	2.3	2.6
	その他	2.5	2.0	2.9
	不明・無回答	0.9	0.8	0.3
	居 住 年 数 別	3 年未満	10.4	9.0
3～5 年未満		4.9	4.8	5.1
5～10 年未満		10.7	10.5	10.9
10～20 年未満		20.6	21.3	20.3
20 年以上		53.0	54.4	51.4
不明・無回答		0.4	-	-
配 偶 関 係 別	未婚	16.9	14.3	20.0
	法律婚（入籍している結婚）	69.4	68.2	71.7
	事実婚（入籍していない結婚）	0.3	0.3	0.3
	同棲	0.4	0.3	0.6
	死別	7.4	11.0	3.4
	離別	3.2	4.0	2.3
	不明・無回答	2.4	2.0	1.7
共 働 き 別	共働き	32.5	35.0	30.3
	共働きではない	50.6	47.8	53.9
	不明・無回答	16.9	17.2	15.7
家 族 構 成	単身世帯	7.3	7.5	6.9
	夫婦のみで子どもがいない世帯	14.5	12.5	16.9
	高齢期（65 歳以上）で夫婦のみの世帯	11.9	11.0	12.6
	核家族世帯（夫婦と子どものみの世帯）	35.4	34.3	36.6
	ひとり親と子どもの世帯	9.1	11.8	6.3
	三世帯、四世代世帯	11.6	13.5	9.7
	その他の世帯	8.4	7.5	9.7
	不明・無回答	1.8	1.8	1.4

		全体	性別	
			女性	男性
職業状況別	農林漁業の自営業主	2.1	0.3	4.0
	農林漁業の家族従業者	1.3	2.3	0.3
	商工サービス業などの自営業主	2.5	1.0	4.0
	商工サービス業などの家族従業者	1.2	2.0	0.3
	自由業（開業医、弁護士など）	0.9	1.0	0.9
	会社・団体の役員、管理職	4.5	1.0	8.6
	正社員・正職員	22.8	14.8	32.6
	準社員・常勤嘱託など	3.8	3.8	4.0
	パート・アルバイト	11.2	17.3	4.6
	フリーター	0.4	-	0.9
	臨時雇用・日雇など	1.8	1.0	2.9
	学生	0.9	0.8	1.1
	専業主婦（主夫）	12.5	22.8	1.1
	無職	15.3	11.5	19.7
	その他	4.7	5.3	4.3
不明・無回答	13.9	15.3	10.9	

前回調査分の標本特性（平成9年行橋市民の女性に関する意識調査より）

単位：%

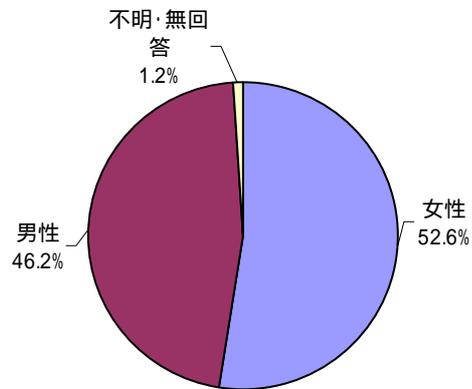
		全体	性別	
			女性	男性
標 本 数		512 人	318 人	191 人
年代別	20代	13.3	16.4	8.4
	30代	16.0	15.4	17.3
	40代	20.5	18.9	23.6
	50代	20.5	19.5	22.0
	60代	29.3	29.6	28.3
	不明・無回答	0.4	0.3	0.5
小学校区別	行橋校区	10.2	9.1	12.0
	行橋北校区	10.4	9.7	11.5
	行橋南校区	10.0	8.2	13.1
	菟島校区	1.8	2.5	0.5
	今元校区	8.8	9.1	8.4
	仲津校区	17.2	19.5	13.6
	泉校区	15.2	13.2	18.3
	今川校区	6.4	7.2	5.2
	稗田校区	4.9	3.8	6.3
	延永校区	11.7	13.5	8.9
	椿市校区	1.4	1.3	1.0
	その他	0.6	0.6	0.5
	不明・無回答	1.6	2.2	0.5
同居状態	単身世帯	7.4	9.4	4.8
	夫婦のみの世帯	23.0	20.8	26.7
	親と子どもの世帯	54.3	55.0	52.9
	三世代、四世代世帯	11.3	11.8	10.5
	その他の世帯	3.5	2.5	5.2
	不明・無回答	0.4	0.3	0.5
共働き別	共働き	34.1	33.2	35.4
	共働きではない	64.6	64.6	64.6
	不明・無回答	1.3	2.2	-

## 回答者の属性

### 問1 性別

性別にみると、「女性」が52.6%、「男性」が46.2%と女性が男性よりもやや高くなっている。

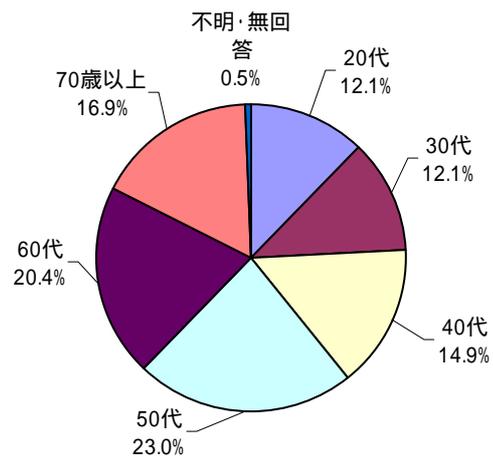
図F - 1 性別



### 問2 年齢別

年齢別にみると、「50代」が23.0%で最も高く、以下「60代」が20.4%「70歳以上」16.9%と続いており、「20代」、「30代」がともに12.1%で最も低くなっている。

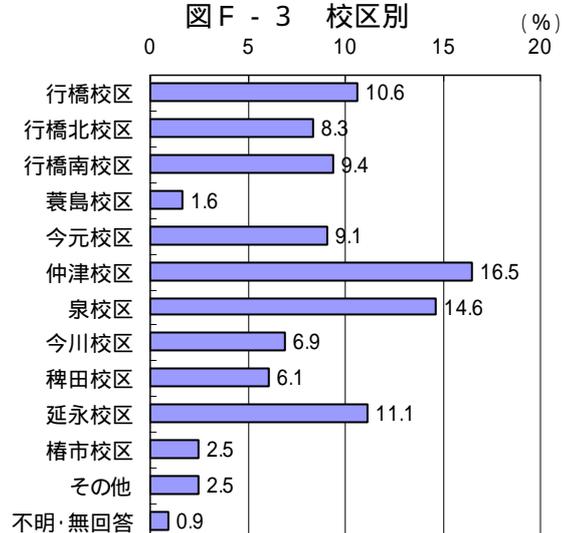
図F - 2 年齢別



### 問3 校区別

校区別にみると、「仲津校区」が16.5%で最も高く、以下「泉校区」が14.6%、「延永校区」11.1%、「行橋校区」10.6%と続いている。

図F - 3 校区別

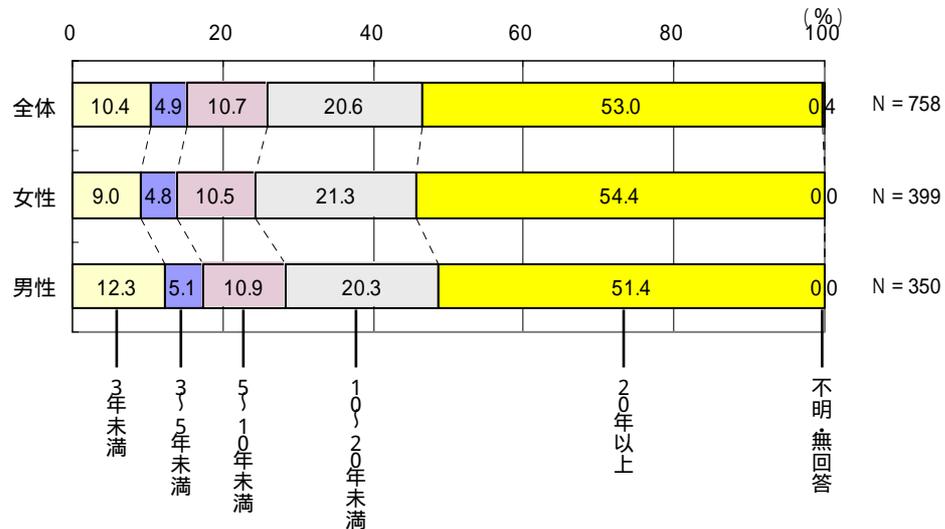


〔調査資料 117 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

#### 問4 居住年数

居住年数をみると、20年以上居住している人が53.0%と高くなっている。また、10年以上定住している人は73.6%を占めており、行橋市は定着率が高いことがわかる。

図F-4 住居年数

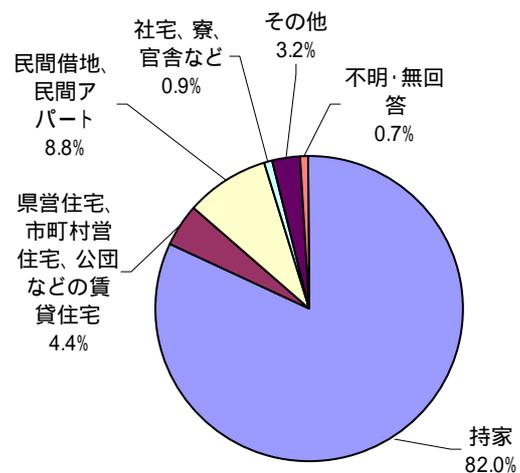


〔調査資料 118 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

#### 問5 住居形態

住居形態をみると、「持家」が82.0%を占め最も高く、次いで「民間借地、民間アパート」8.8%、「県営住宅、市町村営住宅、公団などの賃貸住宅」4.4%となっており、行橋市は持ち家率が高いことがわかる。

図F-5 住居形態

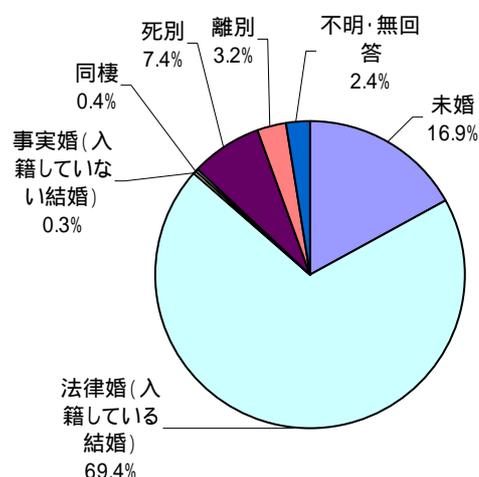


〔調査資料 118 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

#### 問6 配偶関係

配偶関係をみると、「法律婚(入籍している結婚)」が69.4%で最も高く、次いで「未婚」16.9%となっている。

図F-6 配偶関係

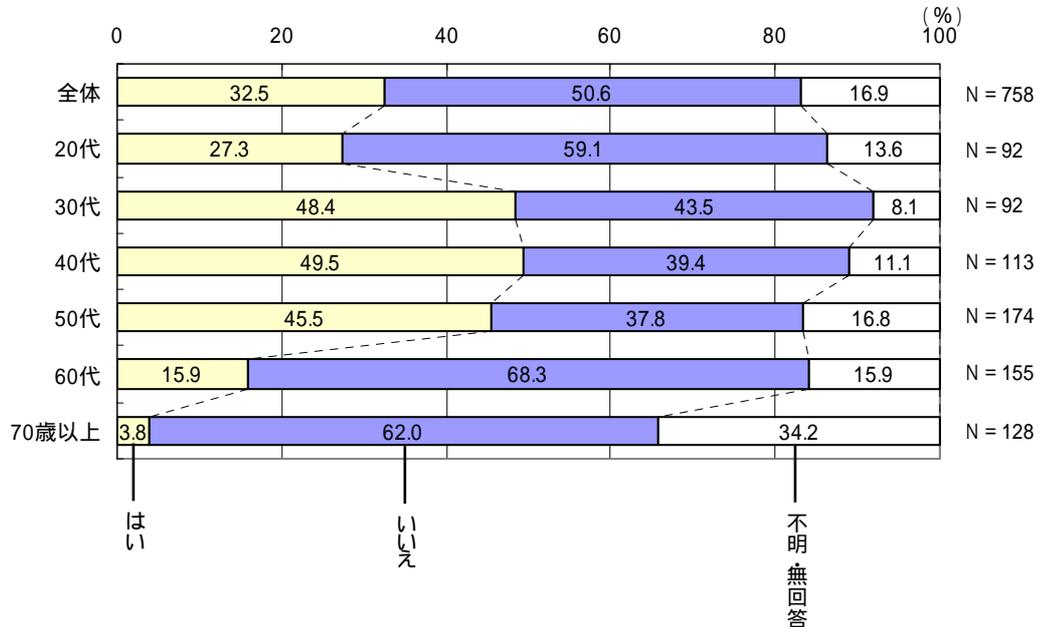


〔調査資料 119 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

### 問6 - 1 共働き

共働きの状況を見ると共働きは32.5%、共働きでない人は50.6%となっている。また、共働きの割合が高い年代は30代から50代であり、いずれも45%以上となっている。

図F - 7 共働き

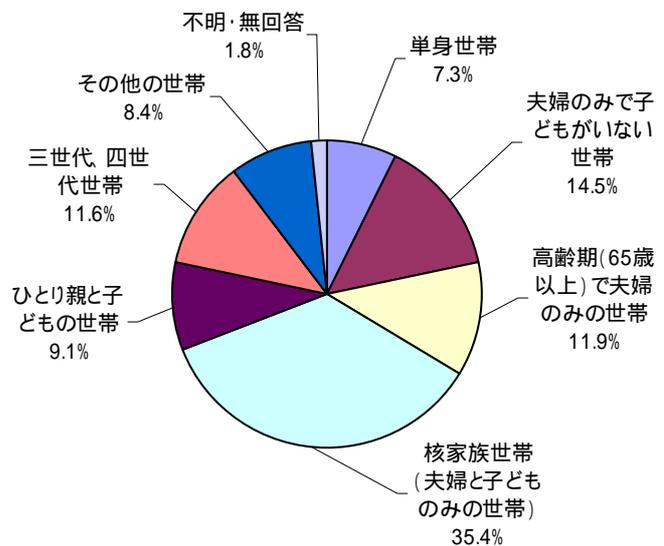


〔調査資料 117 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

### 問7 家族構成

家族構成を見ると、「核家族世帯(夫婦と子どもだけの世帯)」が35.4%と最も高く、「夫婦のみで子どもがいない世帯」、「高齢期(65歳以上)で夫婦だけの世帯」、「三世代、四世代世帯」が10%強となっており、「単身世帯」は7.3%となっている。

図F - 8 家族構成



〔調査資料 120 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

## ．調査結果の概要

### 第1章 男女平等意識について

#### 1．性別役割分業観

問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどのように思われますか。 1つだけ選んで を付けてください。

##### 《女性より男性の方が、性別役割分業意識が高い》

###### [全体]

「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業観についてたずねたところ、全体では「どちらともいえない」が44.6%で最も高く、次いで「同感しない」が38.8%となっている。また、「同感しない」は「同感する」の2倍以上高くなっている。

###### [性別]

「同感する」は男性18.6%、女性12.3%と男性より女性の方が6.3ポイント高く、また、「同感しない」は男性34.3%、女性43.4%であることから、女性よりも男性の方が性別役割分業観が高いことがわかる。

###### [年齢別]

30～50代の女性は「同感しない」が約50%と最も高く、20代、60歳以上では「どちらともいえない」が50%以上と最も高い。男性はどの年齢層においても「どちらともいえない」が最も高い。また、男性は年齢が高くなるほど「同感する」が高く、年齢が高い層ほど性別による役割分業の意識が高いことがうかがえる。

###### [職業別]

女性の正社員・正職員、パート・アルバイトでは、「同感しない」が最も高く、正社員・正職員69.5%、パート・アルバイト50.7%、また、専業主婦（主夫）は「どちらともいえない」が49.5%と最も高い。男性の会社・団体の役員、管理職は「同感しない」が46.7%と高く、正社員・正職員は「どちらともいえない」が51.8%と最も高い。

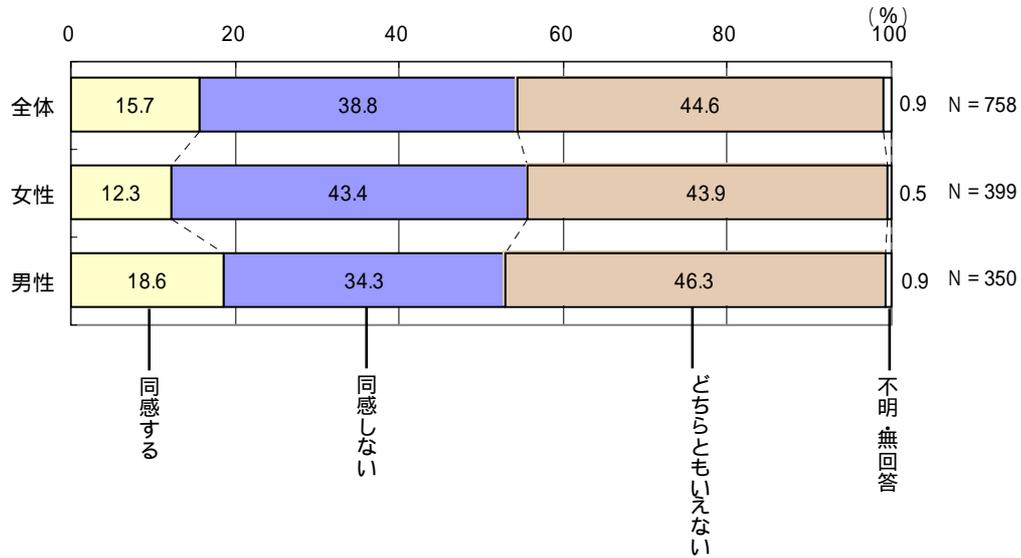
###### [地区別]

行橋、行橋南、叢島、泉校区は「同感しない」が最も高く、その他の校区では、「どちらともいえない」が最も高い。

ほとんどの校区で「同感しない」が「同感する」を上回っている。特に、泉校区（同感する9.0%、同感しない46.8%）、行橋南校区（同感する9.9%、同感しない45.1%）では30ポイント以上の差となっている。また、椿市校区では唯一「同感する」26.3%が「同感しない

い」21.1%を5.2ポイント上回っている。

図1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



〔調査資料 120 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について【男女年齢別・職業別】 単位：%

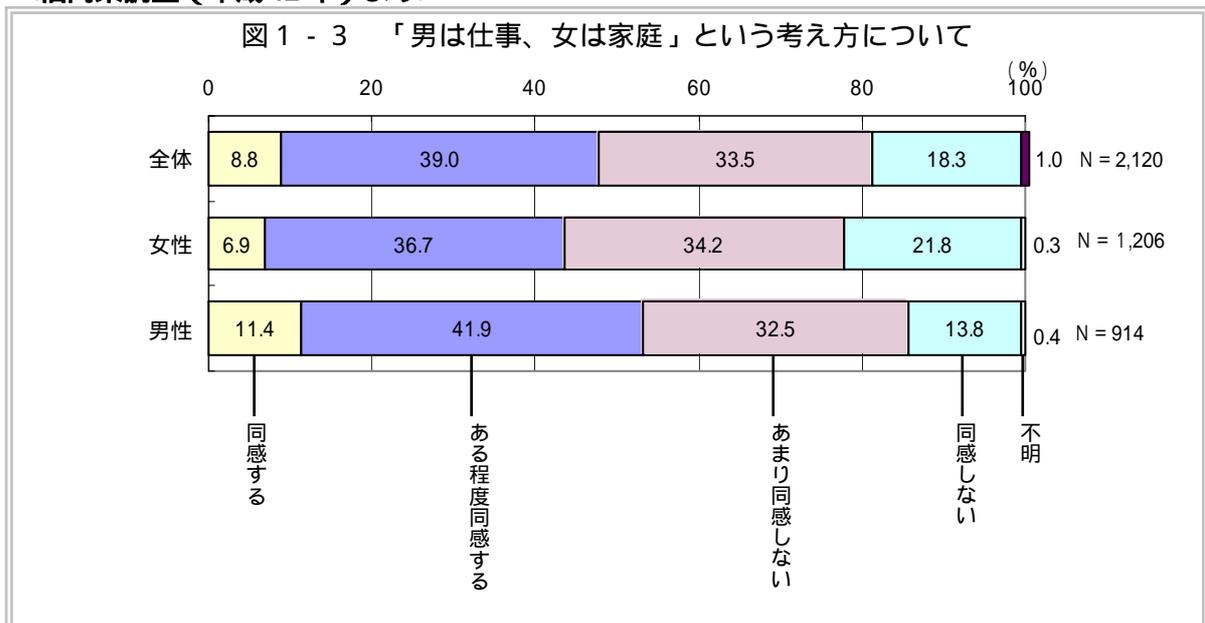
	女性					男性					
	標本数	同意する	同意しない	どちらともいえない	不明・無回答	標本数	同意する	同意しない	どちらともいえない	不明・無回答	
全体	399	49	173	175	2	350	65	120	162	3	
	100.0	12.3	43.4	43.9	0.5	100.0	18.6	34.3	46.3	0.9	
年齢別	20代	45	6.7	42.2	51.1	-	46	6.5	39.1	54.3	-
	30代	46	8.7	52.2	39.1	-	46	8.7	37.0	54.3	-
	40代	71	9.9	53.5	36.6	-	42	16.7	35.7	45.2	2.4
	50代	93	10.8	47.3	40.9	1.1	80	17.5	40.0	42.5	-
	60代	76	5.3	39.5	53.9	1.3	79	20.3	32.9	44.3	2.5
	70歳以上	68	30.9	26.5	42.6	-	57	36.8	21.1	42.1	-
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	職業別	農林漁業の自営業主	1	-	-	100.0	-	14	28.6	14.3	57.1
農林漁業の家族従業者		9	22.2	44.4	33.3	-	1	100.0	-	-	-
商工サービス業などの自営業主		4	-	25.0	75.0	-	14	-	28.6	71.4	-
商工サービス業などの家族従業者		8	12.5	50.0	37.5	-	1	-	-	100.0	-
自由業（開業医、弁護士など）		4	25.0	25.0	50.0	-	3	33.3	-	66.7	-
会社・団体の役員、管理職		4	-	25.0	75.0	-	30	10.0	46.7	43.3	-
正社員・正職員		59	1.7	69.5	28.8	-	114	12.3	35.1	51.8	0.9
準社員・常勤嘱託など		15	-	46.7	53.3	-	14	7.1	42.9	50.0	-
パート・アルバイト		69	8.7	50.7	40.6	-	16	18.8	43.8	37.5	-
フリーター		-	-	-	-	-	3	-	66.7	33.3	-
臨時雇用・日雇など		4	25.0	50.0	25.0	-	10	40.0	50.0	10.0	-
学生		3	-	100.0	-	-	4	25.0	50.0	25.0	-
専業主婦（主夫）		91	17.6	31.9	49.5	1.1	4	50.0	25.0	25.0	-
無職		46	23.9	30.4	45.7	-	69	24.6	34.8	40.6	-
その他		21	14.3	42.9	38.1	4.8	15	40.0	40.0	20.0	-
不明・無回答	61	11.5	36.1	52.5	-	38	21.1	18.4	55.3	5.3	

【地区別】

単位：%

		標本数	同感する	同感しない	どちらともいえない	不明・無回答
全体		758	119	294	388	7
		100.0	15.7	38.8	44.6	0.9
地区別	行橋校区	80	21.3	45.0	33.8	-
	行橋北校区	63	20.6	28.6	49.2	1.6
	行橋南校区	71	9.9	45.1	43.7	1.4
	養島校区	12	25.0	50.0	25.0	-
	今元校区	69	18.8	30.4	50.7	-
	仲津校区	125	17.6	40.0	41.6	0.8
	泉校区	111	9.0	46.8	44.1	-
	今川校区	52	11.5	34.6	53.8	-
	稗田校区	46	19.6	37.0	43.5	-
	延永校区	84	15.5	33.3	48.8	2.4
	椿市校区	19	26.3	21.1	52.6	-
	その他	19	5.3	47.4	47.4	-
	不明・無回答	7	-	42.9	28.6	28.6

<福岡県調査（平成 12 年）より>



[福岡県調査との比較]

今回調査を福岡県調査と比較すると、男女とも「同感する」と答える人の割合が高く、福岡県調査より性別役割分業意識が高いことがうかがえる。

## 2. 男女の立場平等意識

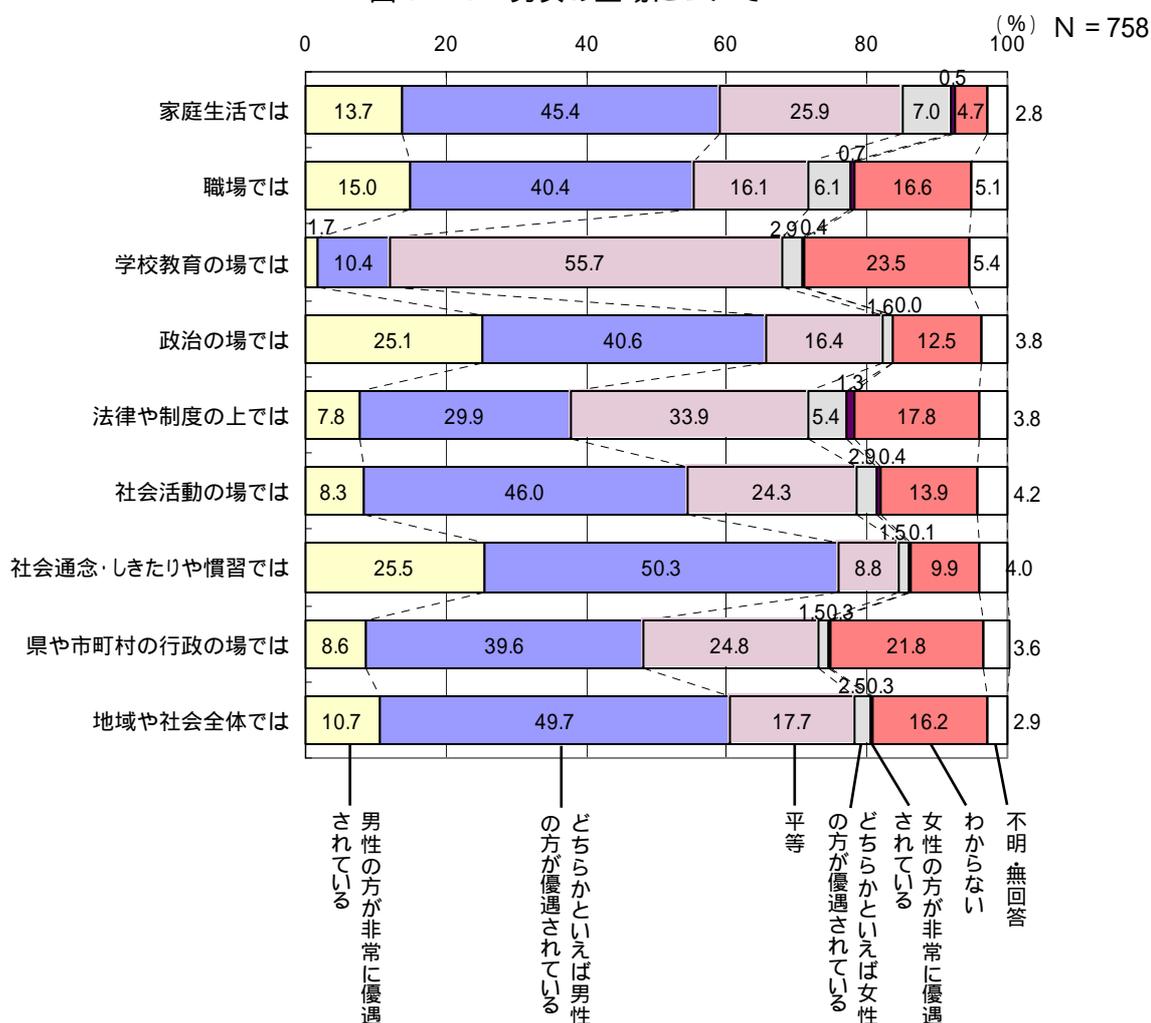
問9 あなたは次にあげるそれぞれの項目で、男女の立場は平等になっていると思いますか。1から9の項目ごとに1つずつ選んで番号に を付けてください。

### 《社会通念やしきたりに男性優位が認識されている》

[全体]

男女の立場の平等意識についてたずねたところ、全体では「学校教育の場」において「平等」が55.7%と半数を超えており、『男性優位』（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の割合12.1%を上回っている。その他の全ての項目では『男性優位』が「平等」を上回っており、学校教育の場は平等という認識がある。特に、「社会通念・しきたりや慣習」（『男性優位』75.8%、「平等」8.8%）については7割以上、「政治の場」（『男性優位』65.7%、「平等」16.4%）、「地域や社会全体」（『男性優位』60.4%、「平等」17.7%）については6割以上が性別による不平等感を認識している。また、「家庭生活」では『男性優位』59.1%、「平等」25.9%となっている。

図1-4 男女の立場について

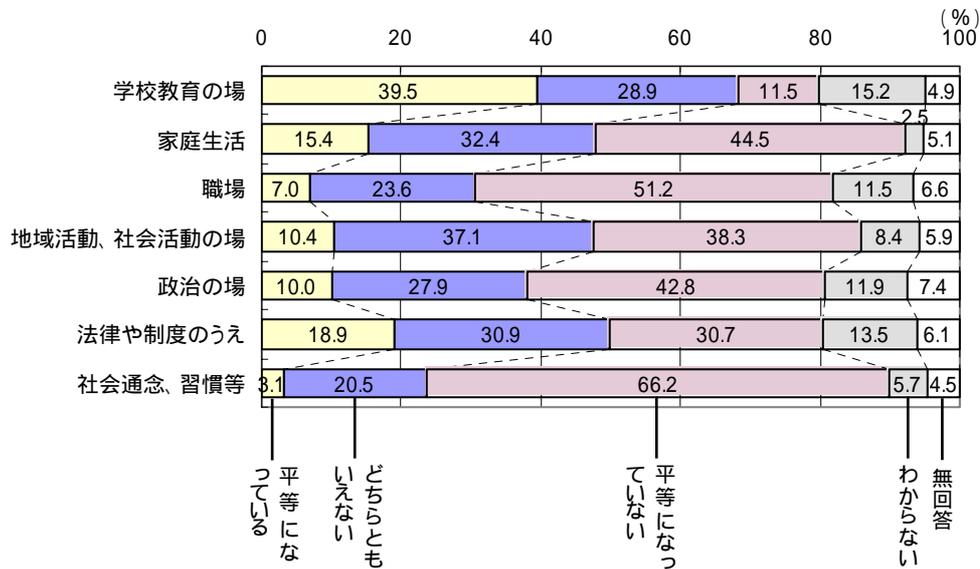


<平成9年8月調査より>

問2 あなたは次にあげる分野で男女平等が表現されていると思いますか。[年齢別、職業別の数表添付]

図1-5 男女平等の浸透度について

N = 512



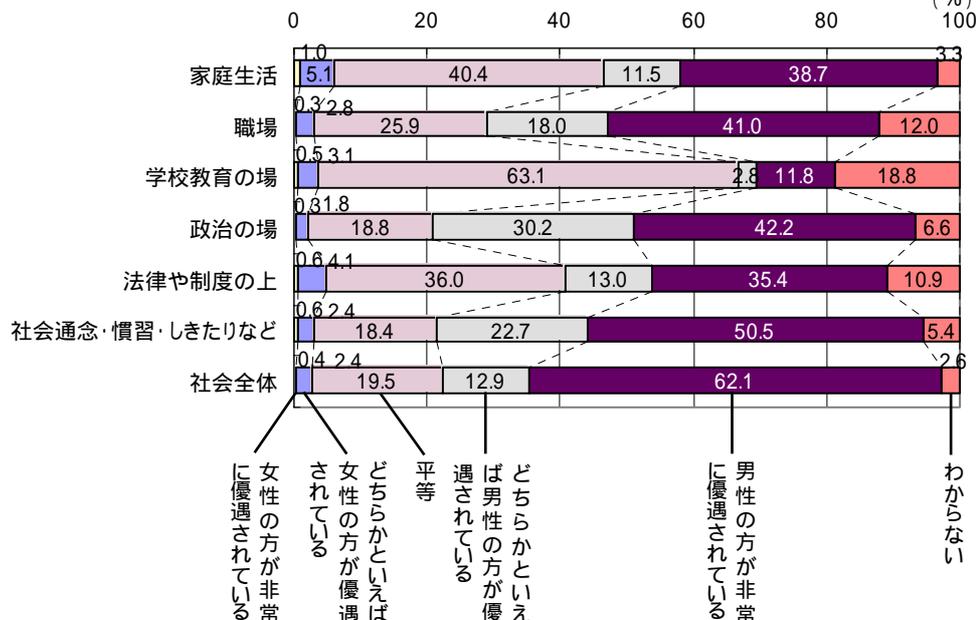
[平成9年8月調査との比較]

前回調査とくらべ、どの項目においても「平等になっている」の割合は高くなっている。その中でも特に「学校教育の場」、「法律や制度の上」、「家庭生活」では、その傾向が顕著に現れており、平等意識の浸透が進んでいることがうかがえる。

<総理府調査(平成14年7月)より>

図1-6 男女の地位について

N = 3,524

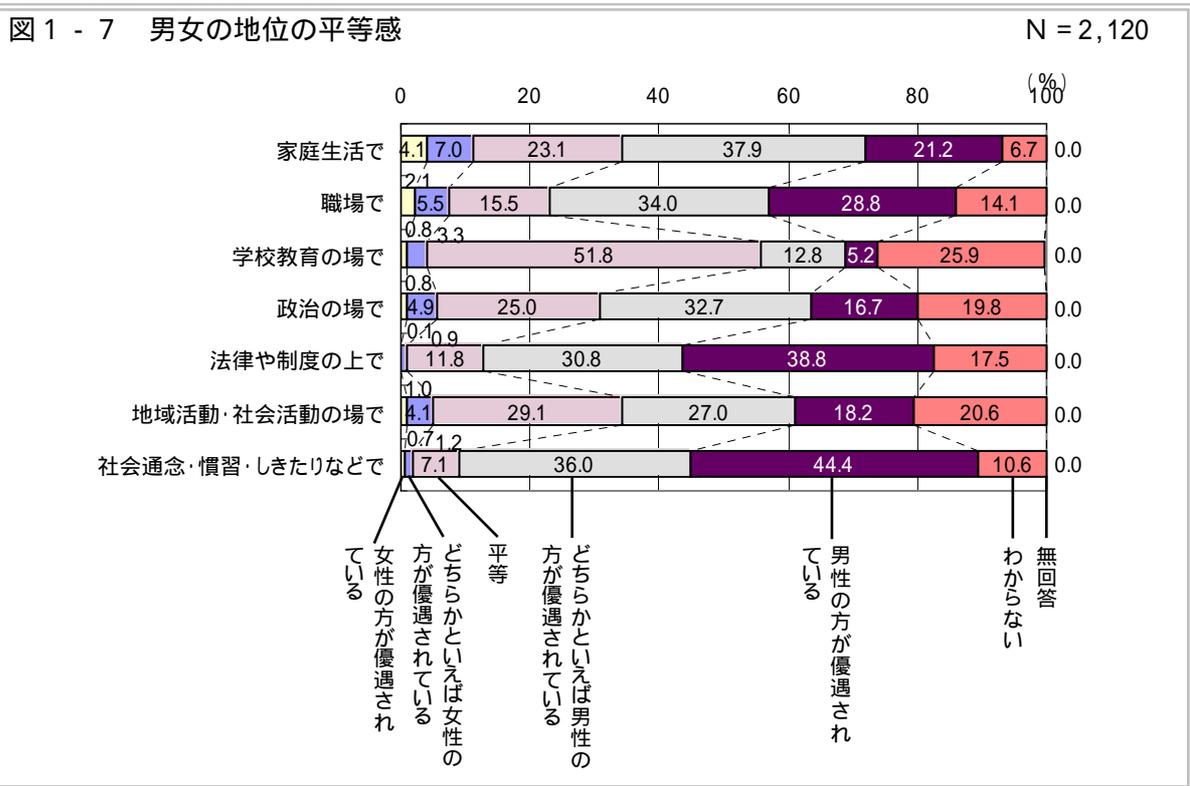


[総理府調査との比較]

今回調査を総理府調査と比較すると、行橋市は社会通念・しきたりや慣習、家庭生活や職場において、『男性優位』との認識が高く、政治の場、法律や制度の上、地域や社会全体にお

いては、『男性優位』との認識は低いことがうかがえる。

<福岡県調査(平成12年)より>



[福岡県調査との比較]

今回調査を福岡県調査と比較すると、福岡県と同様に社会通念・習慣・しきたりにおいて『男性優位』との認識が高く、それに次いで行橋市では政治の場であるが、福岡県は法律や制度の上での方が男性が優遇されていると感じていることがわかる。

問10 問9の「地域や社会全体では」の項目で「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を選んだ方のみお答えください。あなたは、社会全体でみて、男性の方が優遇されている原因は何であると思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで を付けてください。

《男性の方が優遇されている原因は、社会通念や慣習やしきたりなどがトップ》

[全体]

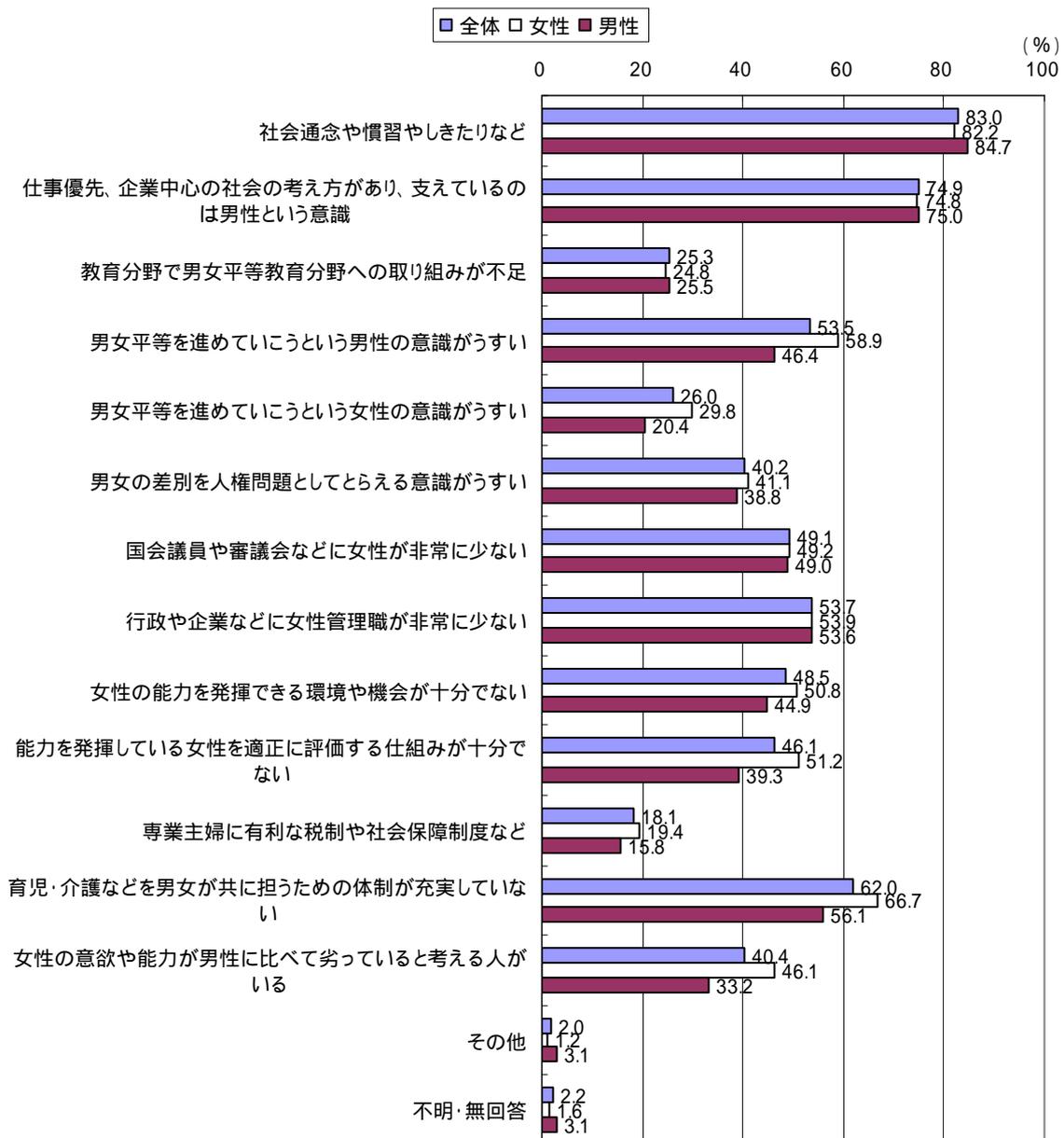
地域や社会全体で男性のほうが優遇されている原因についてたずねたところ、全体では「社会通念や慣習やしきたりなど」が83.0%で最も高く、次いで「仕事優先、企業中心の考え方があり、支えているのは男性という意識」74.9%、「育児・介護などを男女が共に担うための体制が充実していない」62.0%となっている。

[性別]

「社会通念や慣習やしきたりなど」や「仕事優先、企業中心の考え方があり、支えているのは男性という意識」は、男女とも男性の方が優遇されている原因として高くなっている。また、「育児・介護などを男女が共に担うための体制が充実していない」については女性（66.7%）の方が男性（56.1%）より10.6ポイント高くなっている。その他の項目で男女間の意識の差が大きいものは、「女性の意欲や能力が男性にくらべて劣っていると考える人がいる」（女性：46.1%、男性：33.2%）の12.9ポイント、「男女平等を進めていこうという男性の意識がうすい」（女性：58.9%、男性：46.4%）の12.5ポイント、「能力を發揮している女性を適正に評価する仕組みが十分でない」（女性：51.2%、男性：39.3%）の11.9ポイントとなっており、どれも女性の方が高くなっている。

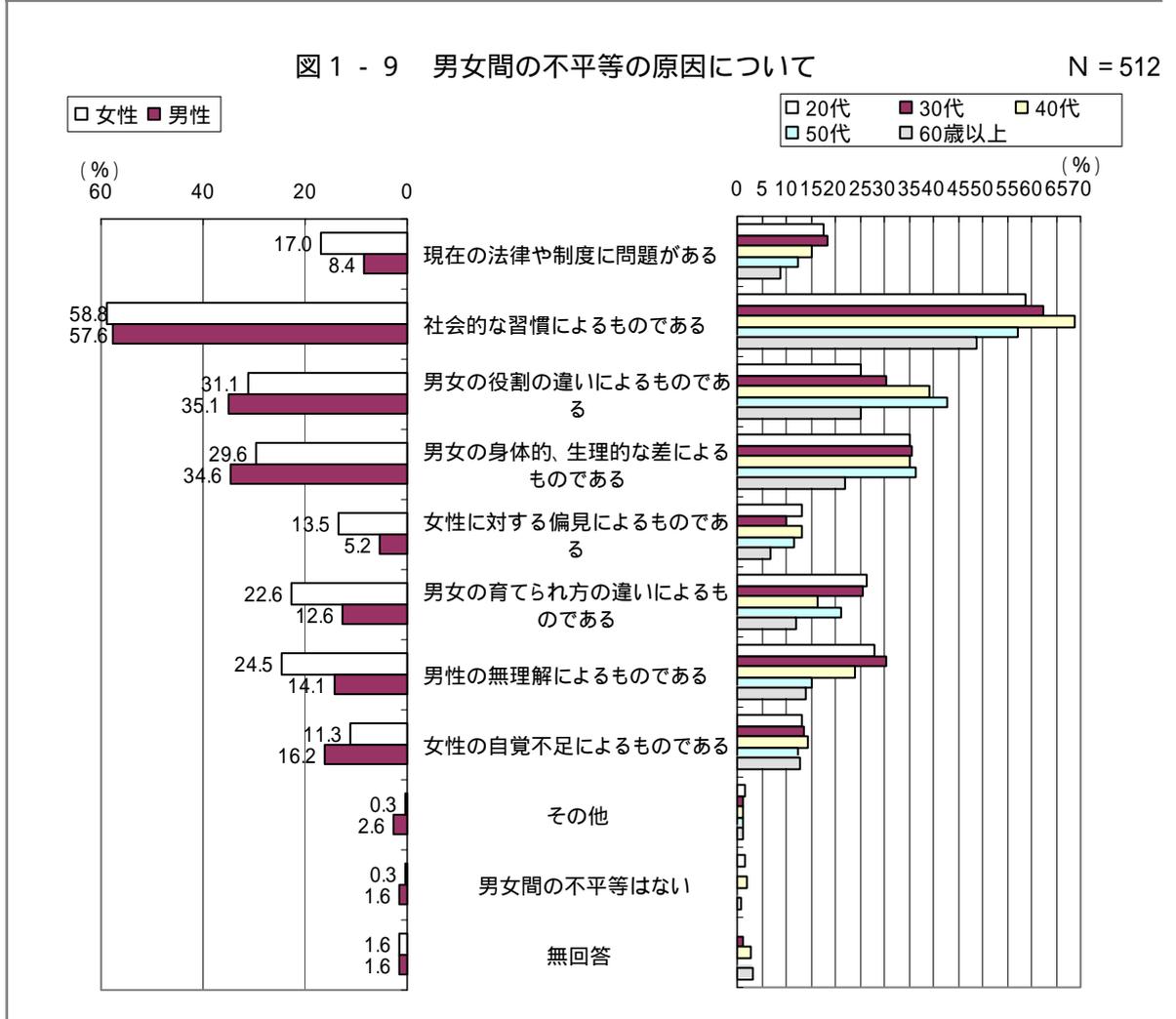
図1 - 8 地域や社会全体で男性の方が優遇されている原因について

全体N = 458、女性N = 258、男性N = 196



<平成9年8月調査より>

問4 現在、社会に残っている男女間の不平等について、あなたは、どのようなことに原因があるとお考えですか。



[平成9年8月調査との比較]

前回調査の項目である「女性の自覚不足によるものである」に注目すると、男性は女性の回答した割合より高くなっている。また、今回調査の「男女平等を進めていこうという女性の意識がうすい」では、女性の方が男性の回答の割合より高くなっている。このことから、女性自身が女性の意識改革の必要性を認識してきていることがうかがえる。



## 第2章 女性の人権について

### 1. 女性の人権

問 11 女性の人権が尊重されていないと感じる時はどんな時ですか。 3つまで選んで を付けてください。

《女性の人権が尊重されていないと感じる時は、夫から妻への暴力やセクシュアル・ハラスメントを受けた時である》

[全体]

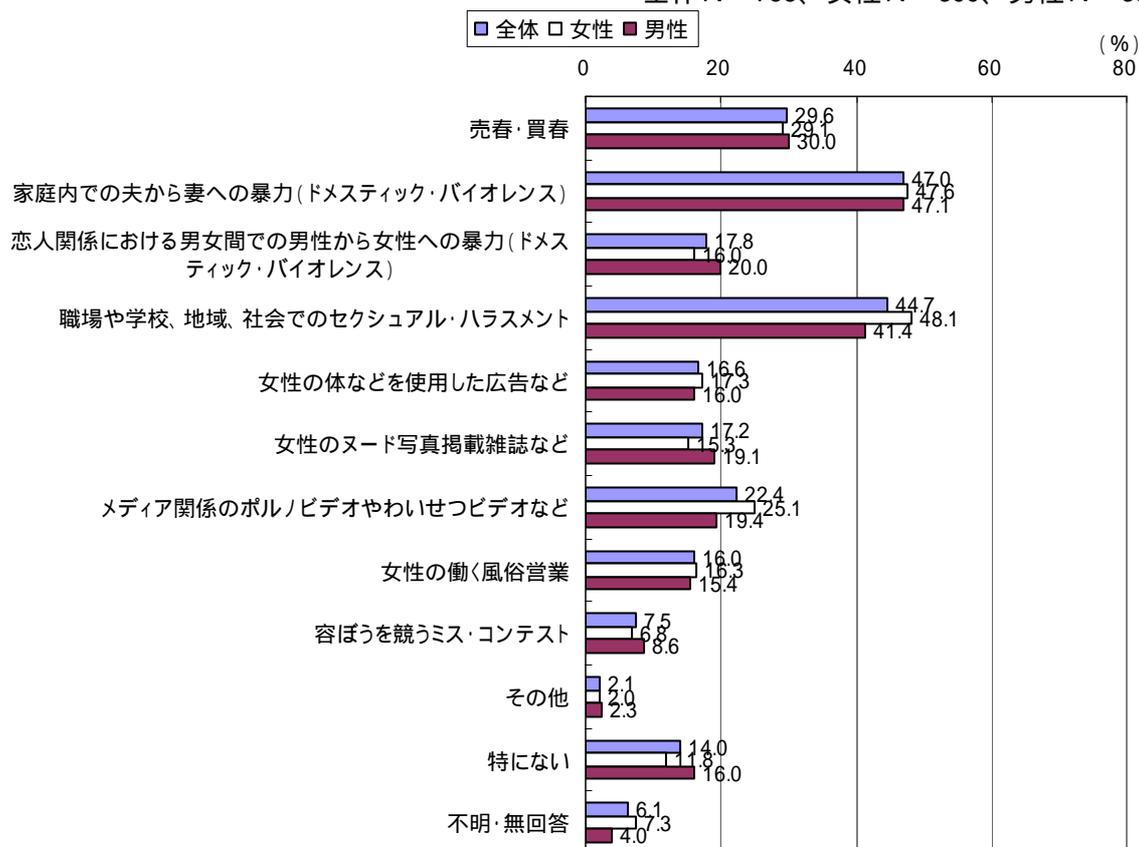
女性の人権が尊重されていないと感じる時についてたずねたところ、全体では「家庭内での夫から妻への暴力(ドメスティック・バイオレンス)」の47.0%、「職場や学校、地域、社会でのセクシュアル・ハラスメント」の44.7%が抜きんでて高く、次いで「売春・買春」の29.6%となっている。

[性別]

男女とも「家庭内での夫から妻への暴力(ドメスティック・バイオレンス)」が女性47.6%、男性47.1%と最も高く、次いで「職場や学校、地域、社会でのセクシュアル・ハラスメント」が女性48.1%、男性41.4%となっている。また、「職場や学校、地域、社会でのセクシュアル・ハラスメント」(女性:48.1%、男性:41.4%)や「メディア関係のポルノビデオやわいせつビデオなど」(女性:25.1%、男性:19.4%)については、女性の方が男性よりも人権が尊重されていないと考える人が多い。また、「特にない」は女性11.8%、男性16.0%となっている。

図2 - 1 女性の人権が尊重されていないと感じる時について

全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



〔調査資料 127 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

## 2. 女性・男性にとって大切だと思うもの

問 12・13 あなたは、日頃、女性・男性にどのようなことが大切だと思っていますか。あなたのお気持ちに最も近いものを3つまで選んで を付けてください。

《女性にとって大切なものは「気配り」と「やさしさ」、男性は「責任感」である》

### 女性にとって大切なこと

[全体]

女性にとって大切なことについてたずねたところ、全体では「気配り」と「やさしさ」が抜きんでて高く、それぞれ 48.8%と 44.9%となっている。

[性別]

「気配り」についてみると、女性（50.9%）は男性（46.9%）より 4 ポイント高く、女性は気配りを大切だと認識している。「やさしさ」についてみると、男性（50.9%）は女性（40.6%）より 10.3 ポイント高く、男性は女性にやさしさが大切だと感じている。

#### [年齢別]

20代、30代では男女とも「気配り」(女性20代:57.8%、30代:50.0%、男性20代:50.0%、30代63.0%)、「やさしさ」(女性20代:40.0%、30代:45.7%、男性20代:58.7%、30代54.3%)、「素直さ」(女性20代:33.3%、30代:28.3%、男性20代:32.6%、30代21.7%)が高くなっている。特に男女とも、どの年齢層も「気配り」、「やさしさ」が高く、女性にとって必要であるという意識が高い。

### 男性にとって大切なこと

#### [全体]

男性にとって大切なことについてたずねたところ、全体では「責任感」が61.9%で抜きんでて高く、次いで「誠実さ」38.5%となっている。

#### [性別]

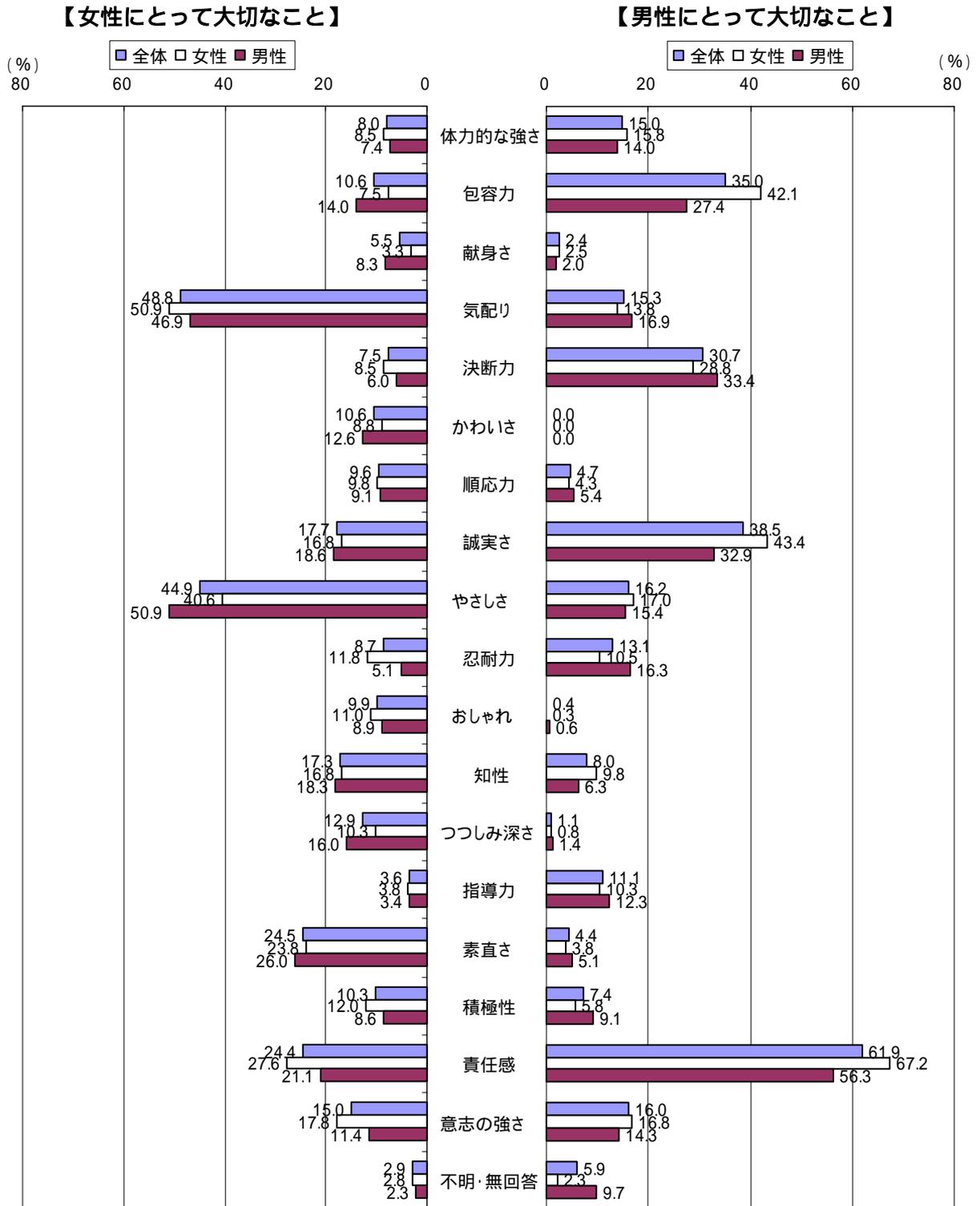
「責任感」についてみると、女性(67.2%)は男性(56.3%)より10.9ポイント高く、女性の方が男性には責任感が大切だと認識している。また、「誠実さ」(女性:43.4%、男性:32.9%)や「包容力」(女性:42.1%、男性:27.4%)についても同様のことが言える。「決断力」についてみると、男性(33.4%)の方が女性(28.8%)より4.6ポイント高く、男性の方が男性は決断力が大切だと認識している。

#### [年齢別]

女性は、どの年齢層においても「責任感」が60%~72%と最も高くなっている。また、それに次いで「包容力」や「誠実さ」がいずれも35%~51%となっている。男性は、女性と同様にどの年齢層も「責任感」が47%~64%と最も高く、それに次いで20代は「決断力」(30.4%)と「忍耐力」(32.6%)、50代は「包容力」(33.8%)と「誠実さ」(35.0%)、それ以外の年齢層では「決断力」と「誠実さ」となっている。

図2 - 2 日頃、女性・男性に大切なことについて

全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



〔調査資料 128～129 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表2 - 3 日頃、女性に大切なことについて【男女年齢別】

単位：%

	標本数	体力的な強さ	包容力	献身さ	気配り	決断力	かわいさ	順心力	誠実さ	やさしさ	忍耐力	おしゃれ	知性	つつしみ深さ	指導力	素直さ	積極性	責任感	意志の強さ	不明・無回答	
女性	399	34	30	13	203	34	35	39	67	162	47	44	67	41	15	95	48	110	71	11	
	100.0	8.5	7.5	3.3	50.9	8.5	8.8	9.8	16.8	40.6	11.8	11.0	16.8	10.3	3.8	23.8	12.0	27.6	17.8	2.8	
年齢別																					
20代	45	8.9	13.3	4.4	57.8	4.4	13.3	4.4	13.3	40.0	11.1	11.1	13.3	4.4	2.2	33.3	13.3	15.6	24.4	-	
30代	46	15.2	4.3	-	50.0	8.7	13.0	17.4	13.0	45.7	15.2	10.9	13.0	6.5	2.2	28.3	13.0	26.1	19.6	-	
40代	71	7.0	4.2	2.8	39.4	11.3	4.2	14.1	19.7	36.6	14.1	11.3	22.5	7.0	7.0	16.9	9.9	29.6	36.6	-	
50代	93	3.2	9.7	2.2	59.1	11.8	8.6	11.8	19.4	39.8	6.5	10.8	17.2	10.8	5.4	20.4	15.1	35.5	11.8	1.1	
60代	76	7.9	7.9	3.9	57.9	7.9	7.9	5.3	14.5	44.7	14.5	17.1	10.5	13.2	2.6	23.7	15.8	27.6	7.9	2.6	
70歳以上	68	13.2	5.9	5.9	39.7	4.4	8.8	5.9	17.6	38.2	11.8	4.4	22.1	16.2	1.5	26.5	4.4	23.5	11.8	11.8	
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
男性	350	26	49	29	164	21	44	32	65	178	18	31	64	56	12	91	30	74	40	8	
	100.0	7.4	14.0	8.3	46.9	6.0	12.6	9.1	18.6	50.9	5.1	8.9	18.3	16.0	3.4	26.0	8.6	21.1	11.4	2.3	
年齢別																					
20代	46	2.2	19.6	2.2	50.0	-	28.3	4.3	17.4	58.7	4.3	13.0	15.2	6.5	-	32.6	2.2	4.3	19.6	2.2	
30代	46	4.3	17.4	13.0	63.0	4.3	4.3	15.2	4.3	54.3	8.7	6.5	15.2	13.0	4.3	21.7	17.4	19.6	17.4	-	
40代	42	9.5	14.3	4.8	50.0	4.8	11.9	2.4	26.2	54.8	2.4	11.9	16.7	11.9	4.8	33.3	7.1	21.4	7.1	4.8	
50代	80	8.8	8.8	10.0	43.8	7.5	13.8	8.8	21.3	50.0	5.0	8.8	16.3	15.0	3.8	20.0	12.5	25.0	10.0	3.8	
60代	79	7.6	13.9	8.9	38.0	10.1	10.1	13.9	15.2	41.8	3.8	6.3	22.8	27.8	1.3	31.6	6.3	25.3	8.9	1.3	
70歳以上	57	10.5	14.0	8.8	45.6	5.3	8.8	7.0	26.3	52.6	7.0	8.8	21.1	14.0	7.0	19.3	5.3	24.6	8.8	1.8	
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

表2 - 4 日頃、男性に大切なことについて【男女年齢別】

単位：%

	標本数	体力的な強さ	包容力	献身さ	気配り	決断力	かわいさ	順心力	誠実さ	やさしさ	忍耐力	おしゃれ	知性	つつしみ深さ	指導力	素直さ	積極性	責任感	意志の強さ	不明・無回答	
女性	399	63	168	10	55	115	-	17	173	68	42	1	39	3	41	15	23	268	67	9	
	100.0	15.8	42.1	2.5	13.8	28.8	-	4.3	43.4	17.0	10.5	0.3	9.8	0.8	10.3	3.8	5.8	67.2	16.8	2.3	
年齢別																					
20代	45	11.1	48.9	2.2	11.1	24.4	-	2.2	42.2	20.0	4.4	-	11.1	-	4.4	6.7	8.9	64.4	28.9	-	
30代	46	21.7	50.0	4.3	10.9	21.7	-	6.5	41.3	26.1	8.7	-	15.2	-	2.2	4.3	8.7	69.6	17.4	2.2	
40代	71	11.3	45.1	1.4	12.7	29.6	-	4.2	43.7	18.3	15.5	-	15.5	-	5.6	4.2	7.0	66.2	12.7	-	
50代	93	11.8	41.9	-	10.8	36.6	-	2.2	50.5	12.9	8.6	-	6.5	-	16.1	1.1	5.4	72.0	22.6	-	
60代	76	19.7	36.8	3.9	21.1	31.6	-	7.9	35.5	14.5	10.5	1.3	5.3	2.6	11.8	2.6	5.3	68.4	11.8	2.6	
70歳以上	68	20.6	35.3	4.4	14.7	22.1	-	2.9	44.1	16.2	13.2	-	8.8	1.5	14.7	5.9	1.5	60.3	10.3	8.8	
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
男性	350	49	96	7	59	117	-	19	115	54	57	2	22	5	43	18	32	197	50	34	
	100.0	14.0	27.4	2.0	16.9	33.4	-	5.4	32.9	15.4	16.3	0.6	6.3	1.4	12.3	5.1	9.1	56.3	14.3	9.7	
年齢別																					
20代	46	13.0	26.1	2.2	8.7	30.4	-	4.3	28.3	21.7	32.6	-	13.0	-	10.9	10.9	4.3	52.2	21.7	4.3	
30代	46	8.7	26.1	-	21.7	41.3	-	8.7	30.4	19.6	19.6	-	6.5	-	8.7	4.3	8.7	58.7	17.4	6.5	
40代	42	9.5	26.2	-	11.9	38.1	-	7.1	28.6	19.0	19.0	-	4.8	2.4	7.1	9.5	19.0	47.6	16.7	11.9	
50代	80	11.3	33.8	-	21.3	32.5	-	5.0	35.0	17.5	17.5	1.3	2.5	2.5	12.5	-	7.5	63.8	13.8	7.5	
60代	79	19.0	29.1	2.5	19.0	34.2	-	3.8	36.7	7.6	12.7	1.3	6.3	-	15.2	8.9	11.4	60.8	7.6	7.6	
70歳以上	57	19.3	19.3	7.0	14.0	26.3	-	5.3	33.3	12.3	1.8	-	7.0	3.5	15.8	-	5.3	47.4	14.0	21.1	
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

### 3. 妻に対する夫の行為について

問14 妻に対する夫の行為について、あなたはどのように思いますか。項目ごとに、「どんなことがあっても許されない」、「場合によっては許される」、「許される」のいずれかを選んで番号に を付けてください。

《大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりするのは、  
どんなことがあっても許されない行為のトップ》

[全体]

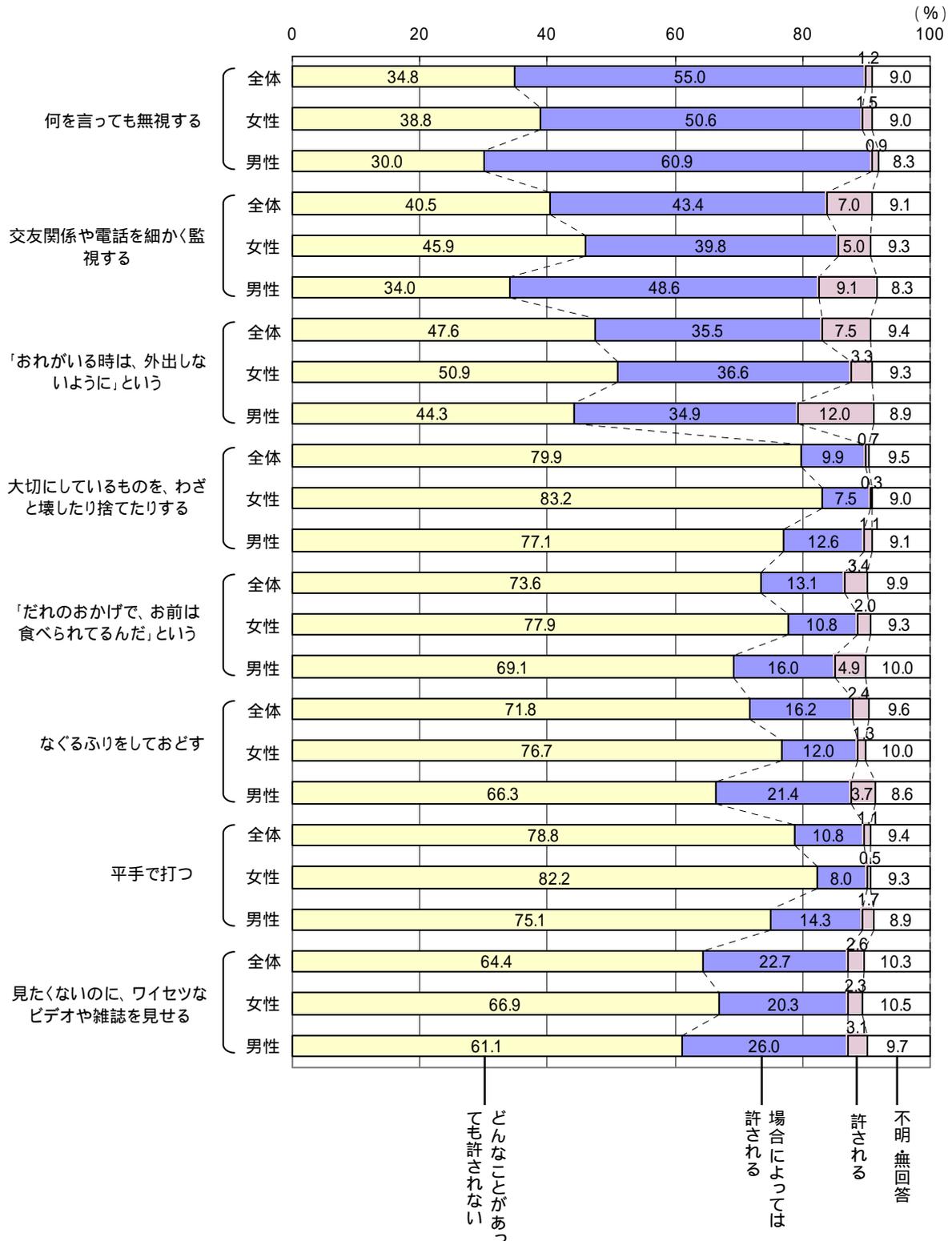
妻に対する夫の行為についてたずねたところ、全体では「どんなことがあっても許されない」と『条件により許される』（「場合によっては許される」+「許される」）を基準とすると、「何を言っても無視する」56.2%、「交友関係や電話を細かく監視する」50.4%は『条件により許される』が高く、それ以外の項目は、「どんなことがあっても許されない」の方が高くなっている。

[性別]

男性はほとんどの項目で「場合によっては許される」、「許される」が女性を上回っている。特に、「おれがいる時は、外出しないように」という項目における「許される」への回答では、女性3.3%、男性12.0%と男女差が大きいことがわかる。

図2 - 5 妻に対する夫の行為について

全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



〔調査資料 130 ~ 132 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

## 4. 夫や男性からの暴力について

問 15 女性の方におたずねします。家庭、職場、地域での夫や男性からの暴力について、項目ごとにあてはまるものをすべて選んで枠内に を付けてください。

### 《夫や男性からの暴力は言葉による暴力が最も多い》

[全体]

夫や男性からの暴力についてたずねたところ、全体でみると、「言葉による暴力など精神的暴力を受けたことがある」が最も高くなっている。夫や男性による暴力は、どの状況においても言葉による暴力など精神的暴力が多い。また、すべての項目において回答している人がおり、男性からの暴力は、言葉による精神的な暴力だけではないことがわかる。

[家庭]

家庭での夫や男性からの暴力についてたずねると、「言葉による暴力など精神的暴力を受けたことがある」が 16.3%と最も高く、次いで「器物損害等により威かきされるなどの恐怖感を与える暴力を受けたことがある」8.0%となっている。また、「入院や通院を必要とする肉体的暴力を受けたことがある」2.5%、「性的暴力を受けたことがある」1.8%も含め、すべての項目に回答がみられる。

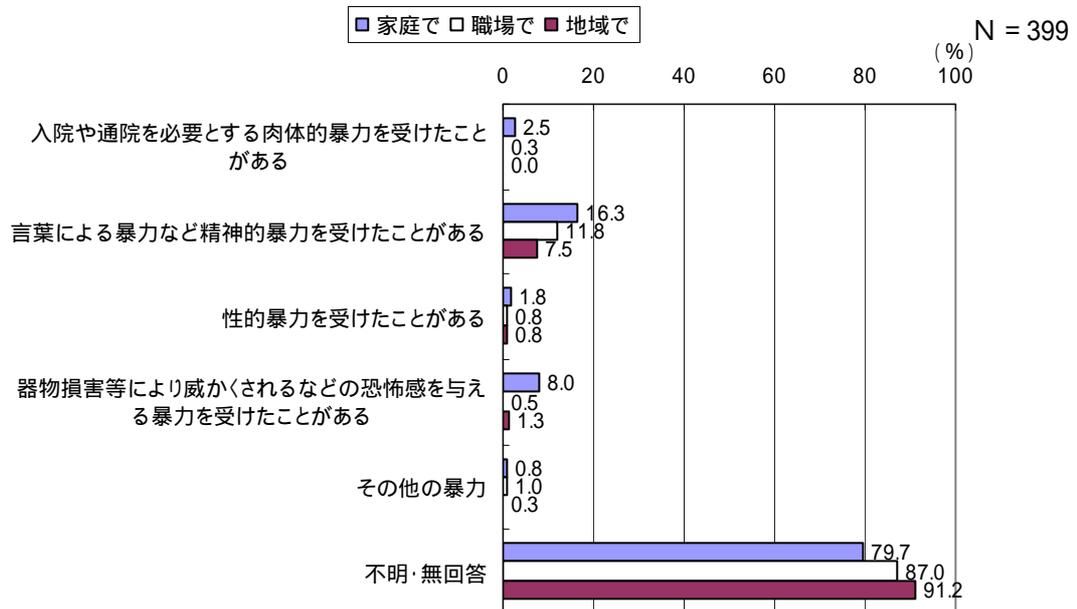
[職場]

職場での夫や男性からの暴力についてたずねると、「言葉による暴力など精神的暴力を受けたことがある」が 11.8%と最も高く、次いで「性的暴力を受けたことがある」0.8%となっている。

[地域]

地域での夫や男性からの暴力についてたずねると、「言葉による暴力など精神的暴力を受けたことがある」が 7.5%と最も高く、次いで「器物損害等により威かきされるなどの恐怖感を与える暴力を受けたことがある」1.3%、「性的暴力を受けたことがある」0.8%となっている。

図 2 - 6 夫や男性からの暴力について





### 第3章 結婚について

#### 1. 結婚観

問 16 結婚についてどのようにお考えですか。次の中から 1つだけ選んで を付けてください。

#### 《女性より男性の方が結婚した方がよいという意識が高い》

[全体]

結婚観についてたずねたところ、全体では「どちらかといえば結婚したほうがよい」が54.4%で最も高く、「絶対、結婚すべきである」とあわせた『結婚をした方がよいと認識している層』は66.7%となっている。一方、『結婚しない方がよいと認識している層』（「どちらかといえば結婚しないほうがよい」+「絶対、結婚しないほうがよい」）は1.7%である。

[性別]

男性の「絶対、結婚すべきである」は16.6%で、女性の8.3%の2倍以上あり、『結婚をした方がよいと認識している層』（男性71.5%、女性62.4%）も、男性は女性を上回っている。一方、『結婚をしない方がよいと認識している層』（男性1.1%、女性2.3%）は、女性が男性を若干上回っており、女性よりも男性の方が結婚する方がよいという意識が高い。

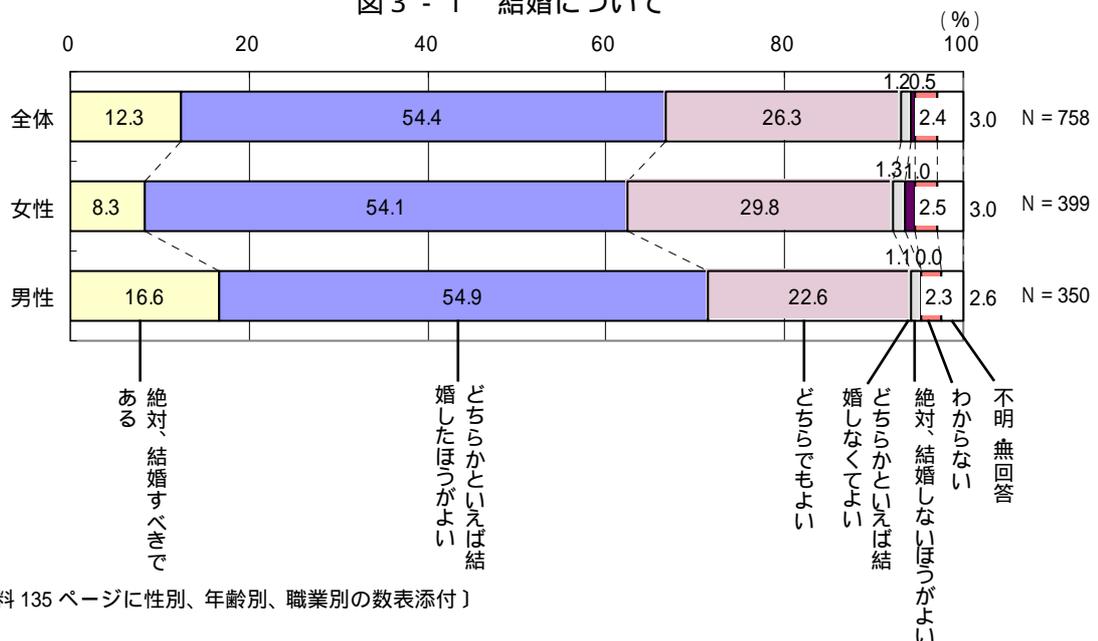
[年齢別]

女性についてみると、20代では「どちらでもよい」が40.0%で最も高くなっており、40代以上では「どちらかといえば結婚したほうがよい」が53%～63%で最も高くなっている。

男性についてみると、どの年齢層でも「どちらかといえば結婚したほうがよい」が45%～64%で高くなっている。また、『結婚をした方がよいと認識している層』についてみると、30代（52.2%）は20代（60.9%）より低くなっている。

女性20代と男性30代の結婚が身近に感じられる年齢層で「どちらでもよい」（女性20代：40.0%、男性30代：45.7%）の回答が高くなっているが、男女とも年齢が高くなるとともに『結婚をした方がよいと認識している層』の割合が高くなる傾向にある。

図3-1 結婚について



[調査資料 135 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付]

表3 - 3 結婚についての考え【男女年齢係別】

単位：%

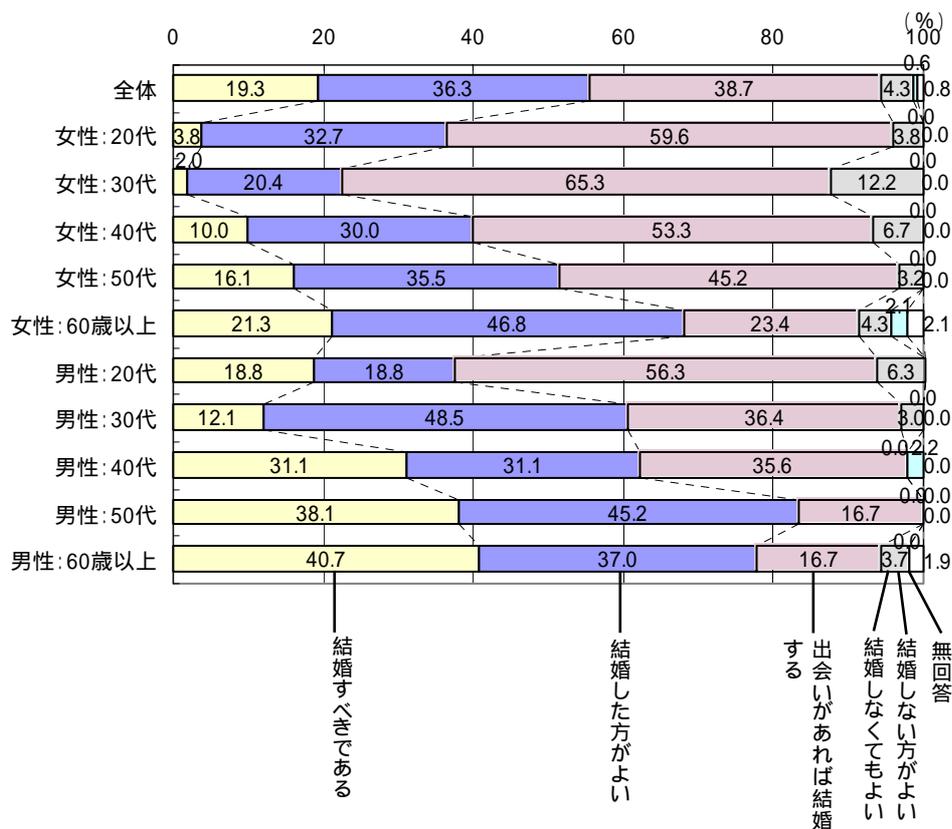
		標本数	絶対、結婚すべきである	よし、結婚したほうがよい	どちらかといえば、結婚したほうがよい	どちらかといえば、結婚したほうがよい	いさぐたく結婚したほうがよい	がよい	絶対、結婚しないほう	わからない	不明・無回答
女性		399 100.0	33 8.3	216 54.1	119 29.8	5 1.3	4 1.0	10 2.5	12 3.0		
年齢別	20代	45	13.3	35.6	40.0	2.2	2.2	4.4	2.2		
	30代	46	6.5	43.5	43.5	-	-	6.5	-		
	40代	71	7.0	53.5	33.8	1.4	2.8	-	-	1.4	
	50代	93	6.5	62.4	29.0	2.2	-	-	-	-	
	60代	76	10.5	57.9	25.0	-	1.3	1.3	3.9		
	70歳以上	68	7.4	58.8	16.2	1.5	-	5.9	10.3		
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
男性		350 100.0	58 16.6	192 54.9	79 22.6	4 1.1	-	8 2.3	9 2.6		
年齢別	20代	46	8.7	52.2	32.6	6.5	-	-	-		
	30代	46	6.5	45.7	45.7	-	-	2.2	-		
	40代	42	4.8	61.9	28.6	2.4	-	2.4	-		
	50代	80	22.5	51.3	17.5	-	-	3.8	5.0		
	60代	79	17.7	63.3	13.9	-	-	1.3	3.8		
	70歳以上	57	29.8	52.6	10.5	-	-	3.5	3.5		
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

<平成9年8月調査より>

問7 あなたは「結婚」についてどの様にお考えですか。

図3 - 2 結婚についての考え

N = 512



[平成9年8月調査との比較]

前回調査では全体で見ると、「結婚すべきである」が19.3%であるのに対し、今回調査では「絶対、結婚すべきである」12.3%となっており、必ず結婚をしたほうがよいと思っている人はやや低くなっていることがわかる。

## 2. 選択的夫婦別姓制度について

問 17 「選択的夫婦別姓制度」について賛同しますか。次の中から1つだけ選んで を付けてください。

《女性の方が選択的夫婦別姓に賛成する割合が高い》

[全体]

選択的夫婦別姓制度についてたずねたところ、全体では「どちらでもよい」が42.7%で最も高く、次いで「賛同しない」32.7%、「賛同する」21.5%となっている。

[性別]

女性の「賛同する」は23.8%で男性の19.4%を上回っている。一方、男性の「賛同しない」は38.0%で女性の27.3%を上回っており、男性の方が夫婦同姓を望んでいる人が多い。

[年齢別]

「賛同しない」が最も高いのは、70歳以上の男女（女性：42.6%、男性：43.9%）、60代の男性（51.9%）であり、それ以外の年齢層では「どちらでもよい」が最も高くなっている。また、60歳以上の男女は、他の年齢層に比べ「賛同する」が低くなっており、夫婦同姓の意識が高いことがうかがえる。

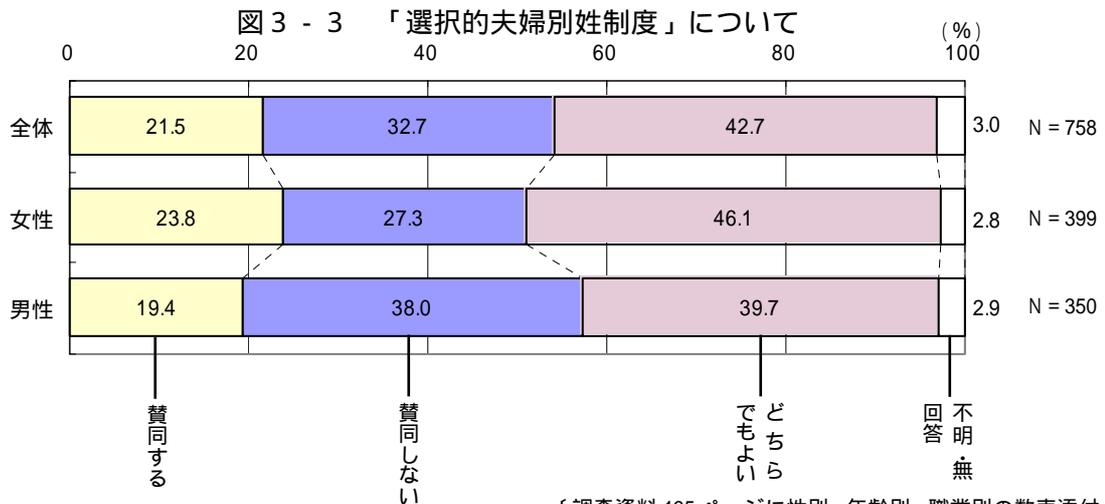


表3-6 「選択的夫婦別姓制度」について【男女年齢別】

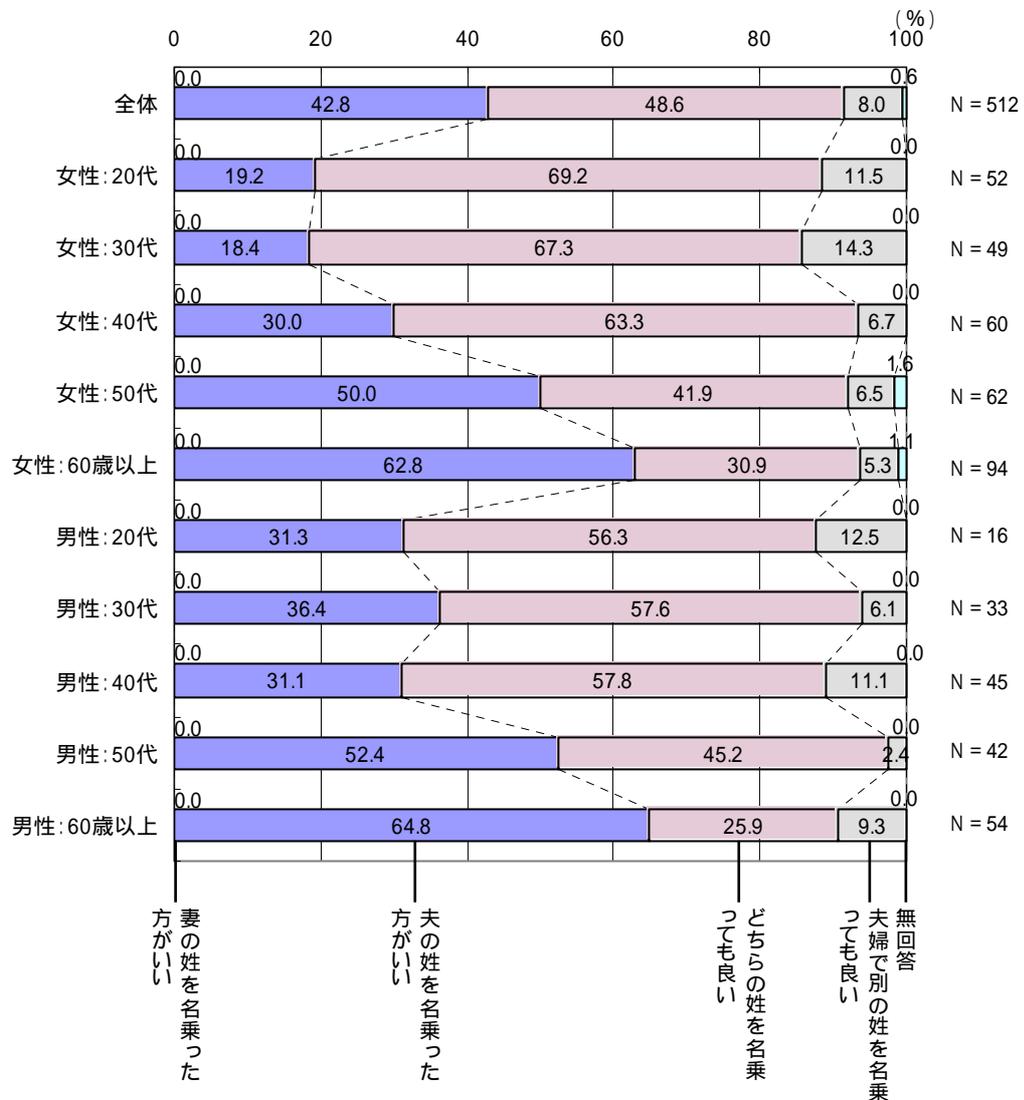
単位：%

	女性					男性					
	標本数	賛同する	賛同しない	どちらでもよい	不明・無回答	標本数	賛同する	賛同しない	どちらでもよい	不明・無回答	
全体	399 100.0	95 23.8	109 27.3	184 46.1	11 2.8	350 100.0	68 19.4	133 38.0	139 39.7	10 2.9	
年齢別	20代	45	26.7	26.7	44.4	2.2	46	28.3	23.9	47.8	-
	30代	46	34.8	10.9	54.3	-	46	10.9	32.6	56.5	-
	40代	71	38.0	14.1	46.5	1.4	42	23.8	28.6	45.2	2.4
	50代	93	21.5	25.8	52.7	-	80	21.3	36.3	37.5	5.0
	60代	76	11.8	38.2	47.4	2.6	79	15.2	51.9	27.8	5.1
	70歳以上	68	16.2	42.6	30.9	10.3	57	19.3	43.9	35.1	1.8
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

<平成9年8月調査より>

問8 結婚後の「姓」のあり方について、あなたはどのように思いますか。

図3-4 結婚後の「姓」について



[平成9年8月調査との比較]

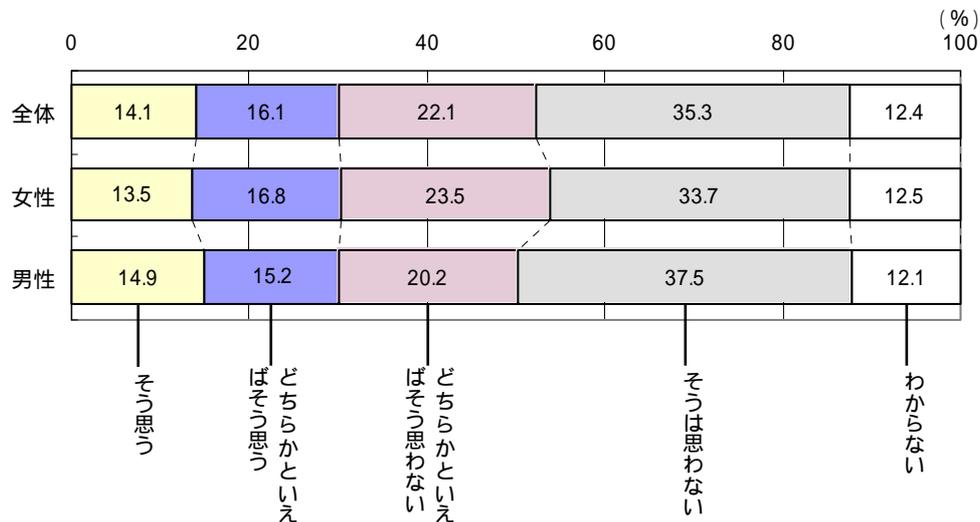
前回調査では、「夫婦で別の姓を名乗っても良い」が全体では8.0%であったものが、今回調査では「賛同する」が全体では21.5%と高くなっていることから、「選択的夫婦別姓制度」に対する意識が高くなっていることがうかがえる。

「夫婦で別の姓を名乗っても良い」と「賛同する」をくらべると、男女とも、どの年齢層でも「賛同する」が高くなっており、女性の方がその増加率は高い。特に、30~40代の女性の増加率が最も高くなっている。前回調査とくらべ「選択的夫婦別姓制度」の意識は男女とも高くなっている。

<福岡県調査（平成12年）より>

問8 現在、結婚すると夫婦は同じ姓を名乗ることになっていますが、「夫婦が別々の姓を名乗ることができる夫婦別姓を選択できるようにすべきだ」という考え方があります。あなたはこのことについて、どのように思いますか。

図3 - 5 選択的夫婦別姓選択制について 全体N = 2,120、女性N = 1,206、男性N = 914



[福岡県調査との比較]

「選択的夫婦別姓制度」について、全体で見ると、福岡県調査では「そう思う」が14.1%、今回調査では「賛同する」21.5%となっている。性別で見ると、福岡県調査では「そう思う」が女性よりも男性の方が高く、今回調査では「賛同する」が女性の方が男性よりも高くなっている。行橋市の女性は「選択的夫婦別姓制度」を容認する割合が高いことがうかがえる。

### 3. 晩婚化について

問18 日本では晩婚化が進んでいますが、「女性の晩婚化の理由」についてあなたはどのようにお考えですか。また、「男性の晩婚化の理由」についてはどうですか。あてはまるものをすべて選んで番号に を付けてください。

《女性の晩婚化の原因は、女性が仕事をもち、経済力が向上したからである》

#### 女性の晩婚化の理由

[全体]

女性の晩婚化の理由についてたずねたところ、全体では「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した」が72.2%で最も高く、結婚観に経済力が大きく影響していることがうかがえる。

[性別]

「独身生活の方が自由である」(女性：65.2%、男性：55.1%)、「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」(女性：46.4%、男性：40.0%)、「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した」(女性：75.2%、男性：69.7%)については、それぞれ女性の方が男性より5ポイント以上高くなっている。

#### [年齢別]

女性の40代と男性の30代では「独身生活の方が自由である」(女性40代：77.5%、男性30代：69.6%)が最も高いが、それ以外の男女、各年齢層とも「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した」が最も高くなっている。また、女性では30代、40代、男性では20代、30代が「家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい」(女性30代：63.0%、40代：54.9%、男性20代：54.3%、30代：45.7%)への回答も高くなっており、男女とも女性は結婚すると自由が制限されると認識していることがうかがえる。

### 男性の晩婚化の理由

#### [全体]

男性の晩婚化の理由についてたずねたところ、全体では「独身生活の方が自由である」が66.2%で抜きんでて高く、結婚による束縛から逃れたい傾向がうかがえる。

#### [性別]

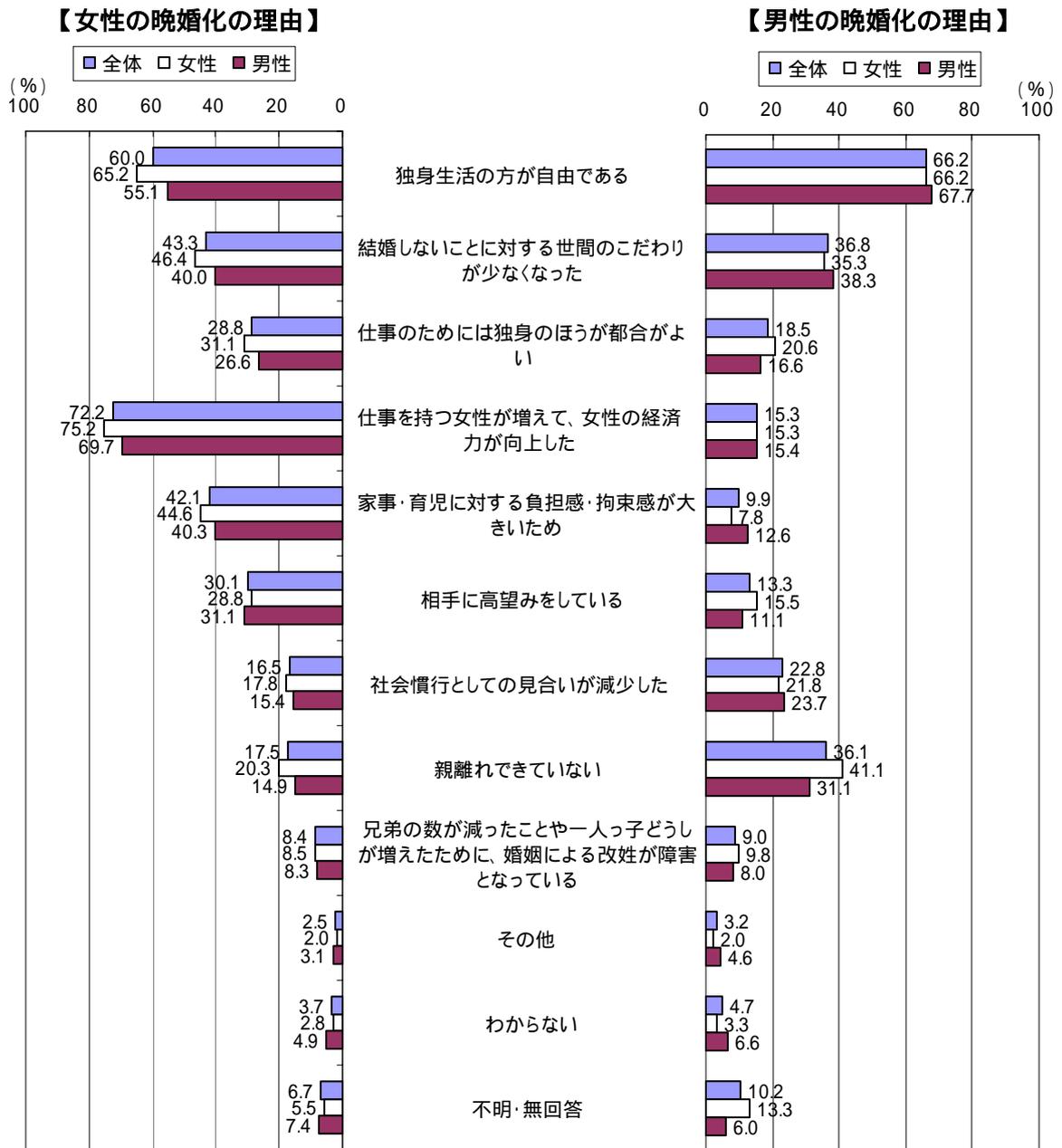
「独身生活の方が自由である」(女性：66.2%、男性：67.7%)、「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」(女性：35.3%、男性：38.3%)については、男女とも男性の晩婚化の原因として認識している。また、「親離れができていない」については、女性(41.1%)が男性(31.1%)より10ポイント高くなっている。

#### [年齢別]

男女とも各年齢層において、「独身生活の方が自由である」が最も高く、次いで20代の女性は「仕事のためには独身の方が都合がよい」37.8%、30～50代の女性、男性のほとんどの年齢層においては「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」や「親離れできていない」が高くなっている。

図3 - 6 女性・男性の晩婚化の理由

全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



[調査資料 136 ~ 137 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付]

表3 - 7 女性・男性の晩婚化の理由【男女年齢別】

単位：%

		標本数	独身生活の方が自由である	結婚しないことに対する世間の こだわりが少なくなった	仕事のためには独身のほうが都合がよい	仕事を増やして女性の 経済力が向上した	家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい	相手に高望みをしている	社会慣行としての見合いが減少した	親離れできていない	兄弟の数が減ったことや一人っ子が増えたために、婚姻による改姓が障害となっている	その他	わからない	不明・無回答	
女性の晩婚化の理由	女性	399 100.0	260 65.2	180 46.4	124 31.1	300 75.2	178 44.6	115 28.8	71 17.8	81 20.3	34 8.5	8 2.0	11 2.8	22 5.5	
	20代	45	77.8	55.6	53.3	80.0	48.9	24.4	6.7	17.8	2.2	-	-	-	
	30代	46	76.1	43.5	34.8	80.4	63.0	43.5	4.3	28.3	13.0	6.5	-	-	
	40代	71	77.5	46.5	42.3	76.1	54.9	22.5	8.5	31.0	11.3	1.4	-	4.2	
	50代	93	63.4	51.6	21.5	80.6	48.4	34.4	23.7	20.4	2.2	1.1	2.2	2.2	
	60代	76	64.5	51.3	25.0	73.7	32.9	25.0	31.6	11.8	6.6	3.9	3.9	6.6	
	70歳以上	68	39.7	29.4	22.1	61.8	26.5	25.0	20.6	14.7	17.6	-	8.8	17.6	
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性	350 100.0	193 55.1	140 40.0	93 26.6	244 69.7	141 40.3	109 31.1	54 15.4	52 14.9	29 8.3	11 3.1	17 4.9	26 7.4	
	20代	46	54.3	28.3	28.3	63.0	54.3	26.1	4.3	13.0	10.9	-	4.3	6.5	
30代	46	69.6	37.0	21.7	65.2	45.7	41.3	8.7	19.6	4.3	6.5	6.5	4.3		
40代	42	47.6	40.5	23.8	66.7	33.3	40.5	9.5	9.5	9.5	4.8	4.8	7.1		
50代	80	58.8	48.8	23.8	76.3	40.0	28.8	17.5	18.8	6.3	-	5.0	3.8		
60代	79	57.0	45.6	31.6	70.9	41.8	29.1	20.3	16.5	7.6	5.1	6.3	10.1		
70歳以上	57	42.1	31.6	28.1	70.2	28.1	26.3	24.6	8.8	12.3	3.5	1.8	12.3		
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
男性の晩婚化の理由	女性	399 100.0	264 66.2	141 35.3	82 20.6	61 15.3	31 7.8	62 15.5	87 21.8	164 41.1	39 9.8	8 2.0	13 3.3	53 13.3	
	20代	45	75.6	35.6	37.8	15.6	15.6	20.0	11.1	35.6	2.2	-	4.4	11.1	
	30代	46	84.8	39.1	21.7	15.2	8.7	21.7	13.0	43.5	10.9	4.3	-	4.3	
	40代	71	73.2	32.4	18.3	15.5	7.0	23.9	11.3	53.5	12.7	1.4	1.4	11.3	
	50代	93	66.7	36.6	15.1	19.4	4.3	5.4	32.3	41.9	9.7	3.2	2.2	6.5	
	60代	76	67.1	44.7	18.4	9.2	10.5	15.8	26.3	40.8	5.3	2.6	5.3	14.5	
	70歳以上	68	38.2	23.5	20.6	16.2	4.4	13.2	26.5	29.4	16.2	-	5.9	30.9	
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性	350 100.0	237 67.7	134 38.3	58 16.6	54 15.4	44 12.6	39 11.1	83 23.7	109 31.1	28 8.0	16 4.6	23 6.6	21 6.0	
	20代	46	73.9	30.4	13.0	17.4	21.7	13.0	8.7	28.3	8.7	2.2	4.3	4.3	
30代	46	84.8	39.1	13.0	15.2	13.0	19.6	26.1	30.4	10.9	8.7	2.2	-		
40代	42	71.4	23.8	9.5	26.2	11.9	9.5	14.3	33.3	4.8	4.8	7.1	7.1		
50代	80	68.8	46.3	20.0	10.0	10.0	10.0	28.8	36.3	7.5	-	6.3	7.5		
60代	79	64.6	45.6	24.1	16.5	12.7	11.4	30.4	32.9	6.3	5.1	10.1	7.6		
70歳以上	57	49.1	33.3	12.3	12.3	8.8	5.3	24.6	22.8	10.5	8.8	7.0	7.0		
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

## 4 . 離婚について

問 19 あなたは離婚についてどのようにお考えでしょうか。 1つだけ選んで を付けてください。

《「我慢して離婚しないほうがよい」と考えるのは、男性の方が多い》

[全体]

離婚についてたずねたところ、全体では「離婚を考えるほどの問題があれば離婚もやむを得ない」が62.0%で最も高く、次いで「なるべくなら我慢して離婚しないほうがよい」24.9%となっており、離婚はそれほどの問題があればやむを得ないという意識が高くなっている。

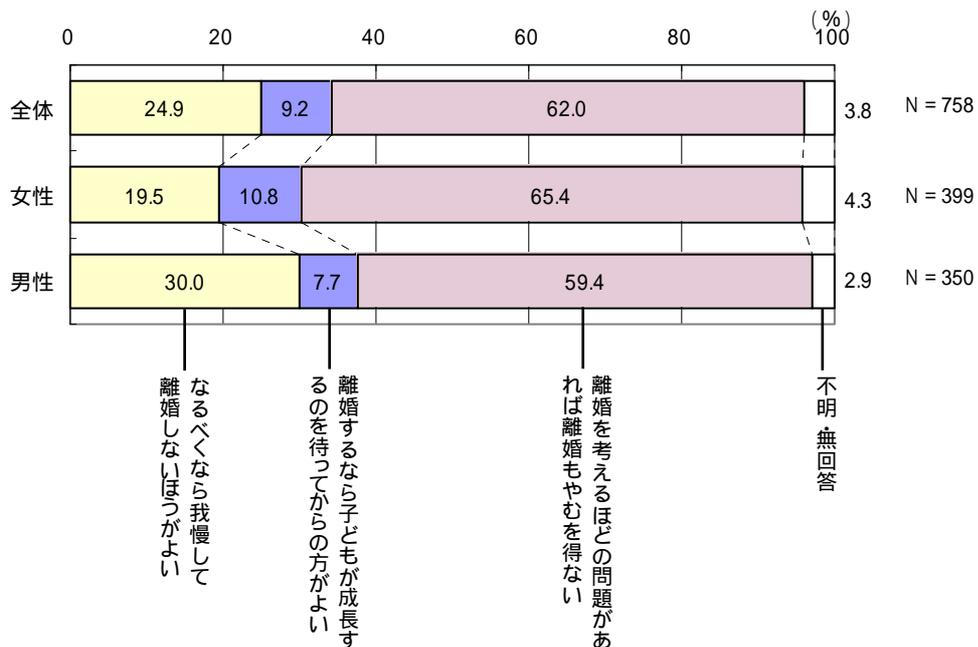
[性別]

「なるべくなら我慢して離婚しないほうがよい」についてみると、男性（30.0%）が女性（19.5%）より10.5ポイント高い。また、『離婚を容認する』（離婚するなら子どもが成長するのを待つてからの方がよい+離婚を考えるほどの問題があれば離婚もやむを得ない）については、女性76.2%に対し、男性は67.1%と女性より9.1ポイント低く、男性は離婚に消極的なことがうかがえる。

[年齢別]

年齢別でみると、「なるべくなら我慢して離婚しないほうがよい」は男性の60歳以上（60代：36.7%、70歳以上：42.1%）と女性の70歳以上（35.3%）で、他の年齢層に比べ高くなっており、高い年齢層では我慢して離婚しないことが認識されている。

図3 - 8 離婚について



〔調査資料 138 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

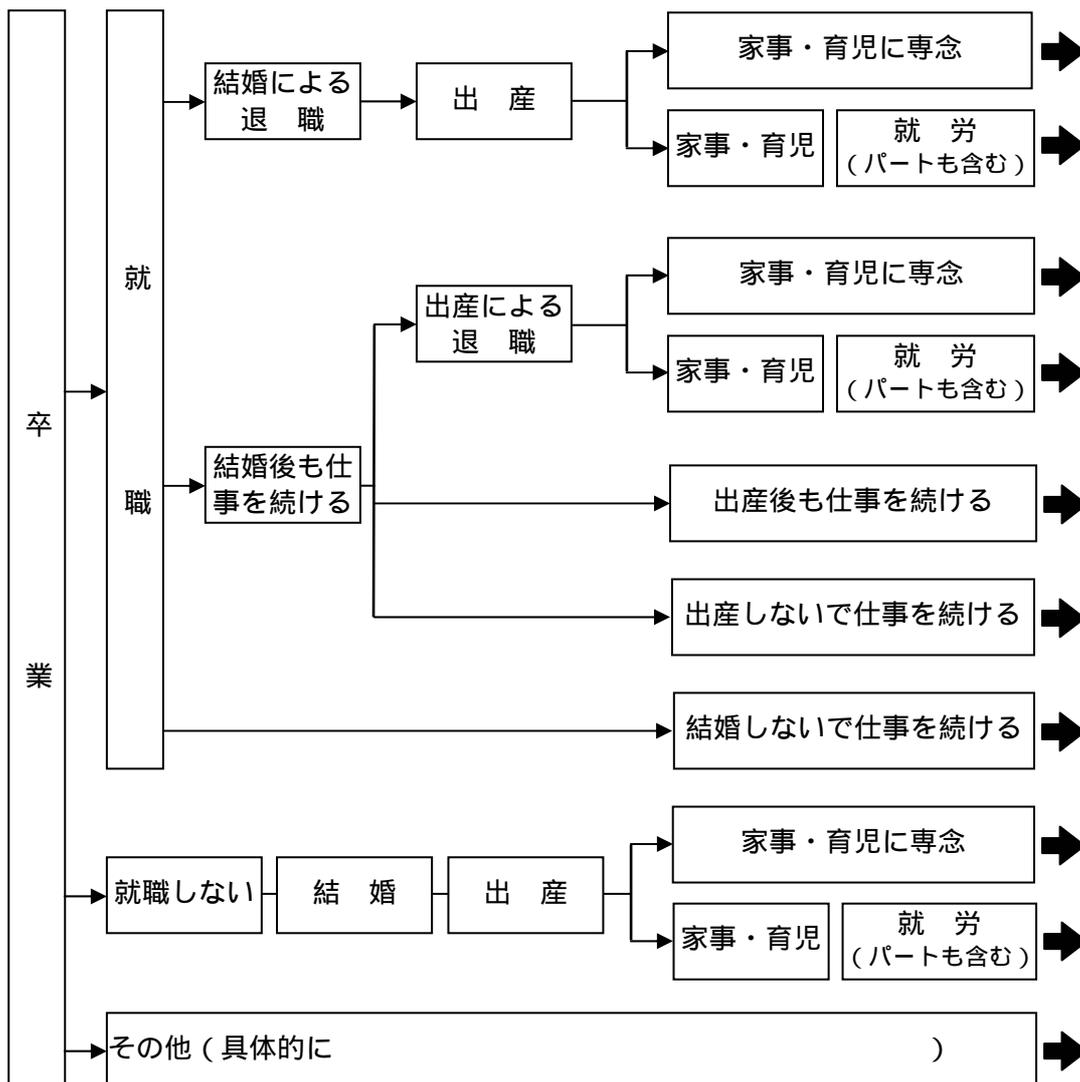
表 3 - 9 離婚について【男女年齢別】

単位：%

	女性					男性					
	標本数	よい 離婚しないほうが よい	なる べくなら我慢し て離婚しないほうが よい	て が成長するのを待つ てからのほうがよい	離婚するならば子ども が成長するのを待つ てからのほうがよい	不明・無回答	標本数	よい 離婚しないほうが よい	なる べくなら我慢し て離婚しないほうが よい	て が成長するのを待つ てからのほうがよい	離婚するならば子ども が成長するのを待つ てからのほうがよい
全体	399 100.0	78 19.5	43 10.8	261 65.4	17 4.3	350 100.0	105 30.0	27 7.7	208 59.4	10 2.9	
年齢別	20代	45	17.8	15.6	66.7	46	26.1	13.0	60.9	-	
	30代	46	15.2	2.2	82.6	46	21.7	6.5	71.7	-	
	40代	71	9.9	18.3	67.6	42	26.2	9.5	59.5	4.8	
	50代	93	17.2	10.8	72.0	80	23.8	7.5	65.0	3.8	
	60代	76	21.1	10.5	64.5	79	36.7	7.6	51.9	3.8	
	70歳以上	68	35.3	5.9	42.6	57	42.1	3.5	50.9	3.5	
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 5. 女性の生き方について

問 20 次の図は、仕事と結婚、出産を中心に女性の生き方を示したものです。あなたにとって（男性はあなたの妻にとって）理想の人生と現在送っている人生についてお答えください。



## 理想の人生

### 《理想の生き方は、結婚後も就労、出産後も仕事を続けること》

#### [全体]

理想とする女性の生き方についてたずねたところ、全体では「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」が22.0%で最も高く、次いで「就労、結婚退職、出産、家事・育児に専念」17.7%、「就労、結婚退職、出産、家事・育児後就労」14.9%、「結婚後も就労、出産退職、家事・育児後就労」12.0%となっている。

また、就労を基準としてみると、『専業主婦型』（「就労、結婚退職、出産、家事・育児に専念」+「結婚後も就労、出産退職、家事・育児に専念」+「就職しないで結婚、出産、家事・育児に専念」）が28.7%、『育児後就労型』（「就労、結婚退職、出産、家事・育児後就労」+「結婚後も就労、出産退職、家事・育児後就労」+「就職しないで結婚、出産、家事・育児後就労」）が28.0%、『就労継続型』（「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」+「結婚後も就労、出産しないで仕事を続ける」+「結婚しないで仕事を続ける」）25.2%となっている。

#### [性別]

女性は、「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」が24.3%で抜きんでて高く、次いで「就労、結婚退職、出産、家事・育児後就労」が16.8%であり、女性は結婚後あるいは出産後も継続して就労することを理想としている。

男性は、「就労、結婚退職、出産、家事・育児に専念」が21.4%で最も高く、女性（妻）に対して、家事・育児に専念することを望む傾向が強いが、次いで「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」20.0%となっており、男性のなかでも意識がわかれている様子がみられる。

#### [年齢別]

女性は20代～50代の年齢層では、「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」（20代：33.3%、30代：37.0%、40代：26.8%、50代：23.7%）が最も高くなっている。

男性は20～40代の年齢層では、女性と同様に「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」（20代：23.9%、30代：34.8%、40代：26.2%）が最も高く、50歳以上では「就労、結婚退職、出産、家事・育児に専念」（50代：28.8%、60代：22.8%）が最も高くなっている。

20～40代の年齢層では、男女とも結婚後も就労、出産後も仕事を続けることを理想としている。

#### [配偶関係別]

未婚者では、男女とも「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」（女性：36.8%、男性：22.9%）が最も高いが、法律婚（入籍している結婚）では、女性が「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」22.4%、男性が「就労、結婚退職、出産、家事・育児に専念」21.1%で男女差があることがうかがえる。

### [結婚観別]

「絶対、結婚すべきである」と回答した人では、男女とも「就職、結婚退職、出産、家事・育児に専念」(女性：30.3%、男性：29.3%)を理想とする女性の生き方と認識している。

「どちらかといえば結婚したほうがよい」と回答した人では、男女とも「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」(女性：25.0%、男性：21.9%)を理想とする女性の生き方と認識している。

「どちらでもよい」と回答した人では、女性が「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」26.9%、男性が「就職、結婚退職、出産、家事・育児に専念」20.3%を理想とする女性の生き方と認識している。

## 現在送っている人生

### 《現実には、退職して出産・育児後に再び就労することが多い》

### [全体]

現在送っている人生についてたずねたところ、全体では「就職、結婚退職、出産、家事・育児後就労」が19.5%で最も高く、次いで、「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」14.2%となっている。

就労を基準としてみると、「就労継続型( + + )」が19.3%、「育児後就労型( + + )」が35.0%、「専業主婦型( + + )」が22.3%となっている。現在送っている人生は、退職して、出産・育児後に再び就労する割合が高くなっている。

### [性別]

男女とも、「就職、結婚退職、出産、家事・育児後就労」が最も高く、次いで女性は「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」15.3%、男性は「結婚後も就労、出産退職、家事・育児後就労」15.7%となっている。

### [年齢別]

20代、60代の女性は、「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」(20代：22.2%、60代：18.4%)、20代、30代の男性は、「結婚後も就労、出産退職、家事・育児後就労」(20代：28.3%、30代：19.6%)が最も高く、その他の年齢層では、「就職、結婚退職、出産、家事・育児に専念」、「就職、結婚退職、出産、家事・育児後就労」が最も高くなっている。現在送っている人生は、結婚退職後・育児専念か、結婚退職・育児後就労となっている。

### [配偶関係別]

未婚者では、女性が「結婚しないで仕事を続ける」36.8%、男性が「結婚後も就労、出産退職、家事・育児後就労」30.0%、法律婚(入籍している結婚)では、男女とも「就職、結婚退職、出産、家事・育児後就労」(女性：24.6%、男性：22.7%)が最も高くなっている。

[結婚観別]

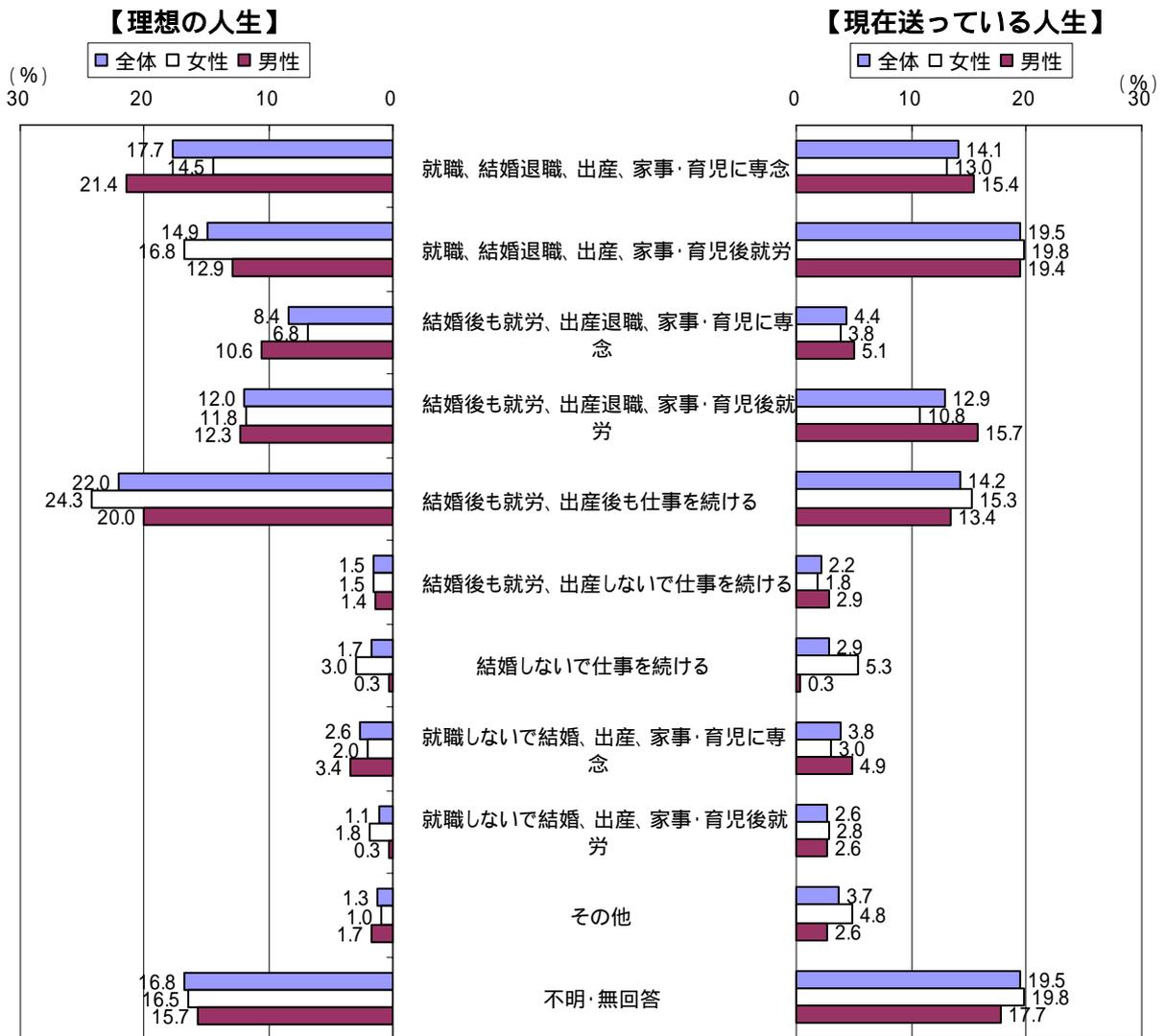
「絶対、結婚すべきである」では、女性は「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」27.3%となっており、男性は「就職、結婚退職、出産、家事・育児後就労」24.1%が最も高くなっている。女性は、結婚後もかわらず仕事を続ける意識が高い。

「どちらかといえば結婚したほうがよい」では、男女とも「就職、結婚退職、出産、家事・育児後就労」(女性：22.2%、男性：20.3%)が最も高くなっている。

「どちらでもよい」では、女性が「就職、結婚退職、出産、家事・育児後就労」20.2%、男性が「就職、結婚退職、出産、家事・育児に専念」17.7%が最も高くなっている。

図3 - 10 理想の人生と現在送っている人生

全体N = 758、女性N = 399、男性N = 350



[調査資料 139 ~ 140 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付]



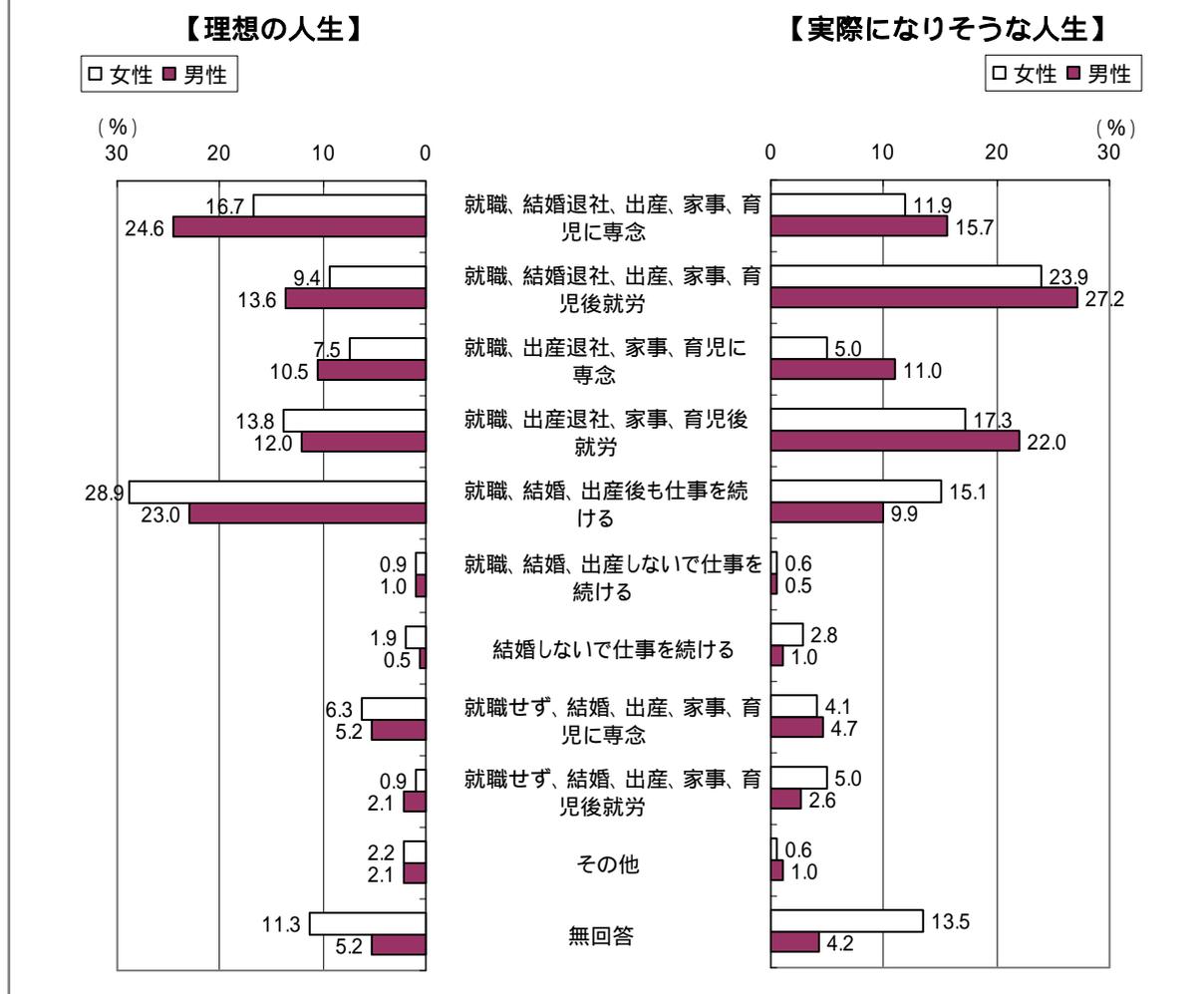


<平成9年8月調査より>

問10 あなたにとって(男性はあなたの妻にとって)理想の人生と実際になりそうな人生についてお答えください。

図3-13 理想の人生、実際になりそうな人生

女性N=318、男性N=191



[平成9年8月調査との比較]

前回調査にくらべ、女性についてみると女性の理想の生き方は、「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」(前回調査:28.9%、今回調査:24.3%)の割合が最も高いことは変わらないが、今回調査では「就職、結婚退職、出産、家事・育児に専念」(前回調査:16.7%、今回調査:14.5%)の割合が減少していること、及び「就職、結婚退職、出産、家事・育児後就労」(前回調査:9.4%、今回調査:16.8%)の割合が高くなっていることから、結婚退職し、家事・育児後就労することだと認識されていることがうかがえる。

現実の人生では、前回調査にくらべ、男女とも「結婚後も就労、出産退職、家事・育児後就労」(女性前回調査:17.3%、女性今回調査:10.8%、男性前回調査:22.0%、男性今回調査:15.7%)の割合は減少し、男性では、「就職、結婚退職、出産、家事・育児後就労」(前回調査:27.2%、今回調査:19.4%)、「結婚後も就労、出産退職、家事・育児に専念」(前回調査:11.0%、今回調査:5.1%)の割合が減少し、男性は「結婚後も就労、出産後も仕事を続ける」の認識が高くなっていることがわかる。

## 第4章 出産・子育てについて

### 1. 「女らしく」、「男らしく」について

問21 あなたは、女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てるという考え方についてどう思いますか。1つだけ選んで を付けてください。

#### 《男性は「女らしさ」、「男らしさ」を重んじる》

##### [全体]

女らしくや男らしく育てるという考え方についてたずねたところ、全体では「賛成」が56.3%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が33.0%となっている。

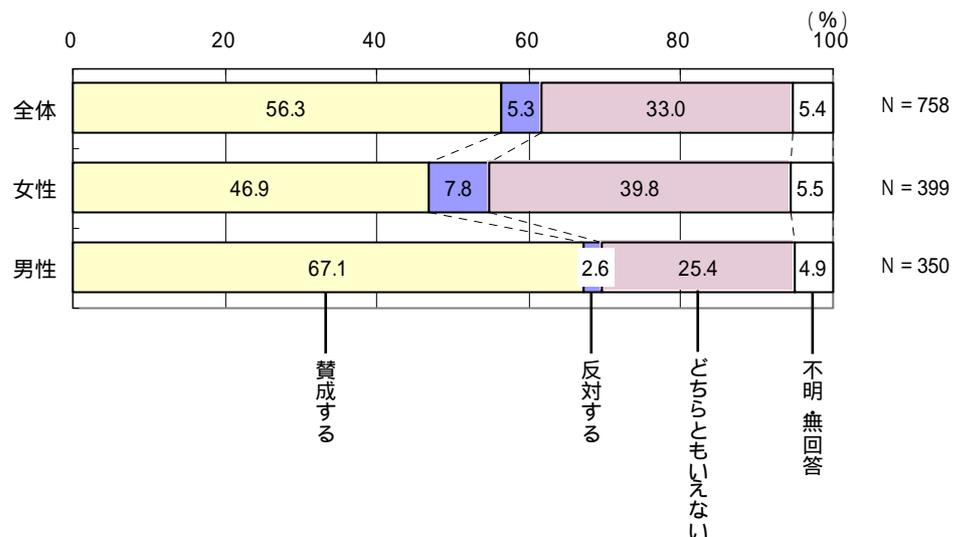
##### [性別]

「賛成する」は男性(67.1%)が女性(46.9%)よりも20.2ポイント上回っている。男性は「女らしく」、「男らしく」を意識した子育てを大切にしている。

##### [年齢別]

「賛成する」が男性ではどの年齢層でも(20代:54.3%、30代:67.4%、40代:66.7%、50代:61.3%、60代:75.9%、70歳以上:73.7%)、女性は30代、60歳以上(30代:47.8%、60代:65.8%、70歳以上:54.4%)で最も高くなっている。また、男女とも「賛成する」が高齢になるほど高くなり、「反対する」は高齢になるほど低くなっていることから、高齢の方が「女らしく」、「男らしく」育てるという意識が高いことがうかがえる。

図4-1 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てるとい考え方について



〔調査資料141ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表4 - 2 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てるという考え方について

【男女年齢別】

単位：％

	女性					男性					
	標本数	賛成する	反対する	どちらともいえない	不明・無回答	標本数	賛成する	反対する	どちらともいえない	不明・無回答	
全体	399 100.0	187 46.9	31 7.8	159 39.8	22 5.5	350 100.0	235 67.1	9 2.6	89 25.4	17 4.9	
年齢別	20代	45	37.8	11.1	48.9	2.2	46	54.3	6.5	39.1	-
	30代	46	47.8	13.0	39.1	-	46	67.4	6.5	26.1	-
	40代	71	26.8	16.9	52.1	4.2	42	66.7	2.4	31.0	-
	50代	93	45.2	4.3	48.4	2.2	80	61.3	1.3	31.3	6.3
	60代	76	65.8	2.6	27.6	3.9	79	75.9	-	16.5	7.6
	70歳以上	68	54.4	2.9	23.5	19.1	57	73.7	1.8	14.0	10.5
	不明・無回答	-	37.8	11.1	48.9	2.2	-	54.3	6.5	39.1	-

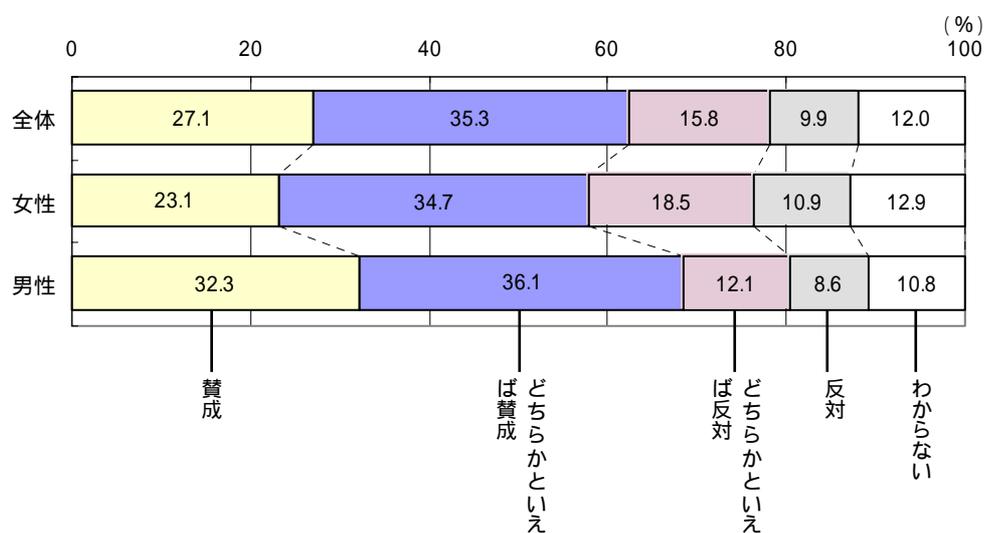
<福岡県調査(平成12年)より>

問13 あなたは、子どものしつけや教育について、どのような考え方をお持ちですか。

(3) 男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい

図4 - 3 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい

全体N = 2,120、女性N = 1,206、男性N = 914



[福岡県調査との比較]

福岡県調査とくらべ、全体で見ると、今回調査の「賛成する」は56.3%、福岡県調査の「賛成」は27.1%となっており、県より「女らしく」、「男らしく」を重んじる意識が高い。また、性別で見ると、福岡県調査と同様にその割合は女性よりも男性の方が高くなっており、男性は「女らしく」、「男らしく」育てたい意向が強いことがうかがえる。

## 2 . 出生率の減少について

問 22 最近、子どもの出生率（一人の女性が一生の間に何人の子どもを産むかを示す数値）が減少傾向にあります。その理由は何であると思われますか。次の中からあなたのお考えに近いものを3つまで選んで を付けてください。

### 《出生率の減少の原因は、金銭的負担が大きいため》

#### [全体]

出生率の減少についてたずねたところ、全体では「子どもの教育にお金がかかるから」が65.6%で最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」が52.5%となっており、教育費などの経済的負担が大きな原因として挙げられている。

#### [性別]

男女ともに「子どもの教育にお金がかかるから」（女性：68.7%、男性：62.6%）が最も高く、次いで、女性は「仕事をしながら子育てするのが困難だから」53.4%が原因として感じており、教育費や子育てへの心理的・肉体的な負担に要因があると認識している。次いで、男性は「経済的に余裕がないから」が56.9%、「仕事をしながら子育てするのが困難だから」が43.4%と高く、経済的負担に要因があると認識している。

#### [年齢別]

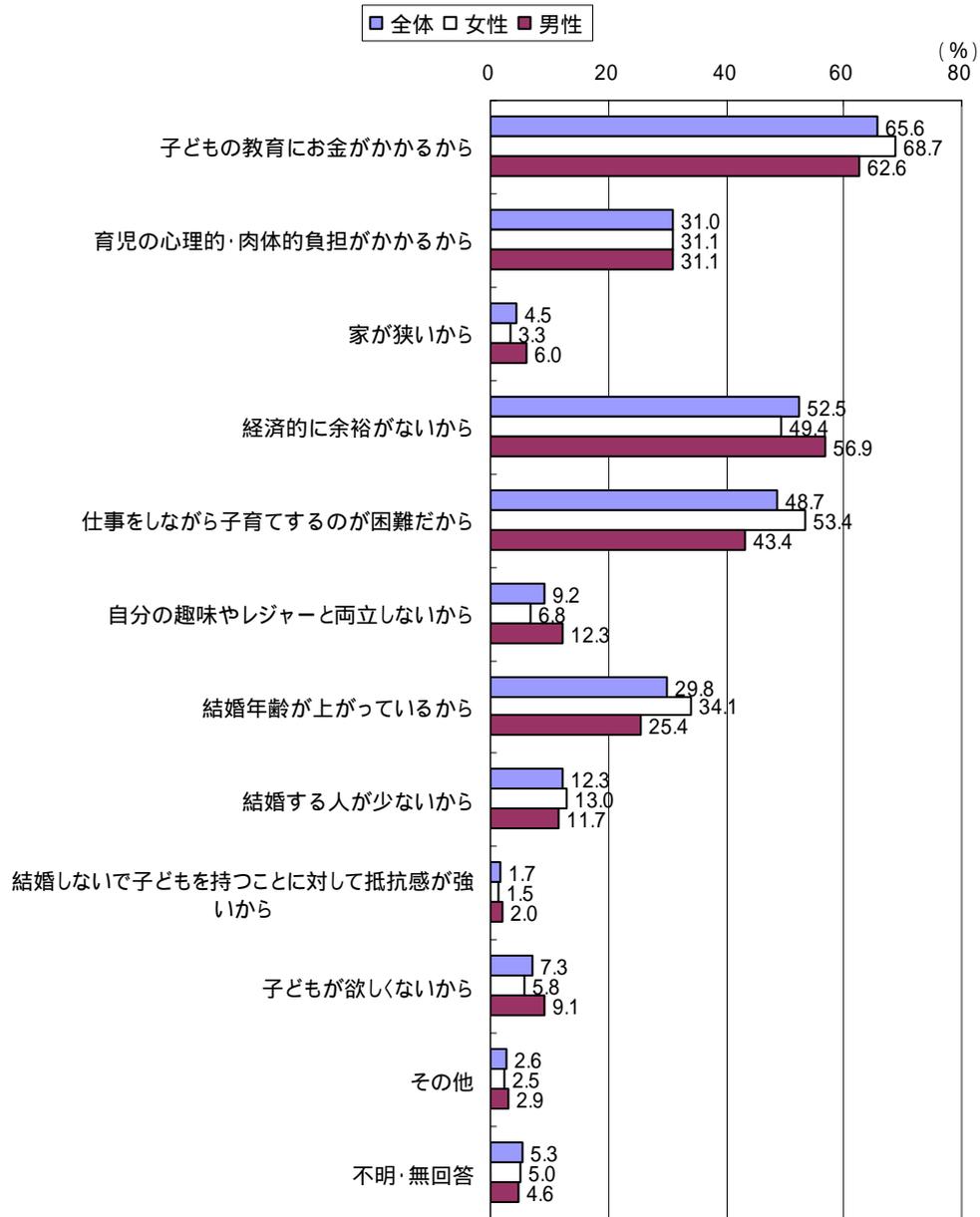
男女とも、どの年齢層においても「子どもの教育にお金がかかるから」（女性各年齢：60%～75.0%、男性各年齢：52%～72%）、「経済的に余裕がないから」（女性各年齢：30%～67%、男性各年齢：49%～70%）を原因とする認識が高い。その他の要因として、女性はどの年齢層においても「仕事をしながら子育てするのが困難だから」（各年齢44%～61%）が認識されているが、男性は20代、30代で「育児の心理的・肉体的負担がかかるから」（20代：32.6%、30代：37.0%）、40歳以上で「仕事をしながら子育てするのが困難だから」（40代：38.1%、50代：47.5%、60代：60.8%、70歳以上：45.6%）が認識されている。

#### [配偶関係別]

女性の未婚者では「仕事をしながら子育てするのが困難だから」54.4%、男性の未婚者では「子どもの教育にお金がかかるから」、「経済的に余裕がないから」がいずれも65.7%となっており、女性は仕事と家庭の両立、男性は経済的に要因があると感じている。

図4 - 4 子どもの出生率の減少について

全体N = 758、女性N = 399、男性N = 350



〔調査資料 141 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表4 - 5 子どもの出生率の減少について【男女年齢・配偶関係別】

単位：%

		標本数	から 子どもの教育にお金がかかる	育 児の心理的・肉体的負担が かかるから	家 が狭いから	経 済的に余裕がないから	仕 事をしながら子育てするの が困難だから	自 分の趣味やレジャーと両立 しないから	結 婚年齢が上がっているから	結 婚する人が少ないから	結 婚しないで子どもを持つこ とに対して抵抗感が強いから	子 どもが欲しくないから	そ の他	不 明・無回答
女性		399 100.0	274 68.7	124 31.1	13 3.3	197 49.4	213 53.4	27 6.8	136 34.1	52 13.0	6 1.5	23 5.8	10 2.5	20 5.0
年齢別	20代	45	60.0	28.9	2.2	66.7	48.9	13.3	37.8	22.2	2.2	2.2	2.2	-
	30代	46	60.9	32.6	6.5	56.5	52.2	2.2	26.1	26.1	2.2	4.3	6.5	-
	40代	71	71.8	36.6	-	46.5	50.7	11.3	40.8	7.0	2.8	4.2	4.2	2.8
	50代	93	73.1	37.6	4.3	55.9	59.1	6.5	30.1	12.9	1.1	9.7	1.1	-
	60代	76	75.0	27.6	2.6	46.1	60.5	2.6	39.5	7.9	1.3	7.9	2.6	6.6
	70歳以上	68	63.2	20.6	4.4	30.9	44.1	5.9	29.4	10.3	-	2.9	-	19.1
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
配偶関係別	未婚	57	50.9	35.1	-	50.9	54.4	8.8	42.1	19.3	3.5	3.5	-	7.0
	法律婚（入籍している結婚）	272	74.3	30.1	3.7	49.6	53.3	7.0	32.4	11.4	1.5	7.4	3.7	3.3
	事実婚（入籍していない結婚）	1	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	同棲	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	死別	44	56.8	34.1	6.8	36.4	59.1	6.8	31.8	11.4	-	-	-	11.4
	離別	16	87.5	25.0	-	75.0	37.5	-	31.3	25.0	-	6.3	-	-
不明・無回答	8	37.5	37.5	-	50.0	62.5	-	62.5	12.5	-	-	-	12.5	
男性		350 100.0	219 62.6	109 31.1	21 6.0	199 56.9	152 43.4	43 12.3	89 25.4	41 11.7	7 2.0	32 9.1	10 2.9	16 4.6
年齢別	20代	46	52.2	32.6	4.3	69.6	17.4	19.6	30.4	17.4	4.3	10.9	6.5	-
	30代	46	71.7	37.0	6.5	65.2	34.8	10.9	28.3	2.2	2.2	10.9	2.2	-
	40代	42	61.9	23.8	9.5	59.5	38.1	16.7	28.6	19.0	-	11.9	2.4	2.4
	50代	80	63.8	32.5	7.5	55.0	47.5	16.3	25.0	10.0	1.3	6.3	-	5.0
	60代	79	59.5	27.8	3.8	50.6	60.8	10.1	22.8	10.1	-	11.4	3.8	8.9
	70歳以上	57	66.7	33.3	5.3	49.1	45.6	1.8	21.1	14.0	5.3	5.3	3.5	7.0
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
配偶関係別	未婚	70	65.7	25.7	4.3	65.7	25.7	12.9	37.1	11.4	2.9	10.0	4.3	1.4
	法律婚（入籍している結婚）	251	63.7	34.3	6.4	54.6	47.8	12.7	24.3	12.0	1.2	8.8	2.8	3.6
	事実婚（入籍していない結婚）	1	-	-	-	100.0	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-
	同棲	2	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-
	死別	12	50.0	16.7	8.3	41.7	33.3	-	8.3	8.3	-	8.3	-	33.3
	離別	8	12.5	37.5	-	50.0	62.5	12.5	-	-	12.5	12.5	-	25.0
不明・無回答	6	83.3	-	16.7	83.3	50.0	16.7	16.7	16.7	-	-	-	-	

### 3. 女性の働きながらの子育てについて

問 23 あなたは、女性が働きながら子育てをするには、何が必要だと思いますか。  
5つまで選んで を付けてください。

#### 《子育てのための休みをとれる環境や体制が必要》

##### [全体]

女性が働きながら子育てをするために必要なことについてたずねたところ、全体では「育児休業がとりやすい職場環境」が72.4%で抜きんでて高く、次いで「子どもが病気にかかったときのための休暇制度」が56.6%となっている。仕事をしながら子育てするには、育児休業などをとれる体制が必要との認識が高い。

##### [性別]

男女とも「育児休業がとりやすい職場環境」(女性：73.2%、男性：72.3%)が最も高く、次いで、女性では「子どもが病気にかかったときのための休暇制度」62.4%、男性では「再雇用制度」と「子どもが病気にかかったときのための休暇制度」がいずれも50.6%となっている。

「子どもが病気にかかったときのための休暇制度」(女性：62.4%、男性：50.6%)については、男女ともその必要性を強く感じている。

「再雇用制度」(女性：41.9%、男性：50.6%)については、女性より男性の方がその必要性を認識しており、男性は女性が子育てを終えて復帰できる制度を望んでいる。

##### [年齢別]

「育児休業がとりやすい職場環境」(女性各年齢：60%以上、男性各年齢：60%以上)と「子どもが病気にかかったときのための休暇制度」(女性各年齢：50%以上、男性各年齢：40%以上)については、男女ともほとんどの年齢層で必要と認識されている。

20代、30代の男女とも、これらの他に「保育施設の充実(企業内保育・保育施設の増設など)」(20代：60.0%、30代：28.3%)、また、女性では「夫の育児参加」(20代：60.0%、30代：43.5%)、「労働時間の短縮」(20代：28.9%、30代：47.8%)が必要と認識している。

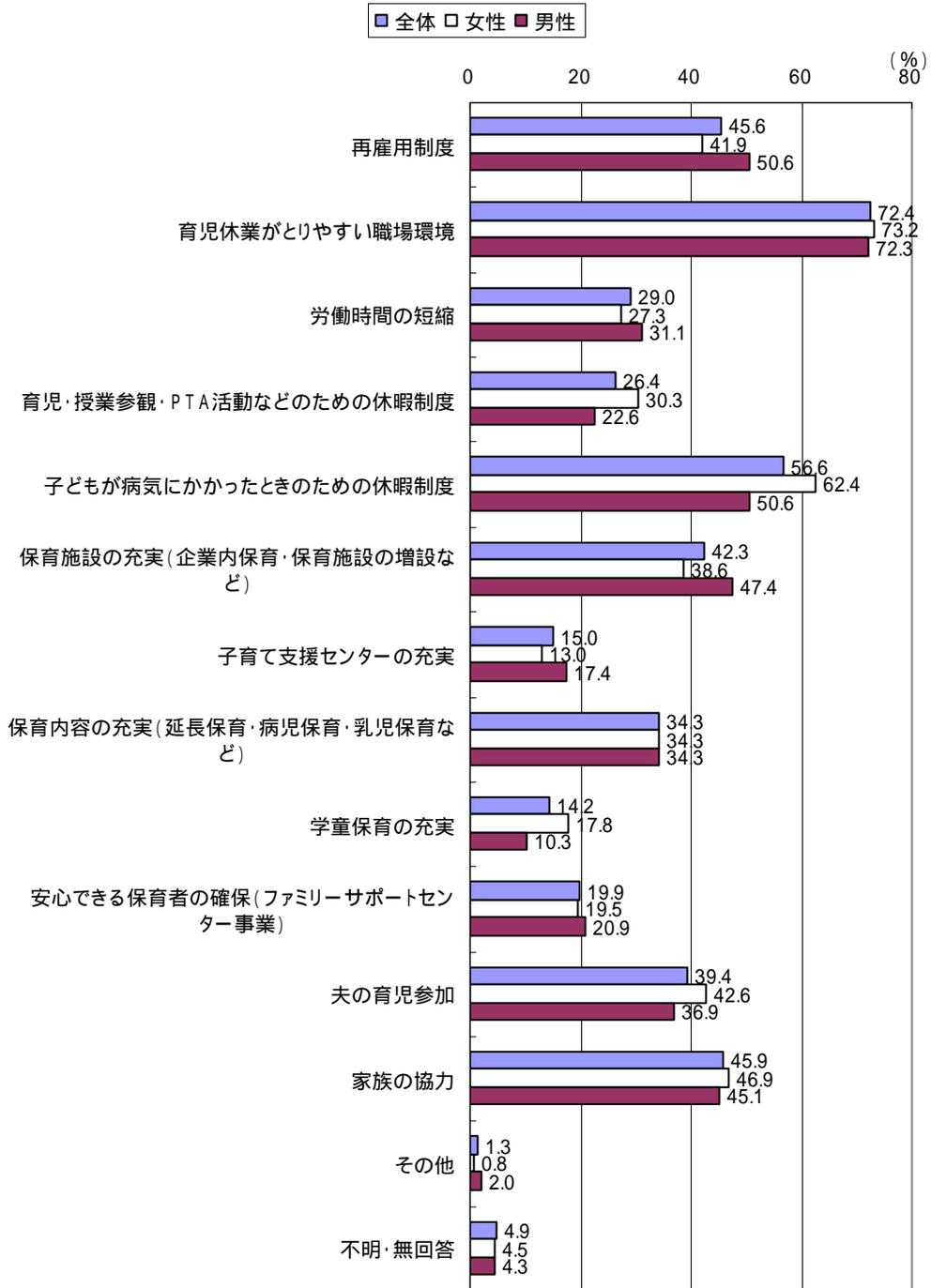
50代以上の女性、20代の男性は、「家族の協力」(女性50代以上：46%~48%、男性20代：56.5%)、30代~60代の男性は「再雇用制度」(30~60代：45%~54%)を必要と認識している。男女とも仕事をしながら子育てが行える体制を求めていることがわかる。

##### [配偶関係別]

「育児休業がとりやすい職場環境」(女性未婚：78.9%、女性法律婚：72.4%、男性未婚：75.7%、男性法律婚：71.7%)、「子どもが病気にかかったときのための休暇制度」(女性未婚：52.6%、女性法律婚：65.4%、男性未婚：57.1%、男性法律婚：49.4%)については、男女とも未婚と法律婚(入籍している結婚)で必要とする認識が高い。その他では、女性の未婚者は、「夫の育児参加」56.1%、女性の法律婚は「家族の協力」46.7%への認識が高い。男性の未婚者は「再雇用制度」51.4%、「家族の協力」46.8%への認識が高い。

図4 - 6 女性が働きながら子育てをするために必要なこと

全体N = 758、女性N = 399、男性N = 350



〔調査資料 142 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表4-7 女性が働きながら子育てをするために必要なこと【男女年齢・配偶関係別】単位：%

	標本数	再雇用制度	育児休業がとりやすい職場環境	労働時間の短縮	育児・授業参観・PTA活動などのための休暇制度	子どもが病気にかつたときのための休暇制度	保育施設の充実（企業内保育・保育施設の増設など）	子育て支援センターの充実	保育内容の充実（延長保育・病児保育・乳児保育など）	学童保育の充実	安心できる保育者の確保（ファミリーサポートセンター事業）	夫の育児参加	家族の協力	その他	不明・無回答	
女性	399 100.0	167 41.9	292 73.2	109 27.3	121 30.3	249 62.4	154 38.6	52 13.0	137 34.3	71 17.8	78 19.5	170 42.6	187 46.9	3 0.8	18 4.5	
年齢別	20代	45	42.2	71.1	28.9	31.1	53.3	60.0	8.9	31.1	8.9	13.3	60.0	51.1	-	2.2
	30代	46	43.5	78.3	47.8	34.8	69.6	28.3	6.5	41.3	23.9	19.6	43.5	45.7	-	-
	40代	71	47.9	67.6	26.8	31.0	56.3	33.8	11.3	39.4	21.1	15.5	52.1	46.5	2.8	4.2
	50代	93	38.7	78.5	25.8	30.1	68.8	41.9	20.4	35.5	18.3	22.6	43.0	46.2	1.1	-
	60代	76	40.8	73.7	21.1	30.3	60.5	44.7	9.2	35.5	21.1	27.6	32.9	46.1	-	5.3
	70歳以上	68	39.7	69.1	22.1	26.5	63.2	25.0	16.2	23.5	11.8	14.7	30.9	47.1	-	14.7
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
配偶関係別	未婚	57	45.6	78.9	28.1	21.1	52.6	49.1	14.0	36.8	8.8	17.5	56.1	49.1	-	5.3
	法律婚（入籍している結婚）	272	42.3	72.4	27.6	32.0	65.4	38.2	12.9	35.7	19.5	20.6	41.2	46.7	0.7	3.3
	事実婚（入籍していない結婚）	1	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-
	同棲	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	死別	44	38.6	75.0	20.5	29.5	65.9	31.8	9.1	34.1	11.4	9.1	40.9	34.1	-	9.1
	離別	16	43.8	62.5	43.8	43.8	43.8	31.3	6.3	18.8	37.5	25.0	43.8	68.8	-	-
不明・無回答	8	25.0	75.0	12.5	25.0	50.0	37.5	50.0	12.5	25.0	37.5	12.5	62.5	12.5	12.5	
男性	350 100.0	177 50.6	253 72.3	109 31.1	79 22.6	177 50.6	166 47.4	61 17.4	120 34.3	36 10.3	73 20.9	129 36.9	158 45.1	7 2.0	15 4.3	
年齢別	20代	45	52.2	78.3	30.4	19.6	60.9	43.5	17.4	21.7	6.5	17.4	47.8	56.5	-	-
	30代	46	52.2	76.1	26.1	30.4	58.7	54.3	17.4	37.0	17.4	19.6	28.3	30.4	2.2	-
	40代	46	45.2	81.0	40.5	31.0	50.0	57.1	9.5	21.4	9.5	23.8	35.7	47.6	-	2.4
	50代	42	48.8	65.0	30.0	20.0	43.8	50.0	17.5	42.5	13.8	20.0	41.3	46.3	1.3	6.3
	60代	79	53.2	67.1	25.3	22.8	45.6	46.8	19.0	41.8	5.1	22.8	32.9	39.2	3.8	7.6
	70歳以上	57	50.9	75.4	38.6	15.8	52.6	35.1	21.1	29.8	10.5	21.1	35.1	52.6	3.5	5.3
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
配偶関係別	未婚	70	51.4	75.7	30.0	14.3	57.1	44.3	18.6	25.7	11.4	25.7	40.0	48.6	1.4	2.9
	法律婚（入籍している結婚）	251	50.2	71.7	32.3	26.7	49.4	49.4	17.1	36.7	10.0	19.5	36.7	45.8	2.0	3.2
	事実婚（入籍していない結婚）	1	-	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-
	同棲	2	50.0	100.0	50.0	-	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-
	死別	12	58.3	58.3	33.3	-	33.3	25.0	16.7	8.3	-	16.7	16.7	33.3	8.3	25.0
	離別	8	50.0	75.0	12.5	12.5	50.0	37.5	-	62.5	12.5	12.5	37.5	12.5	-	25.0
不明・無回答	6	50.0	66.7	16.7	16.7	66.7	50.0	16.7	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	

## 第5章 家庭生活について

### 1. 平日の状況について

問 24 休日以外の平日に、「仕事（賃金のあるもの。自営業を含む）の時間」、「家事・育児・介護に携わる時間」、「余暇時間」は、平均してそれぞれどれくらいありますか。1つずつ選んで番号に を付けてください。

#### 《家事・育児・介護に携わる時間と余暇時間は30分～2時間未満が最も高い》

[全体]

休日以外の平日の時間の使い方についてたずねたところ、全体では、仕事の時間は「8～10時間未満」が24.5%で最も高く、家事・育児・介護に携わる時間と余暇時間は「30分～2時間未満」がそれぞれ17.3%と23.2%で最も高くなっている。また、家事・育児・介護に携わる時間では約4割、余暇時間では約3割が2時間未満となっている。

[性別]

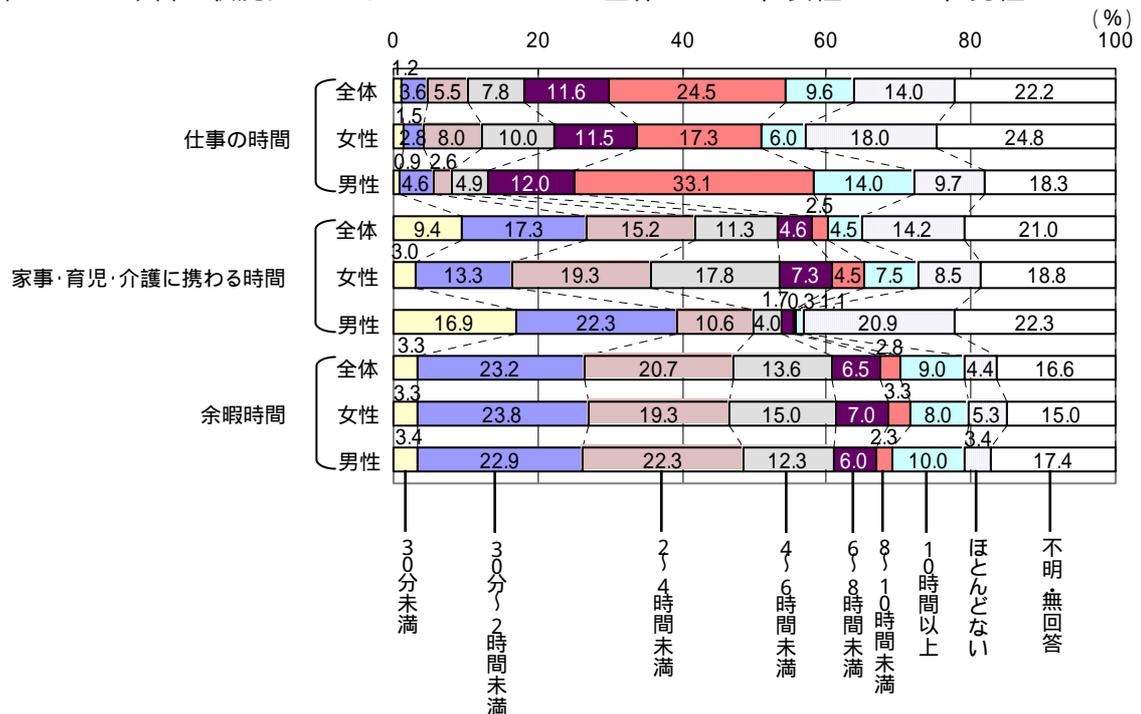
女性では、仕事の時間は「ほとんどない」が18.0%で最も高く、家事・育児・介護に携わる時間は「2～4時間未満」19.3%、余暇時間は「30分～2時間未満」23.8%が最も高くなっている。

男性では、仕事の時間は「8～10時間未満」が33.1%で最も高く、家事・育児・介護に携わる時間と余暇時間は「30分～2時間未満」がそれぞれ22.3%と22.9%で最も高くなっている。

また、男女を比較すると、仕事の時間は男性の方が女性より長く、家事・育児・介護に携わる時間は女性の方が男性より長くなっており、余暇時間は男女ともほぼ同率となっている。

図5-1 平日の状況について

全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



〔調査資料 143～145 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

## 2. 家庭のもつ役割について

問 25 あなたは、家庭のもつ役割をどのようにお考えになりますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで を付けてください。

### 《家庭の役割は、精神的ゆとりや子育てによる生きがいを得られる場》

[全体]

家庭のもつ役割についての考え方をたずねたところ、全体では「精神的安らぎの場を得られる」が 82.5%で最も高く、次いで「子どもを産み育てることにより、生きがいを得られる」54.0%となっている。また、最も低かったのは「子どもを産み育てることが、自分の老後の面倒を見てもらえることにつながる」で 11.2%となっている。

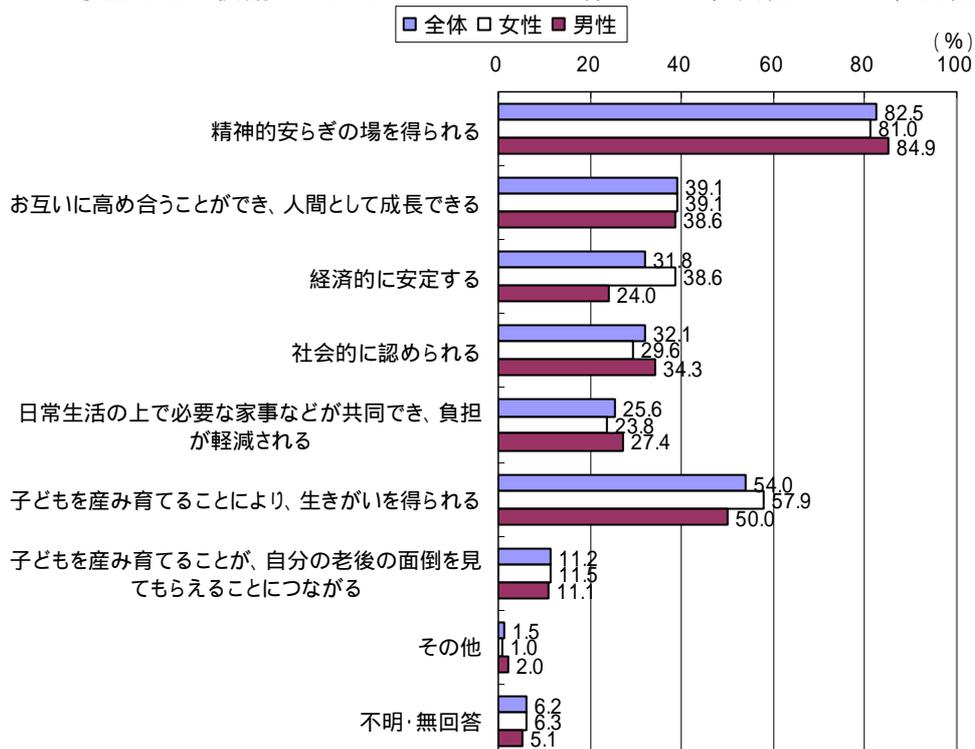
[性別]

男女ともに、ほぼ同率で「精神的安らぎの場を得られる」(女性：81.0%、男性：84.9%)が最も高く、次いで「子どもを産み育てることにより、生きがいを得られる」(女性：57.9%、男性：50.0%)となっている。また、男女間の差が顕著に見られる項目は「経済的に安定する」であり、女性 38.6%、男性 24.0%と女性が男性を大きく上回っている。

[年齢別]

男女どの年齢層とも「精神的安らぎの場を得られる」(女性各年齢：64%～92%、男性各年齢：77%～96%)が最も高く、次いで、男女とも、30代は「お互いに高め合うことができ、人間として成長できる」(女性：52.2%、男性：50.0%)、男性の70歳以上は「社会的に認められる」36.8%となっており、それら以外の年代は「子どもを産み育てることにより、生きがいを得られる」となっている。

図5-2 家庭のもつ役割について 全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



(調査資料 146 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付)

表5 - 3 家庭のもつ役割について【男女年齢別】

単位：%

		標本数	精神的安らぎの場を得られる	お互い高め合うことができ、人間として成長できる	経済的に安定する	社会的に認められる	日常生活の上で必要な家事などが共同でき、負担が軽減される	子どもを産み育てることにより、生きがいを得られる	子どもを産み育てることが、自分の老後の面倒を見てもらえることにつながる	その他	不明・無回答
女性		399 100.0	323 81.0	156 39.1	154 38.6	118 29.6	95 23.8	231 57.9	46 11.5	4 1.0	25 6.3
年齢別	20代	45	91.1	42.2	33.3	24.4	20.0	66.7	6.7	-	-
	30代	46	84.8	52.2	28.3	23.9	19.6	43.5	10.9	2.2	2.2
	40代	71	87.3	50.7	45.1	28.2	28.2	62.0	1.4	2.8	-
	50代	93	82.8	28.0	43.0	34.4	18.3	60.2	8.6	-	5.4
	60代	76	78.9	36.8	35.5	35.5	26.3	60.5	13.2	-	7.9
	70歳以上	68	64.7	33.8	39.7	25.0	29.4	51.5	27.9	1.5	19.1
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性		350 100.0	297 84.9	135 38.6	84 24.0	120 34.3	96 27.4	175 50.0	39 11.1	7 2.0	18 5.1
年齢別	20代	46	87.0	32.6	13.0	19.6	30.4	52.2	15.2	-	2.2
	30代	46	89.1	50.0	15.2	21.7	13.0	47.8	4.3	4.3	2.2
	40代	42	95.2	35.7	21.4	23.8	26.2	52.4	2.4	4.8	2.4
	50代	80	83.8	45.0	21.3	47.5	30.0	56.3	5.0	-	2.5
	60代	79	82.3	32.9	31.6	40.5	32.9	53.2	15.2	2.5	7.6
	70歳以上	57	77.2	35.1	35.1	36.8	26.3	35.1	22.8	1.8	12.3
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

### 3. 家庭での役割について

問26 問6で「法律婚(入籍している結婚)」、「事実婚(入籍していない結婚)」、「同棲」と答えた方のみお答えください。あなたのお宅では、次のことからについて主に夫婦(恋人)のどちらがなさっていますか。項目ごとに1つずつ選んで番号に を付けてください。

#### 《家事は専ら女性が担うということが高い》

[全体]

家庭での夫婦(恋人)の役割についてたずねたところ、全体では「主に夫(男性)がする」が生活費を得ることで67.1%、高額な商品や土地、家屋の購入することでは38.0%と高くなっている。また、「夫婦(男女とも)同程度にする」では地域の出役が27.3%、「していない/する必要がない(夫婦(恋人)の他に家事をする人がいる等の理由により)」では高齢者の介護が26.1%で最も高く、それら以外の項目は「主に妻(女性)がする」が最も高くなっており、家事・育児全般は妻(女性)がする割合が高いことがうかがえる。

[共働き世帯]

生活費を得るは「主に夫(男性)がする」55.5%、高額な商品や土地、家屋の購入、近所づきあい、地域の出役は「夫婦(男女とも)同程度にする」がそれぞれ37.6%、38.7%、31.8%、高齢者の介護は「していない/する必要がない(夫婦(恋人)の他に家事をする人がいる等の理由により)」が32.9%で最も高く、それら以外は「主に妻(女性)がする」が最も高くなっている。

[性別]

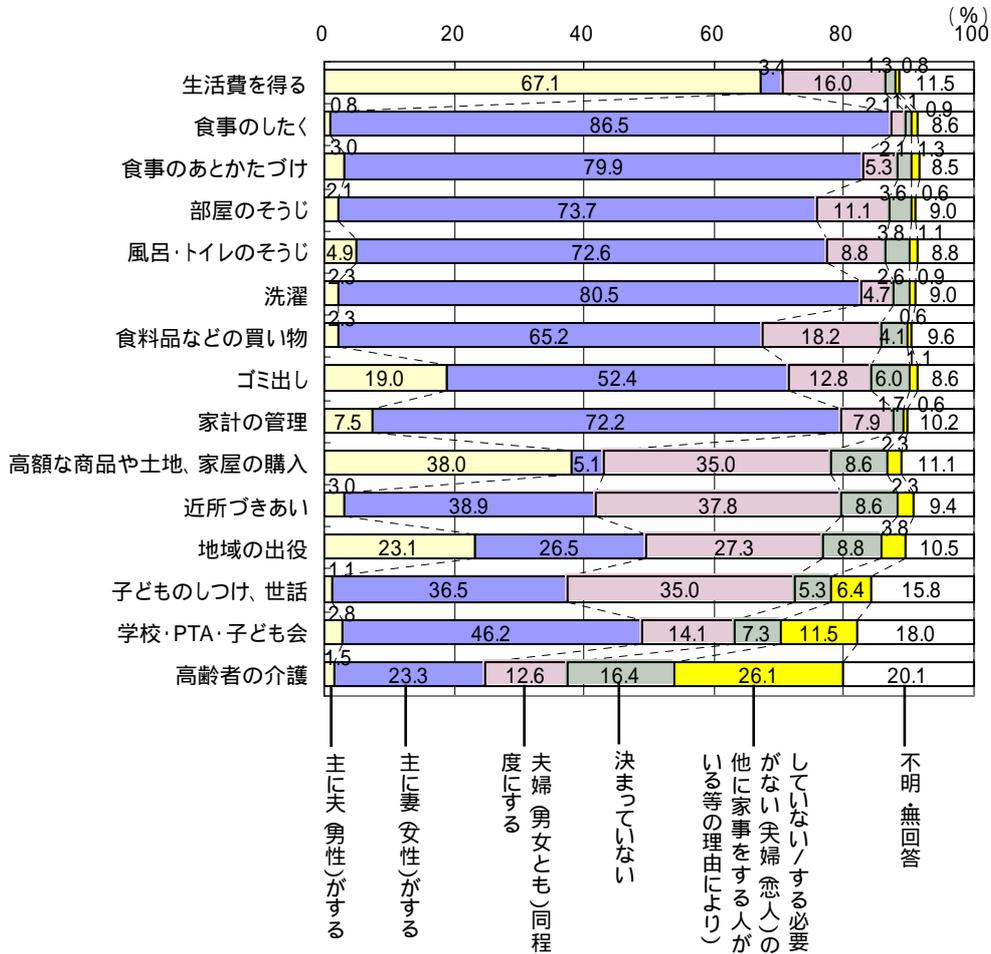
女性では、生活費を得る、高額な商品や土地、家屋の購入は「主に夫(男性)がする」がそれぞれ 66.4%、22.4%、高齢者の介護は「していない/する必要がない(夫婦(恋人)の他に家事をする人がいる等の理由により)」が 17.9%で最も高く、それら以外の項目は「主に妻(女性)がする」が最も高くなっている。

男性では、生活費を得る、高額な商品や土地、家屋の購入、地域の出役は「主に夫(男性)がする」がそれぞれ 68.1%、20.3%、15.1%、近所づきあい、子どものしつけ、世話は「夫婦(男女とも)同程度にする」がそれぞれ 21.0%、20.1%、高齢者の介護は「していない/する必要がない(夫婦(恋人)の他に家事をする人がいる等の理由により)」14.6%が最も高く、それら以外の項目は「主に妻(女性)がする」が最も高くなっている。

また、男女を比較すると、男性は、女性が思っているよりも、地域の出役、近所づきあい、子どものしつけ、世話に関わっているという意識が高いことがうかがえる。

図5 - 4 家庭での役割分担

N = 532



[調査資料 147 ~ 154 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付]

図5 - 5 「共働き世帯」の家庭での役割分担

N = 173

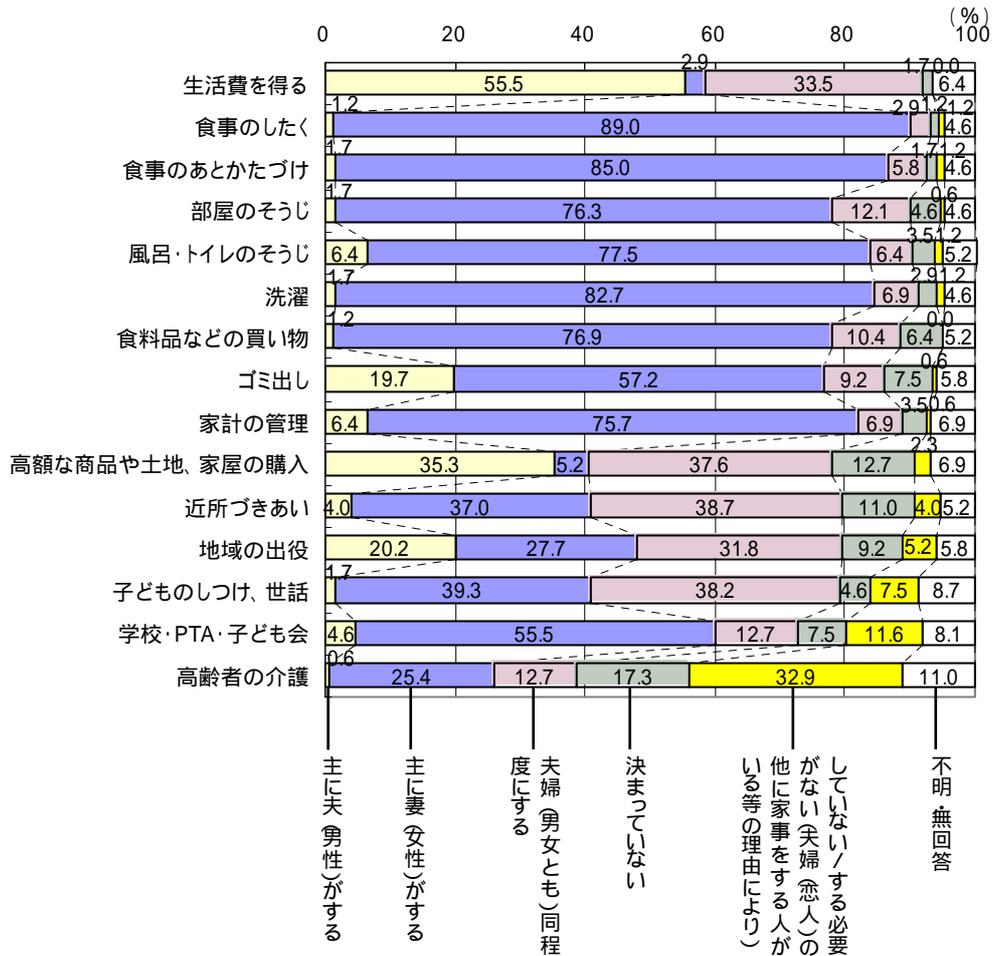


表5 - 6 家庭での役割分担【性別】女性N = 274、男性N = 254

単位：%

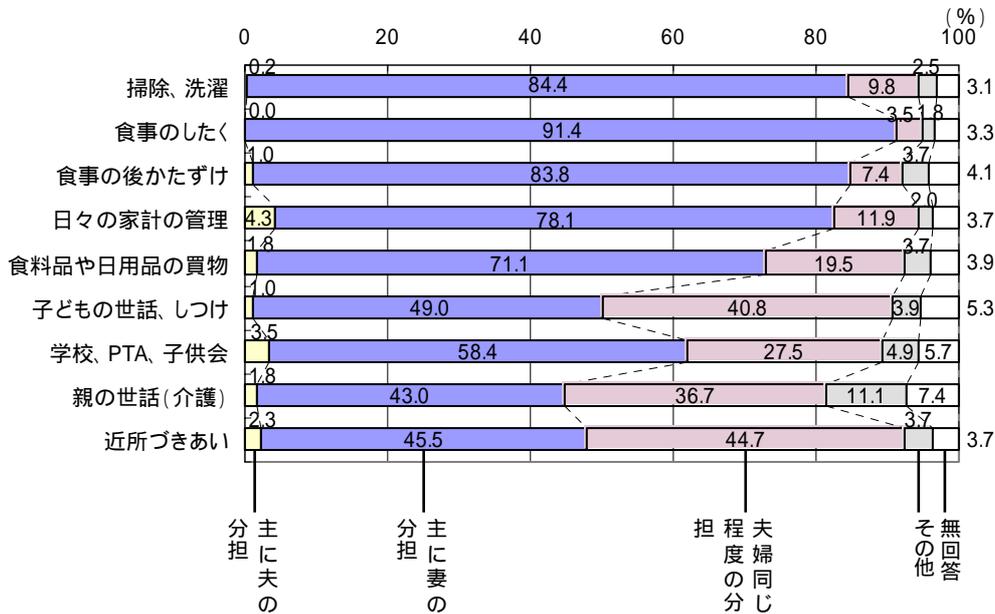
役割	女性						男性					
	主に夫(男性)がする	主に妻(女性)がする	夫婦(男女とも)同程度にする	決まっていない	していない/する必要がない(夫婦(恋人)の他に家事をする人がいる等の理由により)	不明・無回答	主に夫(男性)がする	主に妻(女性)がする	夫婦(男女とも)同程度にする	決まっていない	していない/する必要がない(夫婦(恋人)の他に家事をする人がいる等の理由により)	不明・無回答
生活費を得る	66.4	3.3	17.5	1.5	0.4	10.9	68.1	3.1	14.6	1.2	1.2	11.8
食事のしたく	0.4	49.4	0.8	0.4	0.4	48.6	0.4	44.4	1.4	0.8	0.6	52.3
食事のあとかたづけ	0.8	47.2	2.7	0.6	0.2	48.5	2.5	39.4	3.1	1.4	1.2	52.4
部屋のそうじ	0.4	43.4	6.2	1.7	-	48.3	1.7	37.2	6.0	2.3	0.6	52.3
風呂・トイレのそうじ	1.9	44.5	3.9	1.0	0.2	48.5	3.5	34.4	5.8	2.9	1.0	52.4
洗濯	1.0	47.7	2.3	0.6	-	48.3	1.4	40.3	2.7	2.1	1.0	52.5
食料品などの買い物	1.2	38.9	8.5	2.9	0.2	48.2	1.2	32.4	11.6	1.7	0.4	52.6
ゴミ出し	9.1	33.1	6.2	2.5	0.6	48.6	11.1	24.1	7.8	4.1	0.6	52.3
家計の管理	5.6	39.5	4.6	1.0	0.2	49.0	2.7	40.2	4.0	0.8	0.4	51.9
高額な商品や土地、家屋の購入	22.4	2.7	21.4	4.9	0.8	47.8	20.3	3.0	18.0	4.4	1.5	52.9
近所づきあい	0.8	24.9	20.7	4.1	1.2	48.1	2.5	17.6	21.0	5.2	1.0	52.7
地域の出役	10.5	17.4	16.8	5.0	1.9	48.3	15.1	12.2	13.7	4.4	2.1	52.5
子どものしつけ、世話	0.2	26.6	21.2	1.8	3.1	47.1	1.1	16.7	20.1	4.2	4.2	53.6
学校・PTA・子ども会	1.1	32.6	8.3	3.7	7.1	47.2	2.3	23.9	8.7	5.0	6.7	53.4
高齢者の介護	0.5	17.4	8.0	8.5	17.9	47.8	1.4	11.5	7.8	11.8	14.6	52.9

<平成9年8月調査より>

問9 あなたの家庭では、日常的な事柄は、どなたがなさっていますか。

図5-7 家庭での役割分担

N = 512



[平成9年8月調査との比較]

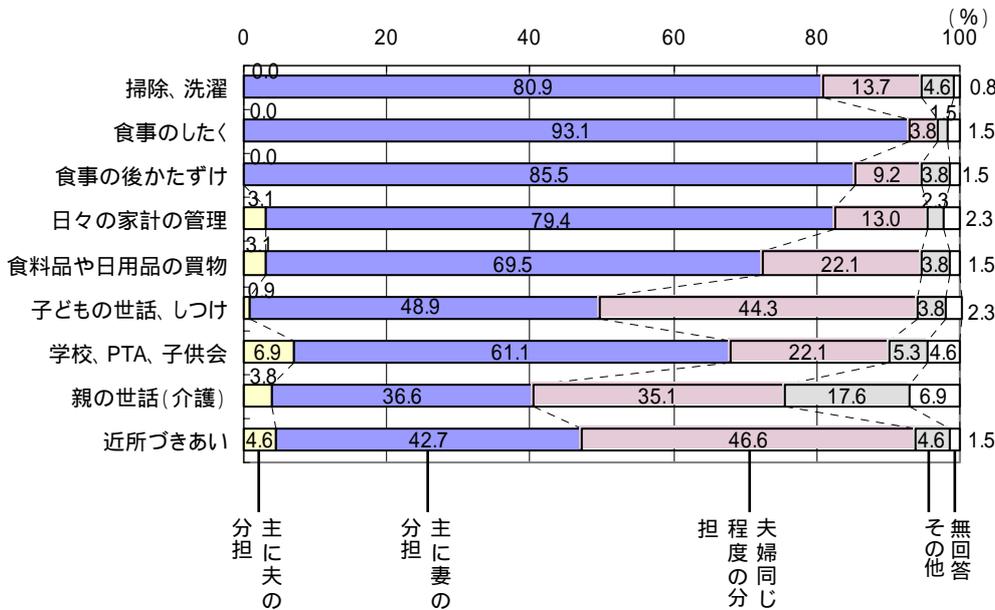
家事は主に女性が行うことが、前回調査では71%~92%、今回調査では52%~87%となっている。「子どものしつけ、世話」や「近所づきあい」が前回調査では45%~50%であったが、今回調査では36%~39%となっており、夫婦(男女とも)同程度にする割合が低くなっていることがうかがえる。

<平成9年8月調査より>

問9 あなたの家庭では、日常的な事柄は、どなたがなさっていますか。

図5-8 「共働き世帯」の家庭での役割分担

N = 384



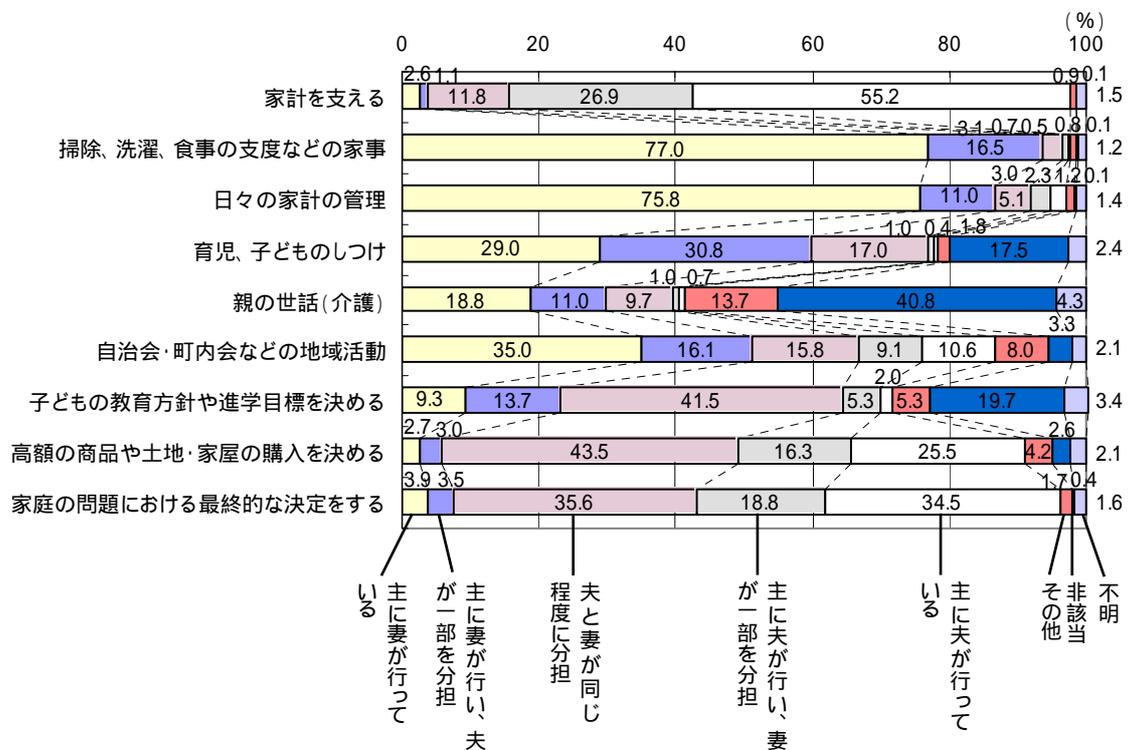
[平成9年8月調査との比較]

共働き世帯では、育児を夫婦(男女)分担して行っている割合が前回調査では44.3%、今回調査では38.2%と低くなっていることから、男性の育児への関わりが減っている。

<福岡県調査(平成12年)より>

問10 あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。

図5-9 家庭生活における役割分担 N = 1,445



[福岡県調査との比較]

家事、家計の管理は、福岡県と同様に、主に女性が行うことが多い。また、「子どものしつけ、世話」は、福岡県の17.0%よりも行橋市の方が夫婦(男女とも)同程度にする割合が35.0%と高くなっている。



## 第6章 仕事や職場について

### 1. 就労状況について

問 27 あなたは収入のある仕事をしていますか。 1つだけ選んで を付けてください。

#### 《5割弱の人が収入のある仕事をしている》

[全体]

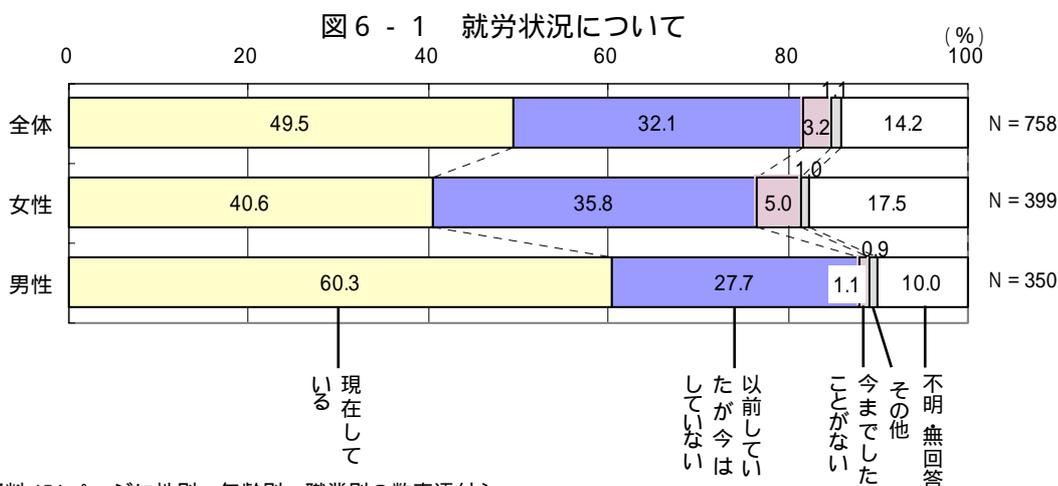
収入のある仕事をしているかどうかについてたずねたところ、全体では「現在している」が49.5%で最も高く、次いで「以前していたが今はしていない」が32.1%となっている。

[性別]

男女ともに「現在している」が最も高いが、女性は40.6%、男性は60.3%となっており、男性が女性を約20ポイント上回っている。

[年齢別]

男女ともに、50代以下は「現在している」(女性50代以下:48%~65%、男性50代以下:73%~91%)が最も高く、60代以上は「以前していたが今はしていない」(女性60代以上:44%~50%以上、男性60代以上:44%~72%)が最も高くなっている。また、女性では、年齢が高くなるにつれて、「現在している」の割合が低くなっている。



(調査資料 154 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付)

表 6 - 2 就労状況について【男女年齢別】

単位：%

	女性						男性						
	標本数	現在している	以前していたが今はしていない	ことがない	今までのこと	その他	不明・無回答	標本数	現在している	以前していたが今はしていない	ことがない	今までのこと	その他
全体	399	162	143	20	4	70	350	211	97	4	3	35	
	100.0	40.6	35.8	5.0	1.0	17.5	100.0	60.3	27.7	1.1	0.9	10.0	
年齢別	20代	45	64.4	17.8	-	-	17.8	46	73.9	8.7	8.7	-	8.7
	30代	46	50.0	30.4	-	-	19.6	46	78.3	8.7	-	2.2	10.9
	40代	71	50.7	32.4	4.2	1.4	11.3	42	90.5	4.8	-	-	4.8
	50代	93	48.4	32.3	3.2	-	16.1	80	81.3	13.8	-	-	5.0
	60代	76	32.9	44.7	5.3	1.3	15.8	79	39.2	44.3	-	2.5	13.9
	70歳以上	68	5.9	50.0	14.7	2.9	26.5	57	12.3	71.9	-	-	15.8
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問 28 問 27 で「現在している」と答えた方のみお答えください。あなたが働いている主な理由を次の中からすべて選んで を付けてください。

### 《女性は今の家計の状態をよくしたいがトップ》

#### [全体]

働いている主な理由についてたずねたところ、全体では「自分が生計の中心だから」43.2%と「働ける間は働くことが務めだから」42.7%が拮抗して高く、次いで「今の家計の状態をよくしたいから」35.2%となっており、「自分の地位向上のため」10.9%、「社会に役立ちたいから」16.5%といった社会的地位や社会貢献などへの回答は低い。

#### [性別]

女性では「今の家計の状態をよくしたいから」38.9%が最も高く、次いで「生計の中心ではないが、自分が働かないと生活が成り立たないから」34.6%となっている。

男性では「自分が生計の中心だから」65.4%が最も高く、次いで「働ける間は働くことが務めだから」52.1%となっている。

また、男女を比較すると、女性は、生活の質の向上や自己実現のために働いているという意識が高く、男性は、働くことが義務であるという意識が高いことがうかがえる。

#### [年齢別]

男女ともに、20代は「経済的に自立するため」(女性：51.7%、男性：52.9%)が最も高くなっている。また、女性では、30代は「生計の中心ではないが、自分が働かないと生活が成り立たないから」39.1%、40代、50代は「今の家計の状態をよくしたいから」がそれぞれ52.8%、48.9%、60代は「病気や老後の蓄えのため」40.0%が最も高く、男性では、30代～60代は「自分が生計の中心だから」(60%以上)が最も高いが、60代は「働ける間は働くことが務めだから」61.3%も最も高い。

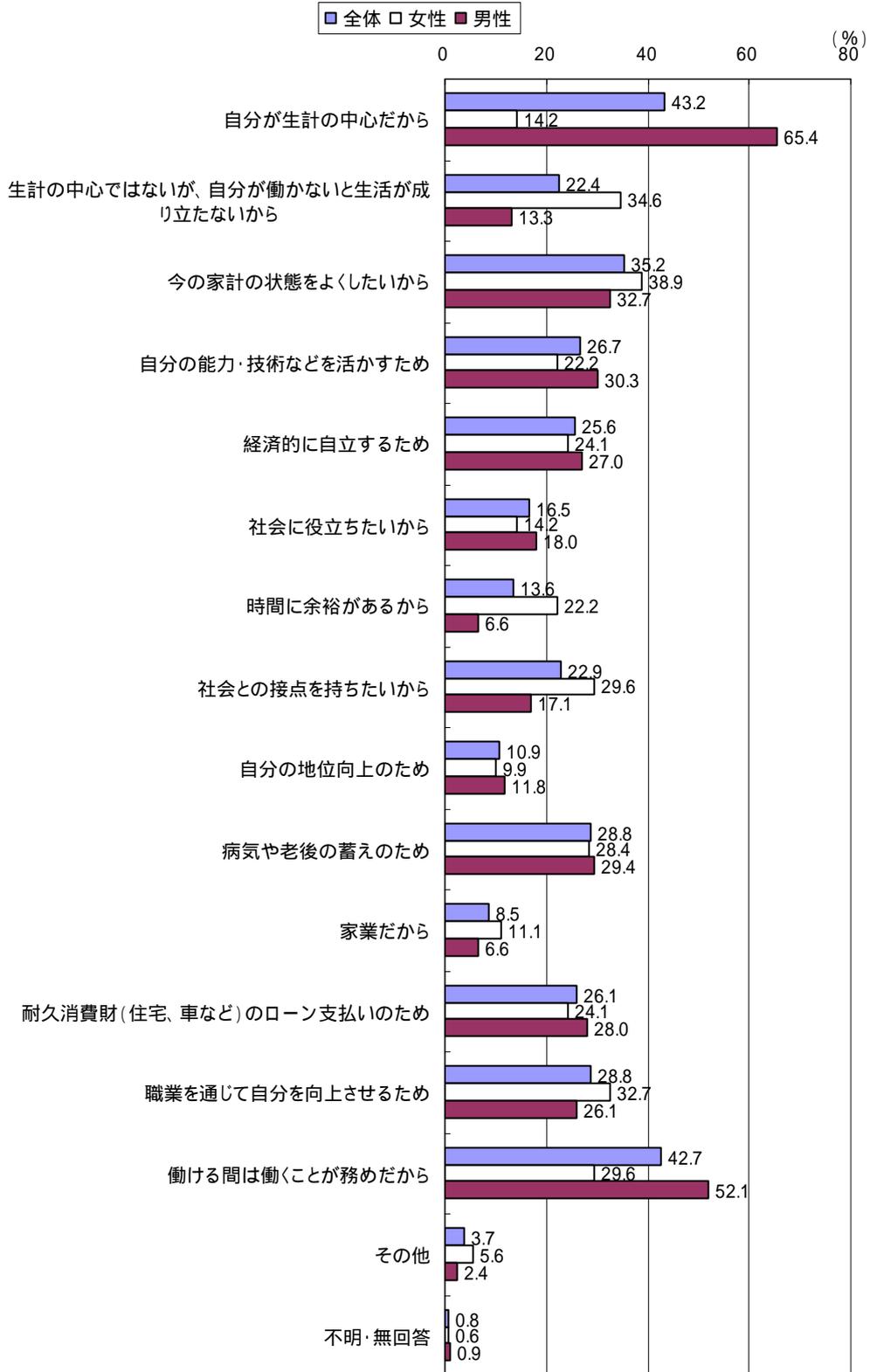
#### [世帯別]

女性では、核家族世帯(夫婦と子どものみの世帯)は「生計の中心ではないが、自分が働かないと生活が成り立たないから」49.3%、ひとり親と子どもの世帯は「経済的に自立するため」38.1%、三世代、四世代世帯は「今の家計の状態をよくしたいから」46.2%が最も高くなっており、世帯の生計の違いにより回答に差がみられる。

また、男性では、夫婦のみで子どもがいない世帯、核家族世帯(夫婦と子どものみの世帯)、三世代、四世代世帯は「自分が生計の中心だから」がそれぞれ60%以上と最も高くなっている。

図6 - 3 働いている主な理由について

全体 N = 375、女性 N = 162、男性 N = 211



〔調査資料 155 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表6 - 4 働いている主な理由について【男女年齢・世帯別】

単位：%

		標本数	自分が生計の中心だから	生計の中心ではないが、自分が働かないと生活が成り立たないから	今の家計の状態をよくしたいから	自分の能力・技術などを活かすため	経済的に自立するため	社会に役立ちたいから	時間に余裕があるから	社会との接点を持ちたいから	自分の地位向上のため	病気や老後の蓄えのため	家業だから	耐久消費財（住宅、車など）のローン支払いのため	め	職業を通じて自分を向上させるため	働ける間は働くことが務めだから	その他	不明・無回答
女性		162	23	56	63	36	39	23	36	48	16	46	18	39	53	48	9	1	
		100.0	14.2	34.6	38.9	22.2	24.1	14.2	22.2	29.6	9.9	28.4	11.1	24.1	32.7	29.6	5.6	0.6	
年齢別	20代	29	13.8	34.5	17.2	31.0	51.7	-	13.8	27.6	10.3	10.3	-	37.9	41.4	17.2	17.2	-	
	30代	23	4.3	39.1	34.8	21.7	34.8	8.7	17.4	17.4	4.3	21.7	4.3	21.7	34.8	26.1	13.0	-	
	40代	36	8.3	41.7	52.8	30.6	16.7	25.0	22.2	36.1	13.9	19.4	8.3	27.8	44.4	27.8	2.8	-	
	50代	45	24.4	33.3	48.9	20.0	17.8	20.0	26.7	35.6	13.3	42.2	13.3	20.0	28.9	40.0	-	-	
	60代	25	16.0	24.0	28.0	8.0	8.0	8.0	28.0	24.0	4.0	40.0	24.0	8.0	16.0	28.0	-	-	
	70歳以上	7	-	25.0	50.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	25.0	
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
世帯別	単身世帯	9	77.8	-	11.1	33.3	44.4	11.1	11.1	22.2	11.1	44.4	11.1	-	22.2	22.2	-	-	
	夫婦のみで子どもがいない世帯	16	-	18.8	68.8	18.8	12.5	6.3	50.0	43.8	12.5	37.5	12.5	12.5	37.5	12.5	-	-	
	高齢期（65歳以上）で夫婦のみの世帯	5	20.0	20.0	20.0	20.0	-	-	20.0	20.0	20.0	40.0	20.0	-	-	20.0	-	-	
	核家族世帯（夫婦と子どものみの世帯）	71	4.2	49.3	45.1	22.5	21.1	14.1	23.9	29.6	11.3	26.8	5.6	35.2	35.2	31.0	7.0	-	
	ひとり親と子どもの世帯	21	28.6	23.8	23.8	14.3	38.1	9.5	14.3	19.0	-	14.3	4.8	33.3	28.6	33.3	4.8	-	
	三世帯、四世代世帯	26	11.5	34.6	46.2	23.1	26.9	26.9	7.7	30.8	15.4	30.8	26.9	7.7	38.5	30.8	11.5	3.8	
	その他の世帯	20	15.4	15.4	7.7	30.8	23.1	15.4	30.8	38.5	-	23.1	15.4	23.1	30.8	38.5	-	-	
不明・無回答	3	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
男性		211	138	28	69	64	57	38	14	36	25	62	14	59	55	110	5	2	
		100.0	65.4	13.3	32.7	30.3	27.0	18.0	6.6	17.1	11.8	29.4	6.6	28.0	26.1	52.1	2.4	0.9	
年齢別	20代	34	20.6	14.7	11.8	23.5	52.9	8.8	14.7	20.6	20.6	11.8	5.9	35.3	44.1	38.2	2.9	-	
	30代	36	69.4	13.9	33.3	41.7	36.1	25.0	-	11.1	16.7	27.8	-	30.6	33.3	47.2	2.8	-	
	40代	38	81.6	2.6	26.3	23.7	18.4	15.8	-	10.5	10.5	23.7	-	39.5	21.1	50.0	-	2.6	
	50代	65	83.1	21.5	41.5	32.3	24.6	20.0	1.5	21.5	9.2	47.7	6.2	29.2	23.1	58.5	-	-	
	60代	31	61.3	9.7	45.2	35.5	9.7	19.4	25.8	22.6	6.5	22.6	16.1	6.5	12.9	61.3	9.7	-	
	70歳以上	7	28.6	-	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	57.1	-	14.3	
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
世帯別	単身世帯	11	54.5	36.4	18.2	18.2	45.5	9.1	18.2	9.1	27.3	27.3	9.1	36.4	36.4	63.6	-	9.1	
	夫婦のみで子どもがいない世帯	38	63.2	10.5	36.8	36.8	18.4	26.3	5.3	26.3	10.5	26.3	13.2	15.8	26.3	44.7	7.9	-	
	高齢期（65歳以上）で夫婦のみの世帯	7	42.9	-	14.3	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3	-	-	14.3	-	28.6	57.1	-	14.3	
	核家族世帯（夫婦と子どものみの世帯）	94	71.3	16.0	34.0	29.8	29.8	13.8	4.3	14.9	12.8	29.8	4.3	33.0	21.3	52.1	1.1	-	
	ひとり親と子どもの世帯	11	45.5	9.1	9.1	9.1	27.3	9.1	9.1	27.3	-	27.3	9.1	27.3	45.5	45.5	9.1	-	
	三世帯、四世代世帯	27	77.8	3.7	22.2	48.1	18.5	25.9	3.7	18.5	7.4	33.3	3.7	33.3	40.7	55.6	-	-	
	その他の世帯	20	55.0	15.0	50.0	15.0	35.0	20.0	-	5.0	15.0	40.0	-	25.0	10.0	50.0	-	-	
不明・無回答	3	33.3	-	100.0	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	100.0	-	-		

<平成9年8月調査より>

問 13 SQ - 2 <職業についている方に>あなたが働かれている主な理由は何ですか。

表 6 - 5 働いている主な理由について働いている理由【性別・年齢別】N = 298 単位：%

	合計	働いている理由										
		経済的な必要にせまられて	経済的な余裕が欲しくて	老後の生活に余裕が欲しくて	社会的役割を果たしたい	能力を生かしたい、社会的役割を果たしたい	仕事が好きだから	家業だから	自分の自由になる収入がほしいから	その他	特に理由はない	無回答
全体	100.0	54.7	40.9	28.5	19.8	9.1	7.4	23.5	5.0	2.0	3.0	
性別	女性	50.3	44.7	41.3	2.0	18.0	8.7	10.7	35.3	6.0	2.7	44.7
	男性	49.7	64.9	40.5	33.1	21.6	9.5	4.1	11.5	4.1	1.4	11.4
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	20代	13.8	34.1	41.5	4.9	24.4	2.4	2.4	56.1	4.9	4.9	-
	30代	20.5	55.7	55.7	19.7	31.1	21.3	1.6	27.9	1.7	1.6	-
	40代	26.5	74.7	46.8	32.9	17.7	6.3	5.1	16.5	6.3	1.3	2.5
	50代	23.8	62.0	38.0	36.6	15.5	2.8	4.2	16.9	5.6	2.8	7.0
	60歳以上	15.4	26.1	15.2	41.3	10.9	13.0	28.3	10.9	6.5	-	44.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[平成9年8月調査との比較]

性別にみると、今回調査では、女性は「今の家計の状態をよくしたいから」38.9%、男性は「自分が生計の中心だから」65.4%が最も高くなっており、また、前回調査では男女とも「経済的な必要にせまられて」(女性：44.7%、男性：64.9%)が最も高くなっている。経済的理由から働いている状況は前回調査同様、変わらないことがわかる。

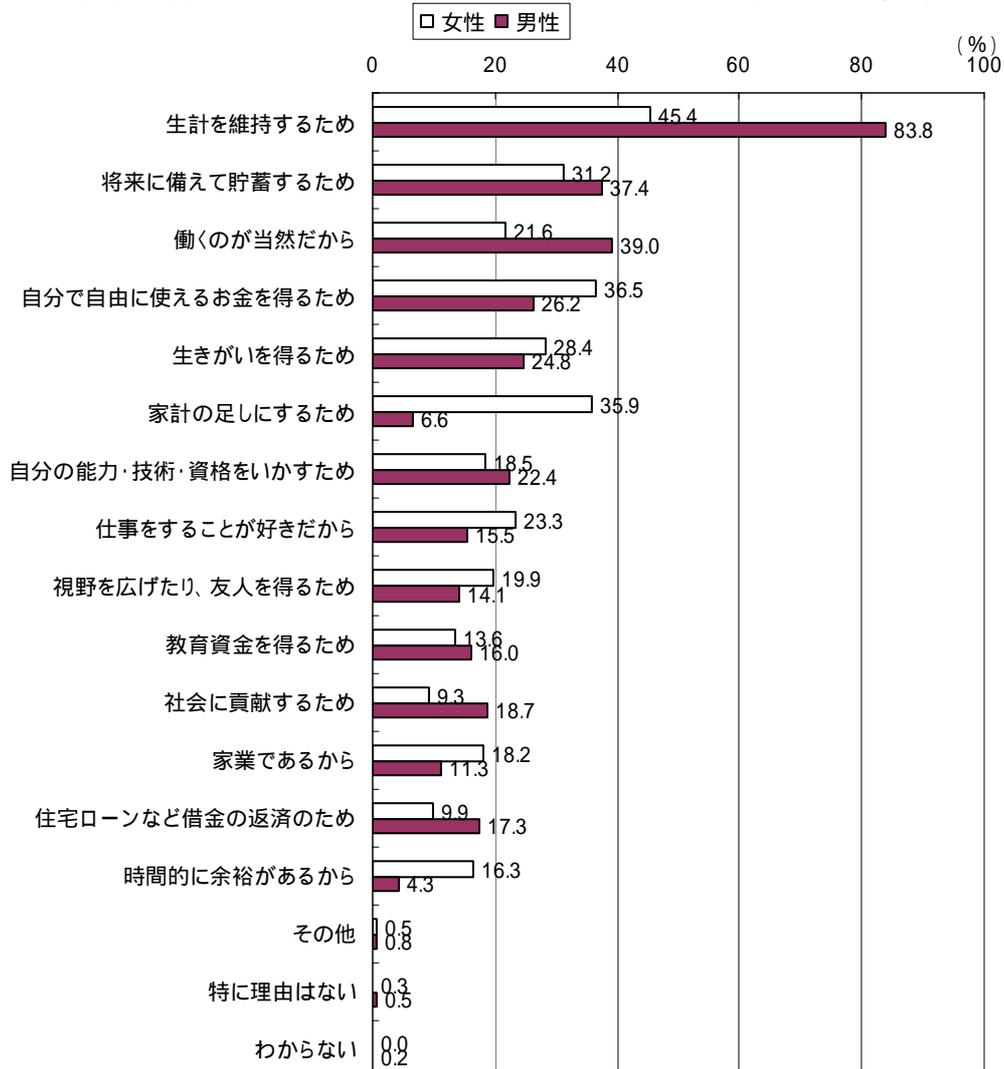
年齢別にみると、前回調査では、20代は「自分の自由になる収入がほしいから」56.1%が最も高くなっているが、今回調査の20代男女とも「経済的に自立するため」(女性：51.7%、男性：52.9%)が高いことから、前回調査よりも経済的な理由が強くなっていることがわかる。

<総理府調査(平成14年7月)より>

問4 あなたが現在働いているのは、どのような理由からでしょうか。

図6-6 職業生活について

女性N = 962、男性N = 1,208



[総理府調査との比較]

今回調査では、「自分が生計の中心だから」(女性：14.2%、男性：65.4%)の男女差が高く、また、それに次いで「働ける間は働くことが務めだから」(女性：29.6%、男性：52.1%)も高くなっている。総理府調査では「生計を維持するため」(女性：45.4%、男性：83.8%)と「働くのが当然だから」(女性：21.6%、男性：39.0%)の男女差が高いことから、行橋市も国と同様に働いている主な理由として、家計や働くことへの意識が女性よりも男性の方が高いことがうかがえる。

問 29 問 27 で「以前していたが今はしていない」、「今までしたことがない」と答えた方のみお答えください。あなたが現在、仕事をしていない主な理由は何ですか。次の中からすべて選んで を付けてください。

**《家事・育児との両立が困難だと感じているのは女性の 20 代、30 代が多い》**

[全体]

現在、仕事をしていない主な理由についてたずねたところ、全体では「年をとったから(定年退職したから)」が 51.3%で最も高く、次いで「自分の健康状態が思わしくないから」18.0%となっている。また、「家事・育児との両立が困難だから」は 9.4%となっている。

[性別]

女性では「年をとったから(定年退職したから)」が 38.0%で最も高く、次いで「自分が働かなくても安定した収入があるから」21.5%となっている。また、「家事・育児との両立が困難だから」は 15.3%となっている。

男性では「年をとったから(定年退職したから)」72.3%が最も高く、次いで「自分の健康状態が思わしくないから」17.8%となっている。

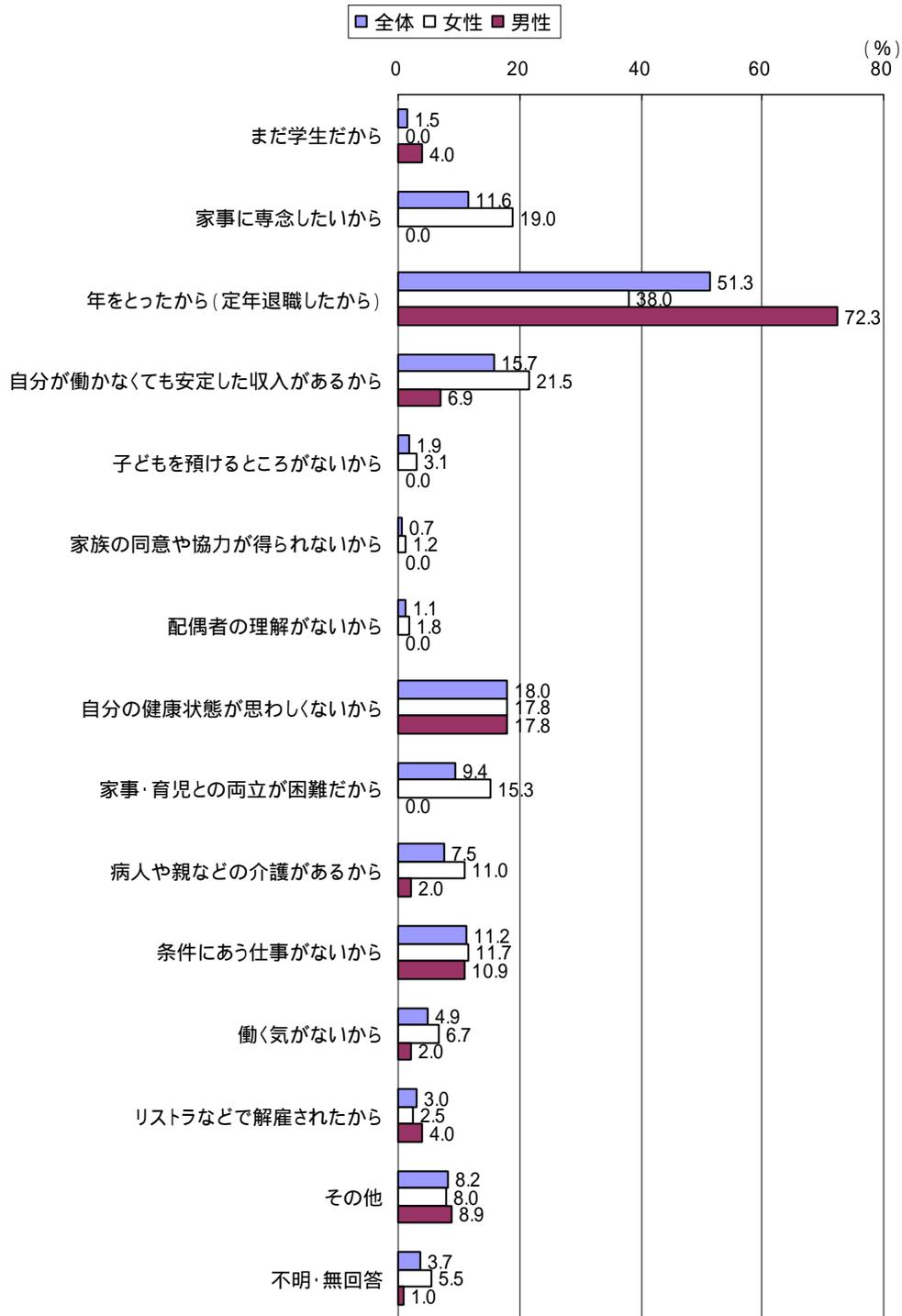
また、「自分の健康状態が思わしくないから」は、男女ともにほぼ同率で高い。

[年齢別]

男女ともに、60代は「年をとったから(定年退職したから)」(女性:71.1%、男性:91.4%)が最も高く、男性の70歳以上も同様となっているが、女性の70歳以上は「家事に専念したいから」が 65.9%で最も高くなっている。また、女性では、40代は「条件にあう仕事がないから」42.3%、50代は「自分が働かなくても安定した収入があるから」33.3%が最も高くなっている。20代、30代では「家事・育児との両立が困難だから」がそれぞれ 75.0%、57.1%で最も高くなっている。

図6-7 現在、仕事をしていない主な理由について

全体N = 267、女性N = 163、男性N = 101



〔調査資料 156 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表6 - 8 職業をもっていない理由【男女年齢別】

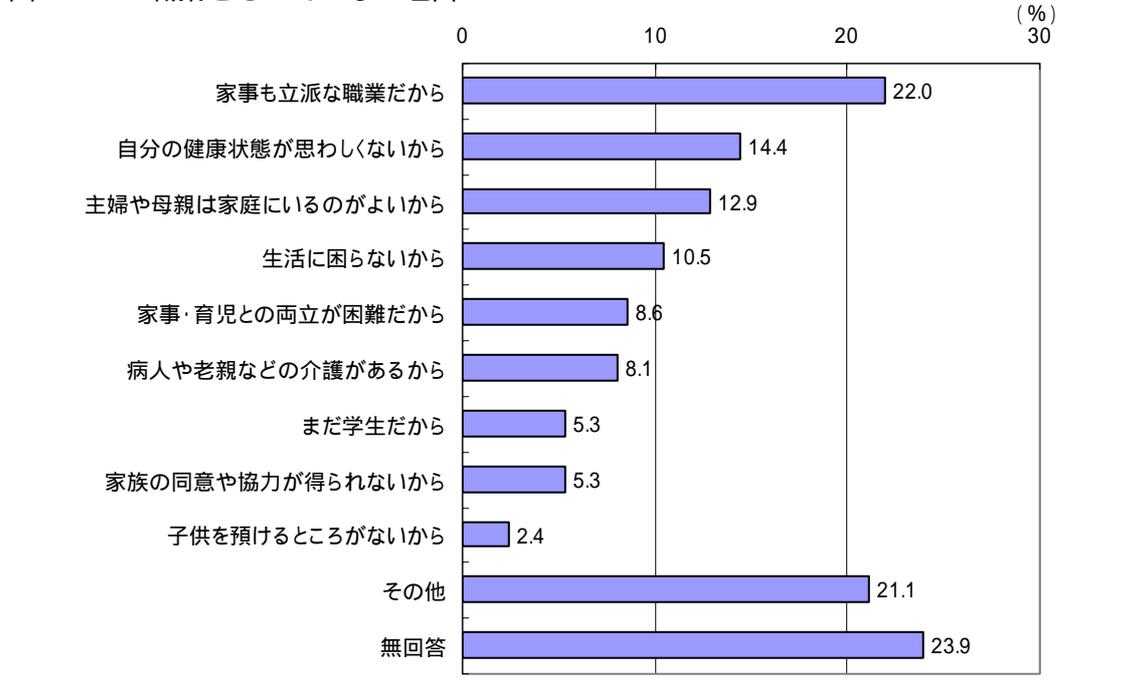
単位：%

		標本数	まだ学生だから	家事に専念したいから	年をとったから（定年退職したから）	入があるから	自分が働かなくても安定した収入があるから	子どもを預けるところがないから	家族の同意や協力が得られないから	配偶者の理解がないから	自分の健康状態が思わしくないから	家事・育児との両立が困難だから	病人や親などの介護があるから	条件にあう仕事がないから	働く気がないから	リストラなどで解雇されたから	その他	不明・無回答
女性		163 100.0	-	31.0 19.0	62.0 38.0	35.0 21.5	5.0 3.1	2.0 1.2	3.0 1.8	29.0 17.8	25.0 15.3	18.0 11.0	19.0 11.7	11.0 6.7	4.0 2.5	13.0 8.0	9.0 5.5	
年齢別	20代	8	-	62.5	-	25.0	25.0	-	-	-	75.0	-	-	25.0	12.5	-	25.0	-
	30代	14	-	35.7	-	35.7	21.4	-	-	-	57.1	-	-	21.4	14.3	-	7.1	7.1
	40代	26	-	26.9	-	26.9	-	7.7	7.7	19.2	34.6	11.5	42.3	11.5	3.8	11.5	-	-
	50代	33	-	18.2	18.2	33.3	-	-	-	24.2	6.1	15.2	6.1	9.1	9.1	12.1	6.1	-
	60代	38	-	7.9	71.1	15.8	-	-	2.6	13.2	-	15.8	2.6	5.3	-	5.3	5.3	-
	70歳以上	44	11.4	65.9	9.1	-	-	-	25.0	-	-	9.1	-	-	-	2.3	9.1	11.4
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性		101 100.0	4.0 4.0	-	73.0 72.3	7.0 6.9	-	-	-	-	18.0 17.8	-	2.0 2.0	11.0 10.9	2.0 2.0	4.0 4.0	9.0 8.9	1.0 1.0
年齢別	20代	8	50.0	-	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	12.5	-	-	25.0	-
	30代	4	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-	25.0	-	-	25.0	25.0	-
	40代	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	
	50代	11	-	-	27.3	-	-	-	-	45.5	-	-	36.4	-	9.1	18.2	-	-
	60代	35	-	-	91.4	5.7	-	-	-	17.1	-	-	11.4	-	5.7	2.9	-	-
	70歳以上	41	-	-	92.7	12.2	-	-	-	12.2	-	2.4	-	4.9	2.4	4.9	-	-
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<平成9年8月調査より>

問 13 SQ - 6 <働いていない方に>あなたが、いま職業をもっていないのは、どのような理由からですか。

図6 - 9 職業をもっていない理由 N = 209



[平成9年8月調査との比較]

仕事をしていない理由として、前回調査と同様に「自分の健康状態が思わしくないから」(前回調査：14.4%、今回調査：18.0%)が高くなっており、健康状態が悪いために働いていない人が多いことがわかる。

## 2 . 職場での状況について

問 30 職場での男女平等の問題や女性が働く上での障害について、次のようなことが言われていますが、あなたが職場で感じたり、人から聞いたりしたことがあれば、すべて選んで を付けてください。

### 《女性の賃金が低いがトップ》

#### [全体]

職場での男女平等の問題や女性が働く上での障害について、職場で感じたり、人から聞いたりしたことをたずねたところ、全体では「女性の賃金が低い」が 42.5%で最も高く、以下「パートや臨時雇が主であること」35.2%、「男女で募集や採用の条件が異なる」34.6%、「女性は雑用や補助的な仕事が多い」33.6%と続いており、女性を取り巻く労働環境の厳しさがうかがえる。

#### [性別]

男女ともに「女性の賃金が低い」(女性：43.4%、男性：42.0%)が最も高く、次いで、女性では「パートや臨時雇が主であること」37.3%、男性では「男女で募集や採用の条件が異なる」38.6%となっている。

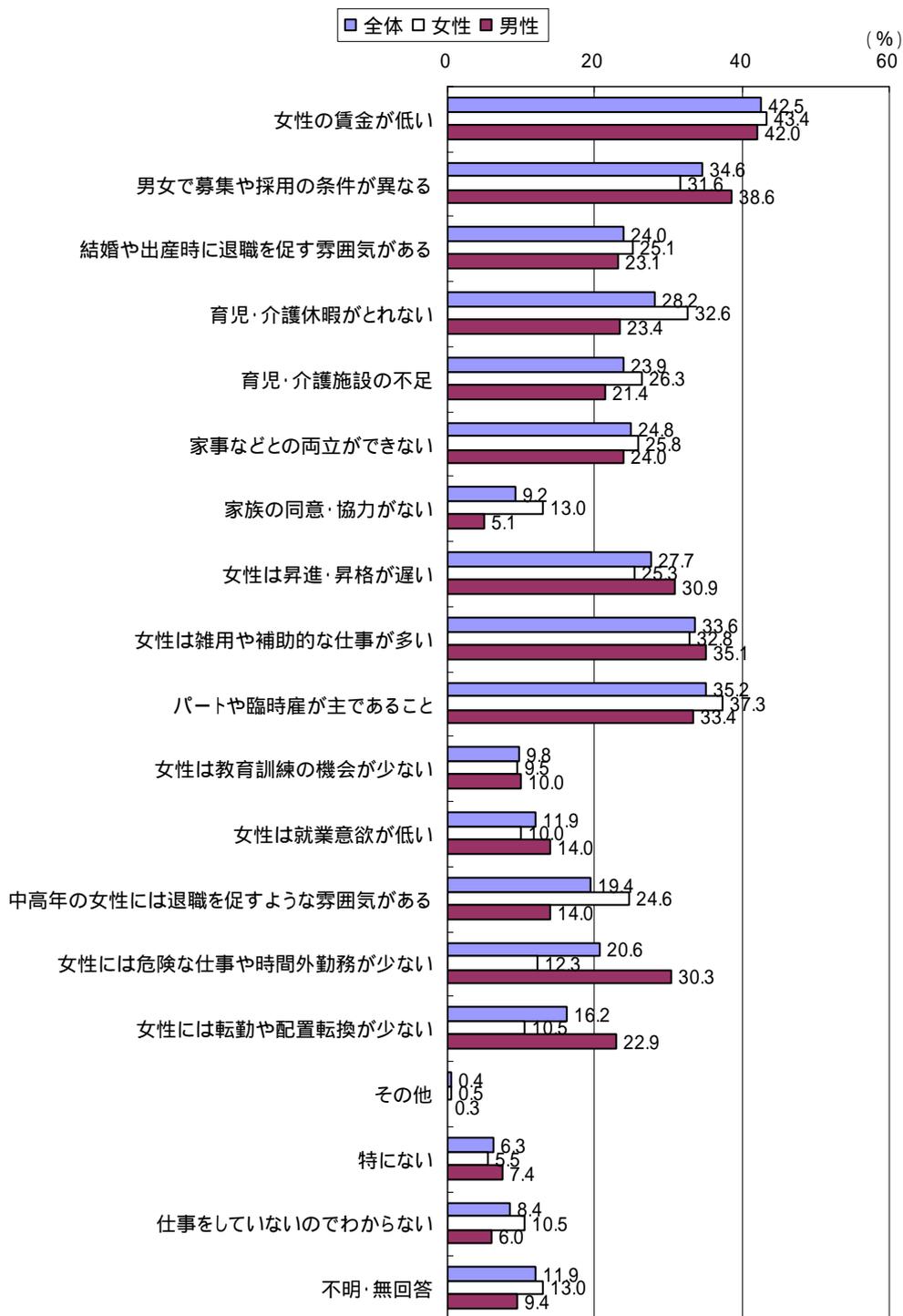
また、男女を比較すると、男女ともに、ほぼ同様の意見が上位を占めているが、女性は、労働条件が良くないという意識がやや高く、男性は、男女が平等となっていないという意識がやや高いことがうかがえる。また、男女差が最も高くなっている項目は「中高年の女性には退職を促すような雰囲気がある」(女性：24.6%、男性：14.0%)であり、その差は10.6%となっている。

#### [職業別]

会社・団体の役員、管理職は「女性は昇進・昇格が遅い」47.1%、正社員・正職員、専業主婦(主夫) 無職は「女性の賃金が低い」がそれぞれ 49.7%、47.4%、39.7%、準社員・常勤嘱託など、パート・アルバイトは「パートや臨時雇が主であること」がそれぞれ 48.3%、50.6%、商工サービス業などの自営業主は「女性の賃金が低い」(59.7%)と「育児・介護休暇がとれない」(52.6%)が最も高くなっており、職業の違いによって意識に差があることがうかがえる。

図 6 - 10 職場での男女平等の問題や女性が働く上での障害について

全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



〔調査資料 157 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表6 - 11 職場での男女平等の問題や女性が働く上での障害について【職業別】 単位：%

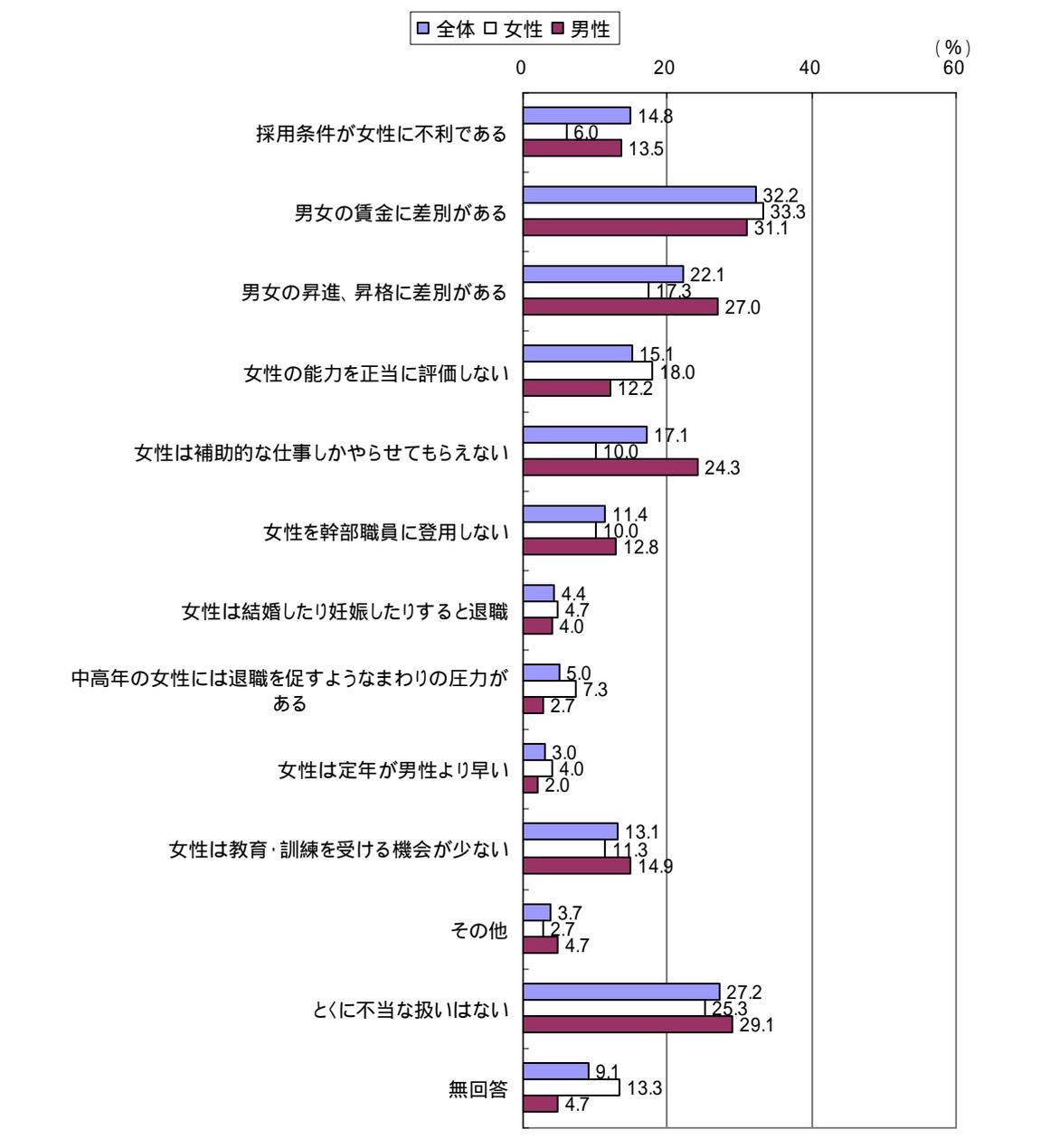
	標本数	女性の賃金が低い	男女で募集や採用の条件が異なる	結婚や出産時に退職を促す雰囲気がある	育児・介護休暇がとれない	育児・介護施設の不足	家事などの両立ができない	家族の同意・協力がでない	女性は昇進・昇格が遅い	女性は雑用や補助的な仕事が多い	パートや臨時雇が主であること	女性は教育訓練の機会が少ない	女性は就業意欲が低い	中高年の女性には退職を促すような雰囲気がある	女性には危険な仕事や時間外勤務が少ない	女性には転勤や配置転換が少ない	その他	特になし	仕事をしていないのでわからない	不明・無回答
全体	758	33.2	26.2	18.2	21.4	18.1	18.8	7.0	21.0	25.5	26.7	7.4	9.0	14.7	15.6	12.3	3.0	4.8	6.4	9.0
農林漁業の自営業主	16	31.3	31.3	12.5	31.3	12.5	12.5	-	18.8	37.5	37.5	-	25.0	18.8	18.8	25.0	-	-	12.5	37.5
農林漁業の家族従業者	10	30.0	-	-	10.0	10.0	10.0	-	10.0	30.0	20.0	-	-	20.0	10.0	-	-	10.0	30.0	30.0
商工サービス業などの自営業主	19	57.9	36.8	36.8	52.6	15.8	42.1	10.5	21.1	47.4	42.1	5.3	15.8	21.1	21.1	15.8	-	10.5	5.3	5.3
商工サービス業などの家族従業者	9	33.3	11.1	33.3	33.3	33.3	22.2	11.1	22.2	33.3	44.4	22.2	22.2	33.3	22.2	22.2	-	11.1	-	11.1
自由業（開業医、弁護士など）	7	42.9	28.6	14.3	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6	42.9	28.6	28.6	28.6	14.3	28.6	14.3	-	28.6	-	-
会社・団体の役員、管理職	34	41.2	29.4	26.5	26.5	17.6	23.5	5.9	47.1	32.4	32.4	5.9	20.6	14.7	32.4	26.5	-	11.8	-	-
正社員・正職員	173	49.7	37.0	30.1	31.8	26.6	27.7	8.7	31.2	38.2	31.8	13.3	15.0	16.8	31.2	26.0	0.6	6.9	1.2	1.2
準社員・常勤嘱託など	29	37.9	51.7	10.3	31.0	44.8	17.2	13.8	44.8	41.4	48.3	13.8	6.9	20.7	34.5	20.7	-	6.9	-	3.4
パート・アルバイト	85	44.7	37.6	23.5	25.9	24.7	27.1	9.4	22.4	29.4	50.6	8.2	10.6	27.1	15.3	7.1	-	11.8	2.4	5.9
フリーター	3	66.7	33.3	66.7	66.7	-	-	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-
臨時雇用・日雇など	14	28.6	21.4	21.4	21.4	28.6	35.7	14.3	21.4	50.0	50.0	7.1	21.4	35.7	21.4	21.4	-	-	7.1	7.1
学生	7	-	71.4	14.3	-	-	28.6	14.3	42.9	42.9	28.6	-	-	-	14.3	-	-	-	14.3	-
専業主婦（主夫）	95	47.4	35.8	27.4	43.2	33.7	27.4	15.8	26.3	34.7	38.9	8.4	9.5	29.5	9.5	11.6	-	1.1	16.8	8.4
無職	116	39.7	37.9	19.0	19.0	24.1	19.8	5.2	25.9	25.0	29.3	11.2	8.6	13.8	20.7	11.2	0.9	4.3	21.6	14.7
その他	36	47.2	36.1	38.9	25.0	16.7	27.8	5.6	36.1	44.4	30.6	8.3	8.3	19.4	25.0	27.8	-	13.9	5.6	8.3
不明・無回答	105	32.4	24.8	16.2	20.0	13.3	21.9	8.6	21.0	26.7	28.6	7.6	8.6	14.3	8.6	9.5	1.0	2.9	8.6	40.0

<平成9年8月調査より>

問 13 SQ - 3 あなたは今の職場で、女性は男性に比べ、どのような面で不当な扱いをされていると思いますか。

図 6 - 12 職場において女性がうけている不当な扱い

N = 298



[平成9年8月調査との比較]

性別にみると、今回調査では、男女とも「女性の賃金が低い」(女性:43.4%、男性:42.0%)が最も高く、次いで、女性では「パートや臨時雇が主であること」37.3%、男性では「男女で募集や採用の条件が異なる」38.6%となっている。また、前回調査では、男女とも「男女の賃金に差別がある」(女性:33.3%、男性:31.1%)が最も高く、次いで、「とくに不当な扱いはない」(女性:25.3%、男性:29.1%)となっており、女性の賃金に対する問題があることは変わっていないが、今回調査では「特にない」が低くなっており、多くの人が女性が働く上で障害があると感じていることがうかがえる。

### 3 . 相談窓口の利用について

問 31 あなたが働く上での悩みや差別などに関する（勤務先の）相談窓口の利用について、項目ごとに、「はい」か「いいえ」のどちらかを選んで番号に を付けてください。

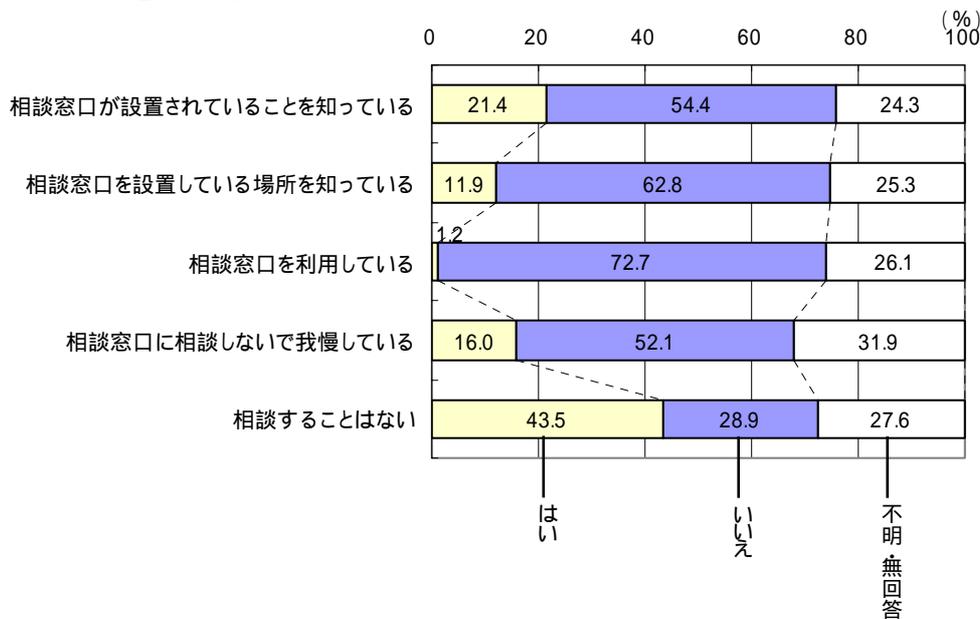
#### 《相談窓口の利用者は 1.2%と低い》

[全体]

働く上での悩みや差別などに関する(勤務先の)相談窓口の利用についてたずねたところ、全体では、相談することはないで「はい」43.5%、それ以外の項目で「いいえ」がそれぞれ52%以上で高くなっており、なかでも、相談窓口を利用しているでは「いいえ」が72.7%と特に高くなっている。また、性別でみると、男性では「相談窓口に相談しないで我慢している」と答えた人が20.3%と高くなっている。

図 6 - 13 相談窓口の利用について

N = 758



[調査資料 158 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付]

### 4 . 職種について

問 32 あなたの職業はどれにあたりますか。 を付けてください。

#### 《正社員・正職員が最も多い》

[全体]

職業についてたずねたところ、全体では「正社員・正職員」が22.8%と最も高く、以下、「無職」15.3%、「専業主婦(主夫)」12.5%、「パート・アルバイト」11.2%と続いており、農林漁業や商工サービス業などは5%未満で低い。

[配偶関係別]

女性では、未婚は「正社員・正職員」42.1%、法律婚（入籍している結婚）は「専業主婦（主夫）」31.6%が最も高くなっており、結婚すると「専業主婦（主夫）」に移行する傾向にある。

男性では、未婚、法律婚（入籍している結婚）ともに「正社員・正職員」がそれぞれ40.0%、33.5%と最も高くなっている。

[世帯別]

女性では、単身世帯、夫婦のみで子どもがいない世帯、高齢期（65歳以上）で夫婦のみの世帯は「専業主婦（主夫）」がそれぞれ16.7%、38.0%、31.8%、核家族世帯（夫婦と子どものみの世帯）は「パート・アルバイト」29.9%、ひとり親と子どもの世帯、三世帯、四世代世帯は「正社員・正職員」がそれぞれ23.4%、27.8%が最も高くなっている。

男性では、単身世帯、高齢期（65歳以上）で夫婦のみの世帯は「無職」がそれぞれ25.0%、54.5%、夫婦のみで子どもがいない世帯、核家族世帯（夫婦と子どものみの世帯）、ひとり親と子どもの世帯、三世帯、四世代世帯は「正社員・正職員」がそれぞれ30.5%、39.1%、36.4%、50.0%、その他の世帯は「会社・団体の役員、管理職」が38.2%で最も高くなっている。

図6 - 14 職種について

N = 758

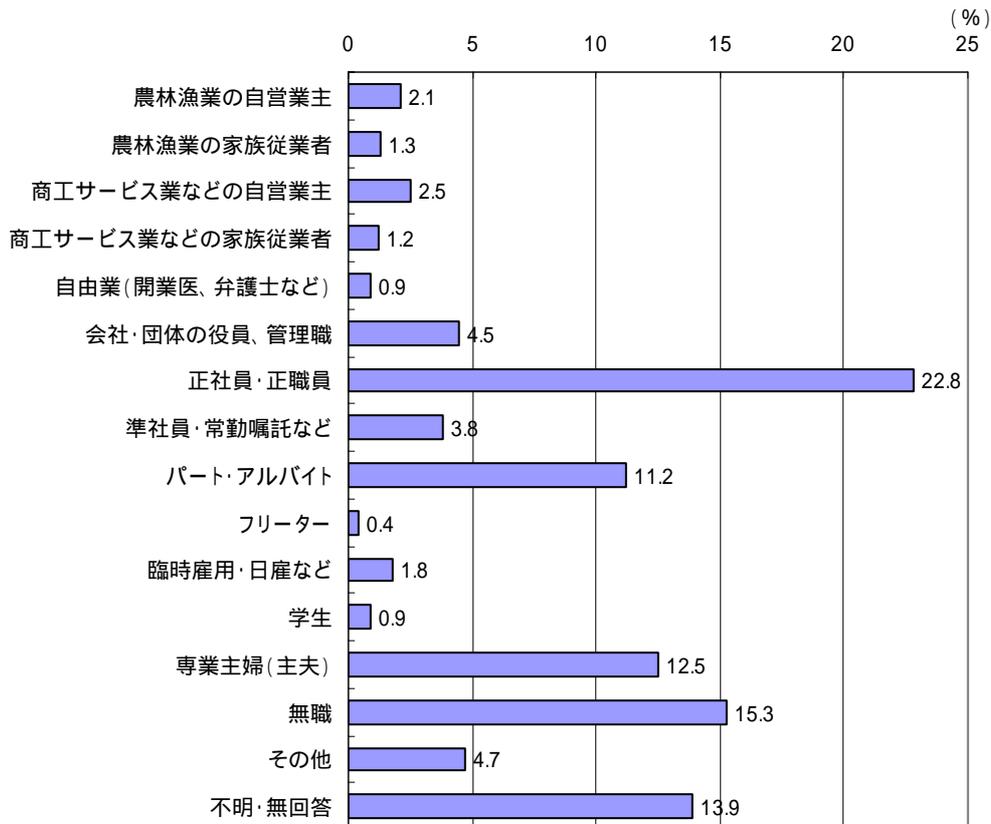


表6 - 15 職種について【男女配偶関係・世帯別】

単位：%

	標本数	農林漁業の自営業主	農林漁業の家族従業者	商工サービス業などの自営業主	商工サービス業などの家族従業者	自由業（開業医、弁護士など）	会社・団体の役員、管理職	正社員・正職員	準社員・常勤嘱託など	パート・アルバイト	フリーター	臨時雇用・日雇など	学生	専業主婦（主夫）	無職	その他	不明・無回答	
女性	399 100.0	1 0.3	9 2.3	4 1.0	8 2.0	4 1.0	4 1.0	59 14.8	15 3.8	69 17.3	-	4 1.0	3 0.8	91 22.8	46 11.5	21 5.3	61 15.3	
配偶関係別	未婚	57	-	1.8	-	-	-	3.5	42.1	8.8	10.5	-	1.8	5.3	-	5.3	12.3	8.8
	法律婚（入籍している結婚）	272	0.4	1.8	1.1	2.2	0.7	0.4	9.9	3.7	21.7	-	0.7	-	31.6	8.1	4.0	13.6
	事実婚（入籍していない結婚）	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	同棲	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	死別	44	-	6.8	-	-	-	-	9.1	-	-	-	-	9.1	36.4	4.5	34.1	-
	離別	16	-	-	6.3	12.5	12.5	6.3	18.8	-	18.8	-	6.3	-	12.5	-	6.3	-
	不明・無回答	8	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	12.5	37.5	12.5	25.0
世帯別	単身世帯	30	-	3.3	-	-	3.3	6.7	13.3	3.3	3.3	-	-	-	16.7	10.0	13.3	26.7
	夫婦のみで子どもがいない世帯	50	-	-	2.0	4.0	-	-	2.0	10.0	20.0	-	-	-	38.0	8.0	4.0	12.0
	高齢期（65歳以上）で夫婦のみの世帯	44	-	4.5	-	2.3	-	-	2.3	-	4.5	-	-	-	31.8	22.7	4.5	27.3
	核家族世帯（夫婦と子どものみの世帯）	137	0.7	-	0.7	0.7	-	1.5	16.8	4.4	29.9	-	1.5	-	24.8	4.4	2.9	11.7
	ひとり親と子どもの世帯	47	-	4.3	-	2.1	-	-	23.4	4.3	8.5	-	2.1	2.1	12.8	21.3	8.5	10.6
	三世代、四世代世帯	54	-	5.6	1.9	3.7	1.9	-	27.8	-	13.0	-	-	3.7	14.8	14.8	3.7	9.3
	その他の世帯	30	-	-	3.3	-	6.7	-	13.3	3.3	13.3	-	3.3	-	10.0	16.7	10.0	20.0
不明・無回答	5	-	14.3	-	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	28.6	-	-	42.9	
男性	350 100.0	14 4.0	1 0.3	14 4.0	1 0.3	3 0.9	30 8.6	114 32.6	14 4.0	16 4.6	3 0.9	10 2.9	4 1.1	4 1.1	69 19.7	15 4.3	38 10.9	
配偶関係別	未婚	70	1.4	-	2.9	-	1.4	2.9	40.0	7.1	12.9	2.9	1.4	5.7	-	12.9	1.4	7.1
	法律婚（入籍している結婚）	251	4.8	-	4.4	0.4	0.8	11.2	33.5	3.2	2.4	0.4	3.2	-	1.6	19.9	5.2	9.2
	事実婚（入籍していない結婚）	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	同棲	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
	死別	12	8.3	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	50.0
	離別	30	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	37.5	12.5	25.0	-	
	不明・無回答	7	-	-	-	-	-	16.7	16.7	16.7	-	-	-	16.7	-	33.3	-	
世帯別	単身世帯	24	4.2	-	-	-	-	12.5	4.2	4.2	-	-	4.2	-	25.0	12.5	33.3	
	夫婦のみで子どもがいない世帯	59	5.1	-	8.5	-	1.7	10.2	30.5	5.1	3.4	-	5.1	-	1.7	15.3	3.4	10.2
	高齢期（65歳以上）で夫婦のみの世帯	44	6.8	-	4.5	-	-	-	9.1	2.3	4.5	-	-	-	4.5	54.5	2.3	11.4
	核家族世帯（夫婦と子どものみの世帯）	128	1.6	-	3.1	0.8	0.8	13.3	39.1	3.9	4.7	2.3	3.9	0.8	-	12.5	4.7	8.6
	ひとり親と子どもの世帯	22	13.6	4.5	-	-	-	4.5	36.4	-	4.5	-	4.5	4.5	-	22.7	-	4.5
	三世代、四世代世帯	34	2.9	-	5.9	-	-	11.8	50.0	5.9	-	-	2.9	2.9	-	5.9	2.9	8.8
	その他の世帯	34	-	2.9	-	2.9	5.9	38.2	5.9	8.8	-	-	2.9	20.6	5.9	5.9	-	
不明・無回答	5	-	-	-	-	-	20.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-	40.0	-	

問32 - 1 （問32で「会社・団体の役員、管理職」、「正社員・正職員」、「準社員・常勤嘱託など」、「パート・アルバイト」と答えた方に）次のような制度などが、あなたの勤め先があれば、すべて選んで を付けてください。

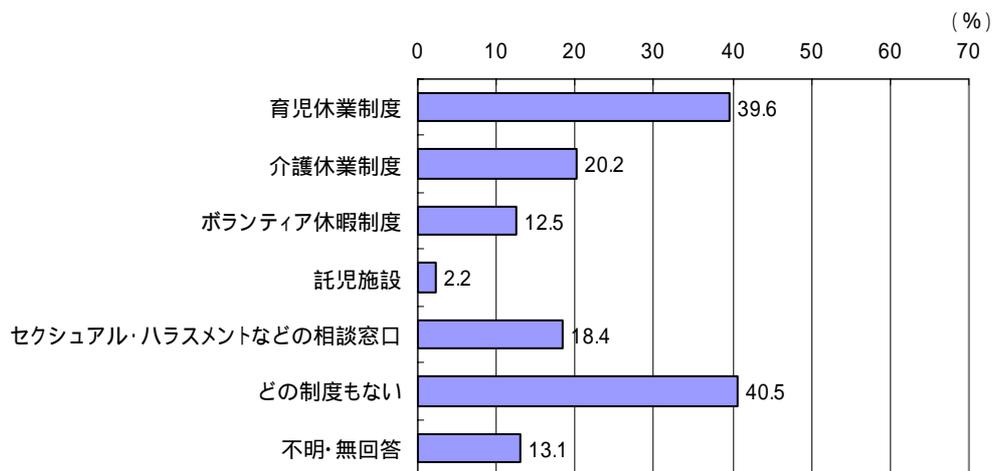
《勤め先にある制度は、育児休業制度が最も高い》

[全体]

会社などの勤め先にどのような制度があるかについてたずねたところ、全体では「育児休業制度」39.6%と「どの制度もない」40.5%が最も高く、次いで「介護休業制度」20.2%となっており、最も低いのは「託児施設」2.2%となっている。

図 6 - 16 勤め先にある制度について

N = 321



〔調査資料 159 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

問 32 - 1 - 1 (問 32 - 1 で「育児休業制度」、「介護休業制度」、「ボランティア休暇制度」、「託児施設」、「セクシュアル・ハラスメントなどの相談窓口」と答えた方に) あなたは、その制度などを利用したことがありますか。利用したものをすべて選んで を付けてください。

《制度の利用はいずれも 5 % 未満》

[全体]

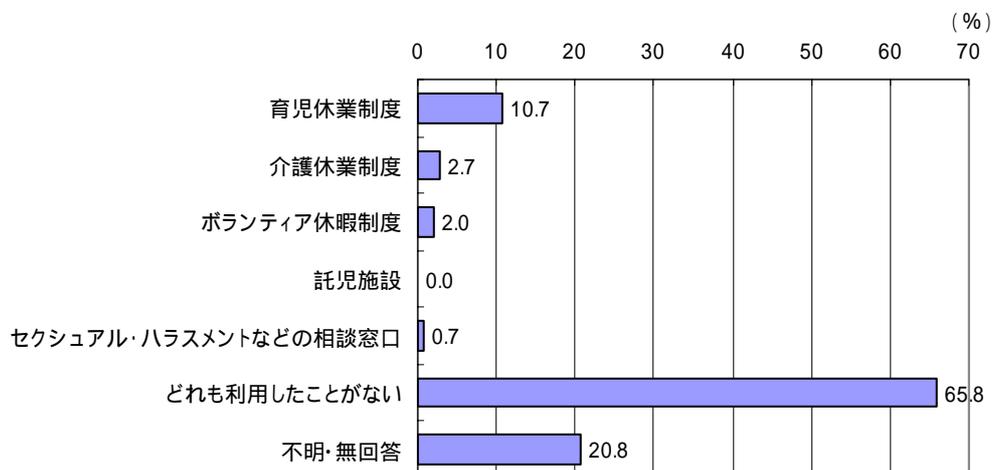
会社などに勤めている人がどのような制度を利用したことがあるかについてたずねたところ、全体では「どれも利用したことがない」が 65.8% で最も高く、次いで「育児休業制度」10.7%、「介護休業制度」2.7% となっており、「託児施設」への回答はみられない。

[職業別]

男女ともに、正社員・正職員では「どれも利用したことがない」(女性：50.0%、男性：70.0%) が最も高いが、次いで、女性は「育児休業制度」34.4%、男性は「介護休業制度」と「ボランティア休暇制度」がともに 4.3% となっている。

図 6 - 17 勤め先にある制度の利用について

N = 149



〔調査資料 159 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表6 - 18 勤め先にある制度の利用について【男女職業別】

単位：％

	女性							男性									
	標本数	育児休業制度	介護休業制度	ボランティア休暇制度	託児施設	メンタルなどの相談窓口	セクシュアル・ハラスメントなど	どれも利用したことがない	不明・無回答	標本数	育児休業制度	介護休業制度	ボランティア休暇制度	託児施設	メンタルなどの相談窓口	セクシュアル・ハラスメントなど	どれも利用したことがない
全体	49	12	1	-	-	1	24	11	100	4	3	3	-	-	74	20	
	100.0	24.5	2.0	-	-	2.0	49.0	22.4	100.0	4.0	3.0	3.0	-	-	74.0	20.0	
農林漁業の自営業主	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農林漁業の家族従業者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
商工サービス業などの自営業主	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
商工サービス業などの家族従業者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
自由業（開業医、弁護士など）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
会社・団体の役員、管理職	2	50.0	-	-	-	-	-	50.0	17	11.8	-	-	-	-	76.5	11.8	
正社員・正職員	32	34.4	-	-	-	-	50.0	15.6	70	2.9	4.3	4.3	-	-	70.0	24.3	
準社員・常勤嘱託など	6	-	-	-	-	16.7	33.3	50.0	9	-	-	-	-	-	88.9	11.1	
パート・アルバイト	9	-	11.1	-	-	-	66.7	22.2	4	-	-	-	-	-	100.0	-	
フリーター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
臨時雇用・日雇など	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
専業主婦（主夫）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無職	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

問 32 - 2 （問 32 で「会社・団体の役員、管理職」、「正社員・正職員」、「準社員・常勤嘱託など」、「パート・アルバイト」と答えた方に）制度などがあるのに利用しなかった場合、その主な理由を、次のなかから 2つだけ選んで を付けてください。

《制度を利用しにくい雰囲気職場があるが2番目に高い》

[全体]

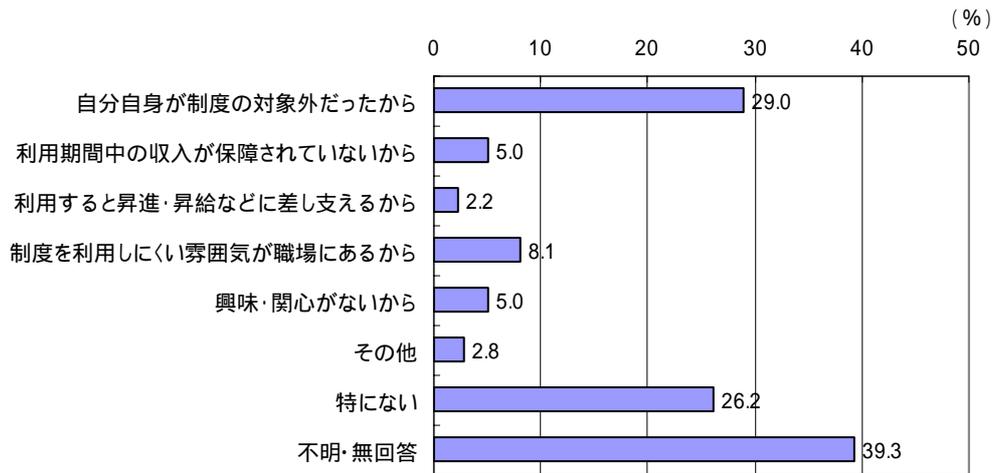
会社などに勤めている人が各種の制度などがあるのに利用しなかった場合の主な理由についてたずねたところ、全体では「自分自身が制度の対象外だったから」29.0%と「特にない」26.2%が高く、次いで「制度を利用しにくい雰囲気が職場にあるから」8.1%となっている。

[職業別]

正社員・正職員、パート・アルバイトでは、女性は「自分自身が制度の対象外だったから」がそれぞれ33.9%、29.0%で最も高く、次いで「特にない」がそれぞれ20.3%、14.5%となっているが、男性は「特にない」が31.6%と37.5%で最も高く、次いで「自分自身が制度の対象外だったから」がそれぞれ26.3%、25.0%となっている。

図6 - 19 勤め先にある制度を利用しなかった主な理由について【全体】

N = 321



(調査資料 160 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付)

表6 - 20 勤め先にある制度を利用しなかった主な理由について【男女職業別】 単位：%

	女性							男性																			
	標本数	自分自身が制度の対象外だったから	利用期間中の収入が保障されていないから	差し支えるから	利用すると昇進・昇給などに差し支えるから	職場にあるから	制度を利用しにくい雰囲気が職場にあるから	興味・関心がないから	その他	特になし	不明・無回答	標本数	自分自身が制度の対象外だったから	利用期間中の収入が保障されていないから	差し支えるから	利用すると昇進・昇給などに差し支えるから	職場にあるから	制度を利用しにくい雰囲気が職場にあるから	興味・関心がないから	その他	特になし	不明・無回答					
全体	147	43	7	2	12	-	3	26	71	174	50	9	5	14	16	6	58	55	100.0	28.7	5.2	2.9	8.0	9.2	3.4	33.3	31.6
農林漁業の自営業主	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
農林漁業の家族従業者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
商工サービス業などの自営業主	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
商工サービス業などの家族従業者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自由業（開業医、弁護士など）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
会社・団体の役員、管理職	4	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	30	26.7	6.7	6.7	3.3	6.7	3.3	30.0	40.0	100.0	28.7	5.2	2.9	8.0	9.2	3.4	33.3	31.6
正社員・正職員	59	33.9	6.8	3.4	11.9	-	-	20.3	40.7	114	26.3	6.1	2.6	11.4	8.8	2.6	31.6	32.5	100.0	28.7	5.2	2.9	8.0	9.2	3.4	33.3	31.6
準社員・常勤嘱託など	15	6.7	-	-	6.7	-	-	26.7	60.0	14	57.1	-	-	-	14.3	7.1	50.0	7.1	100.0	28.7	5.2	2.9	8.0	9.2	3.4	33.3	31.6
パート・アルバイト	69	29.0	4.3	-	5.8	-	4.3	14.5	52.2	16	25.0	-	-	-	12.5	6.3	37.5	31.3	100.0	28.7	5.2	2.9	8.0	9.2	3.4	33.3	31.6
フリーター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
臨時雇用・日雇など	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
専業主婦（主夫）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無職	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



## 6 . 理想の就労形態について

問 34 あなたの理想の就業形態は次の中ではどれにあたりますか。 1つだけ選んで を付けてください。

### 《理想の就労形態は多様化している》

#### [全体]

理想の就業形態についてたずねたところ、全体では「常勤の仕事」が39.6%で最も高く、次いで「パートタイム・アルバイトの仕事」11.7%、「自営業」8.6%となっており、それら以外の就業形態への回答にはばらつきがみられる。

#### [性別]

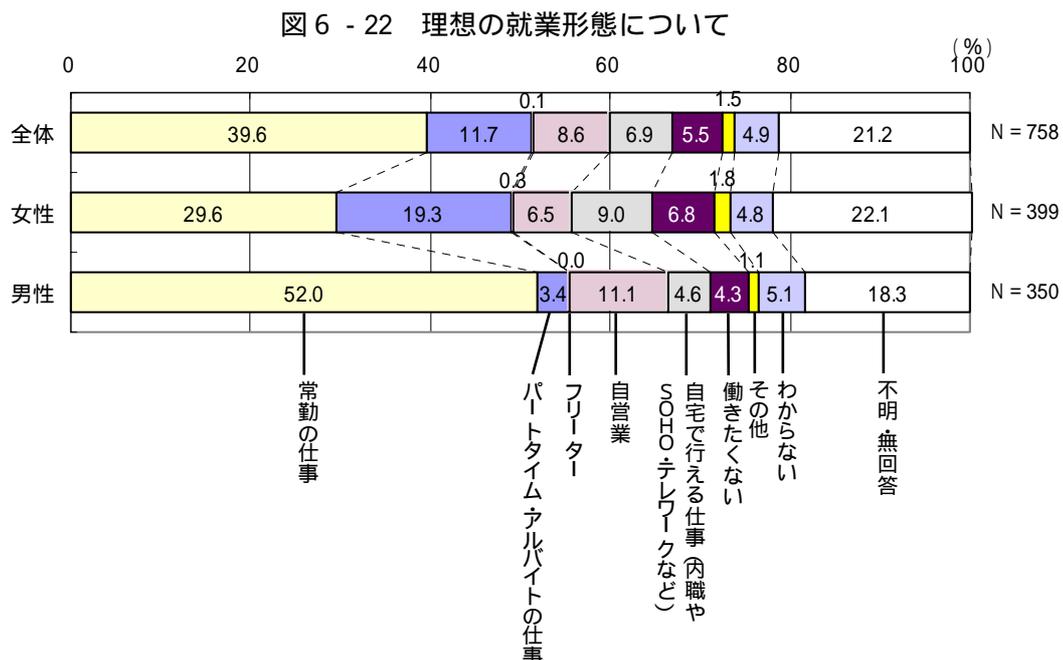
男女ともに「常勤の仕事」(女性：29.6%、男性：52.0%)が最も高いが、男性が女性の約2倍の回答となっている。次いで、女性では「パートタイム・アルバイトの仕事」19.3%、男性では「自営業」11.1%となっており、男女に差がみられる。

#### [年齢別]

女性の40代は「パートタイム・アルバイトの仕事」が28.2%で最も高くなっている。それ以外の年齢層では、男女ともに「常勤の仕事」が最も高く、次いで、女性は「パートタイム・アルバイトの仕事」、男性は「自営業」となっている。

#### [職業別]

会社・団体の役員、管理職、正社員・正職員、準社員・常勤嘱託、臨時雇用・日雇などは「常勤の仕事」がそれぞれ50%～70%で最も高く、パート・アルバイト、専業主婦(主夫)は「パートタイム・アルバイトの仕事」がそれぞれ48.2%、28.4%で最も高くなっている。



(調査資料 162 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付)

表6 - 23 理想の就業形態について【男女年齢別・職業別】

単位：%

		合計	常勤の仕事	パートタイム・アルバイトの仕事	フリーター	自営業	自宅でできる仕事（内職やSOH・テレワークなど）	働きたくない	その他	わからない	不明・無回答
女性		399 100.0	118 29.6	77 19.3	1 0.3	26 6.5	36 9.0	27 6.8	7 1.8	19 4.8	88 22.1
年齢別	20代	45	53.3	13.3	2.2	6.7	6.7	13.3	-	2.2	2.2
	30代	46	45.7	26.1	-	-	10.9	10.9	2.2	-	4.3
	40代	71	21.1	28.2	-	7.0	18.3	9.9	2.8	4.2	8.5
	50代	93	35.5	22.6	-	7.5	6.5	6.5	1.1	4.3	16.1
	60代	76	25.0	21.1	-	10.5	6.6	2.6	3.9	9.2	21.1
	70歳以上	68	8.8	2.9	-	4.4	5.9	1.5	-	5.9	70.6
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性		350 100.0	182 52.0	12 3.4	-	39 11.1	16 4.6	15 4.3	4 1.1	18 5.1	64 18.3
年齢別	20代	46	65.2	-	-	23.9	2.2	2.2	-	4.3	2.2
	30代	46	65.2	4.3	-	6.5	6.5	6.5	2.2	6.5	2.2
	40代	42	69.0	2.4	-	7.1	9.5	4.8	-	2.4	4.8
	50代	80	65.0	1.3	-	12.5	5.0	2.5	1.3	3.8	8.8
	60代	79	40.5	7.6	-	11.4	2.5	3.8	1.3	6.3	26.6
	70歳以上	57	15.8	3.5	-	5.3	3.5	7.0	1.8	7.0	56.1
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全体		758 100.0	300 39.6	89 11.7	1 0.1	65 8.6	52 6.9	42 5.5	11 1.5	37 4.9	161 21.2
職業別	農林漁業の自営業主	16	12.5	-	-	31.3	6.3	-	-	12.5	37.5
	農林漁業の家族従業者	10	10.0	-	-	20.0	-	-	-	10.0	60.0
	商工サービス業などの自営業主	19	15.8	-	-	73.7	-	-	-	-	10.5
	商工サービス業などの家族従業者	9	33.3	11.1	-	44.4	-	11.1	-	-	-
	自由業（開業医、弁護士など）	7	28.6	-	-	42.9	14.3	-	-	14.3	-
	会社・団体の役員、管理職	34	55.9	2.9	-	11.8	5.9	5.9	2.9	8.8	5.9
	正社員・正職員	173	69.4	3.5	0.6	5.2	6.4	6.9	0.6	2.3	5.2
	準社員・常勤嘱託など	29	69.0	13.8	-	10.3	-	6.9	-	-	-
	パート・アルバイト	85	35.3	48.2	-	3.5	4.7	4.7	-	1.2	2.4
	フリーター	3	33.3	-	-	66.7	-	-	-	-	-
	臨時雇用・日雇など	14	50.0	7.1	-	14.3	21.4	-	-	-	7.1
	学生	7	71.4	-	-	-	-	-	-	28.6	-
	専業主婦（主夫）	95	16.8	28.4	-	2.1	16.8	9.5	4.2	9.5	12.6
	無職	116	30.2	1.7	-	4.3	6	7.8	3.4	8.6	37.9
	その他	36	58.3	8.3	-	2.8	8.3	2.8	2.8	5.6	11.1
不明・無回答	105	14.3	2.9	-	5.7	3.8	1.9	-	1.9	69.5	

## 第7章 社会活動について

### 1. 社会活動の参加意向について

問 35 あなたは地域社会において、今どのような活動に参加していますか。また、今後どのような活動に参加してみたいと思いますか。それぞれ選んで番号に を付けてください。

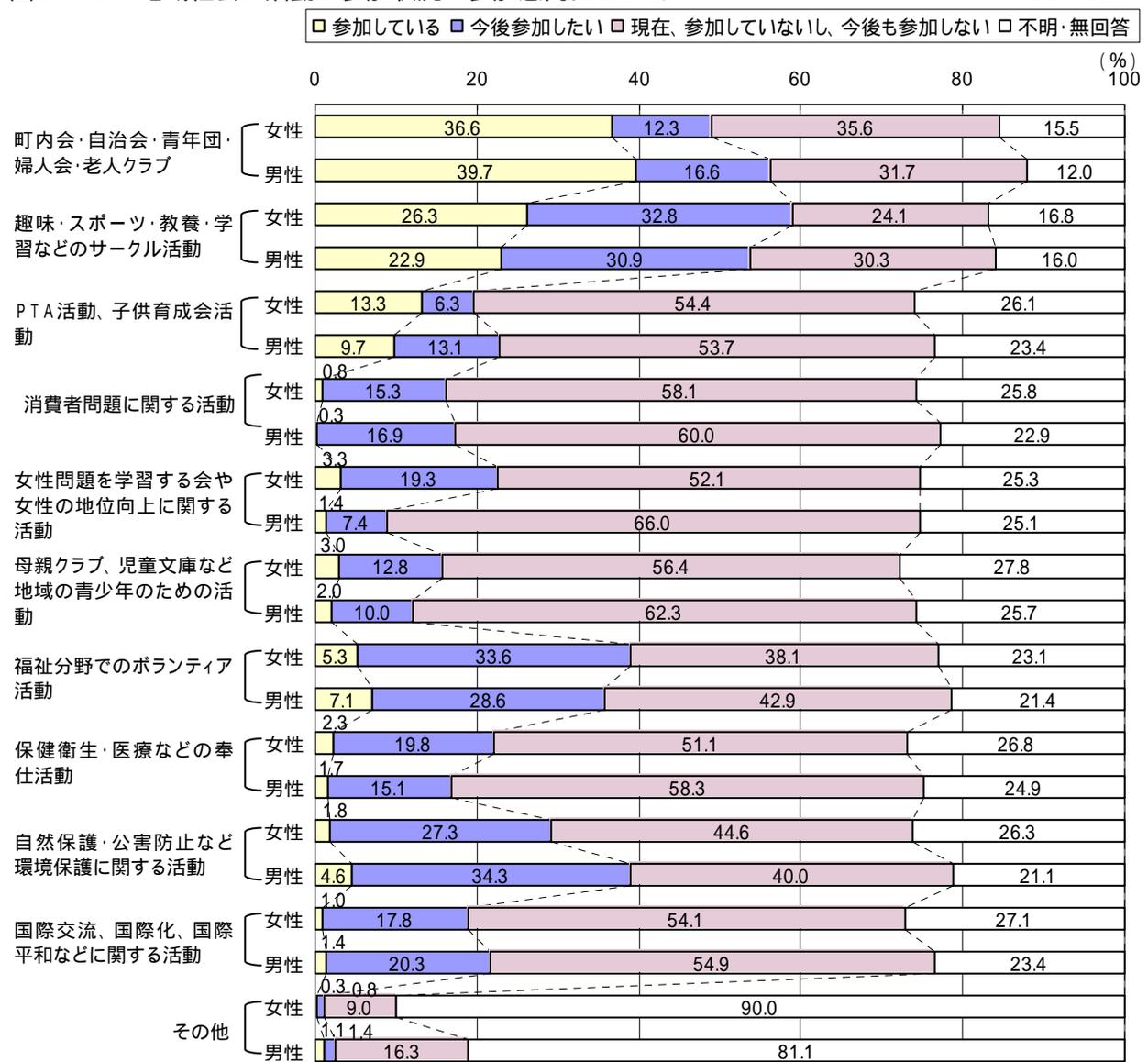
《今後の参加希望が高いのはサークル活動と福祉分野でのボランティア活動》

[性別]

「参加している」は、男女ともに、「町内会・自治会・青年団、婦人会、老人クラブ」が女性 36.6%、男性が 39.7%でそれら以外の項目にくらべて高く、「今後参加したい」は、男女ともに、「趣味・スポーツ・教養・学習などのサークル活動」「福祉分野でのボランティア活動」、「自然保護・公害防止など環境保護に関する活動」が、それら以外の項目に比べてやや高くなっている。また、「女性問題を学習する会や女性の地位向上に関する活動」の「今後参加したい」では、女性 19.3%が男性 7.4%を約 12 ポイント上回っている。

図 7 - 1 地域社会の活動の参加状況・参加意向について

N = 758



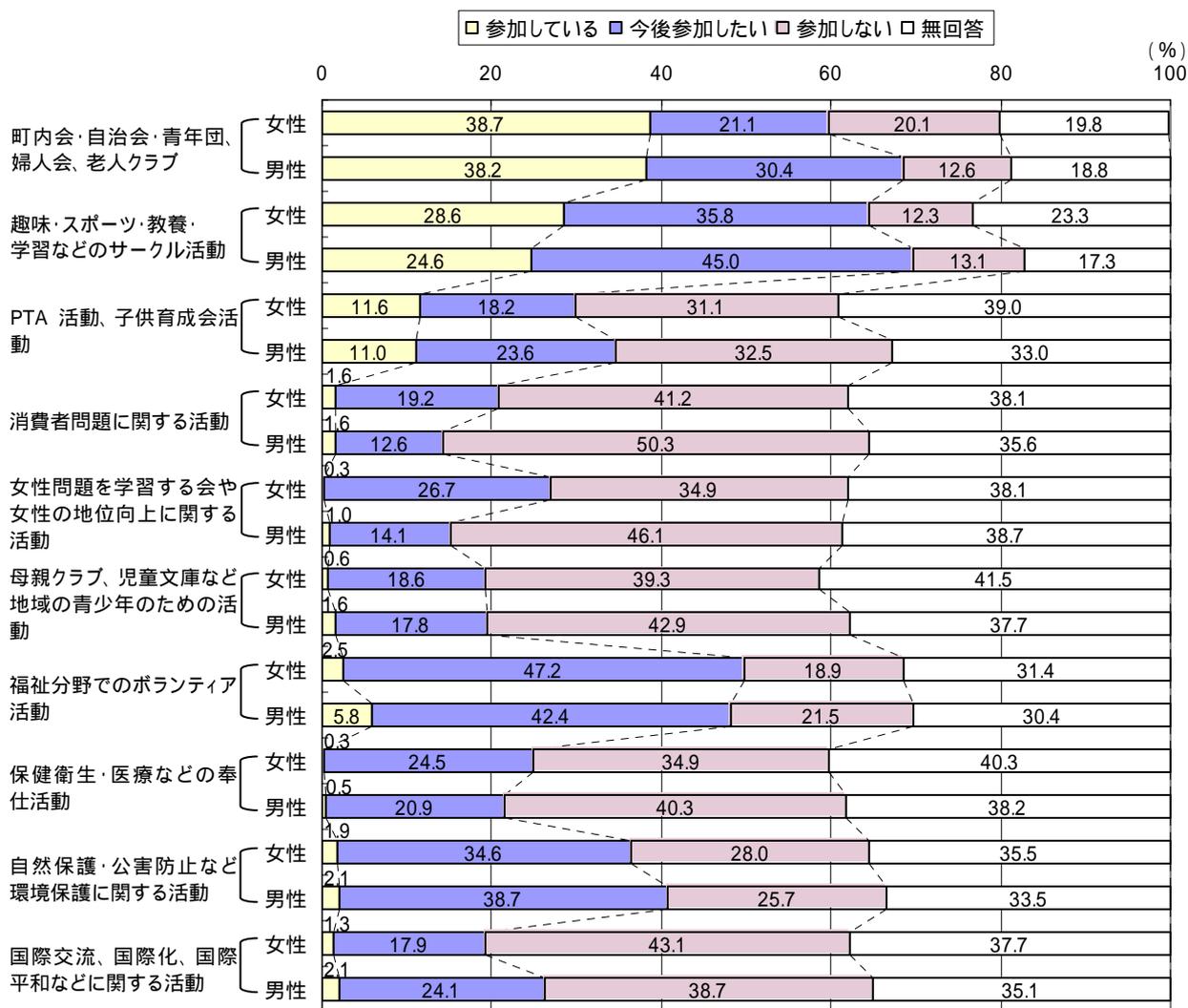
[調査資料 163 ~ 165 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付]

<平成9年8月調査より>

問 28 あなたは地域社会において、いまどのような活動に参加していますか。また、今後どのような活動に参加してみたいと思いますか。

図7-2 地域活動の参加状況・参加意向

N = 512



[平成9年8月調査との比較]

前回調査では、今後参加したい活動では「福祉分野でのボランティア活動」が女性47.2%、男性42.4%と男女とも高く、今回調査では女性33.6%、男性28.6%とその割合はやや低くなっている。また、福祉分野へのボランティア活動へ参加している割合は前回調査が女性2.5%、男性5.8%、今回調査が女性5.3%、男性7.1%と同程度である。

問 36 問 35 で「参加している」、「今後参加したい」と答えた方のみお答えください。あなたが活動している（活動したい）理由、目的は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで を付けてください。

《自分の生きがいのためと地域や社会をよくするためが高い》

[全体]

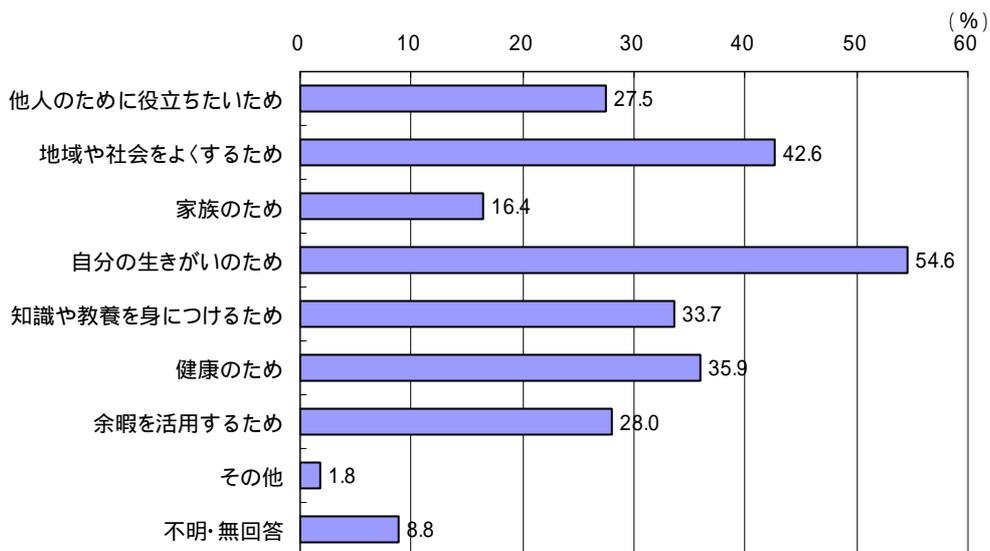
活動している（活動したい）理由、目的についてたずねたところ、全体では「自分の生きがいのため」が 54.6%で最も高く、次いで「地域や社会をよくするため」42.6%となっている。

[年齢別]

女性では、40代は「地域や社会をよくするため」が41.5%、それ以外は「自分の生きがいのため」がそれぞれ45%～75%以上と最も高くなっている。男性では、20代は「知識や教養を身につけるため」51.7%、それ以外は「地域や社会をよくするため」がそれぞれ47%～63%と最も高くなっており、男女に差がみられる。

図 7 - 3 地域活動の参加理由・目的について【全体】

N = 599



〔調査資料 166 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表7-4 地域活動の参加理由・目的について【男女年齢別】

単位：%

		標本数	他人のために役立ちたいため	地域や社会をよくするために	家族のため	自分の生きがいのため	知識や教養を身につけるため	健康のため	余暇を活用するため	その他	不明・無回答
女性		321 100.0	75 23.4	110 34.3	49 15.3	190 59.2	116 36.1	108 33.6	83 25.9	6 1.9	29 9.0
年齢別	20代	37	21.6	27.0	10.8	56.8	40.5	21.6	16.2	8.1	-
	30代	37	24.3	35.1	35.1	45.9	40.5	13.5	18.9	-	2.7
	40代	65	24.6	41.5	27.7	38.5	36.9	26.2	16.9	-	16.9
	50代	84	27.4	35.7	8.3	70.2	38.1	36.9	36.9	1.2	9.5
	60代	64	20.3	35.9	7.8	75.0	35.9	50.0	26.6	1.6	4.7
	70歳以上	34	17.6	20.6	5.9	58.8	20.6	44.1	32.4	2.9	17.6
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性		273 100.0	88 32.2	142 52.0	48 17.6	134 49.1	85 31.1	105 38.5	83 30.4	5 1.8	23 8.4
年齢別	20代	29	17.2	20.7	20.7	48.3	51.7	27.6	20.7	-	-
	30代	34	23.5	47.1	32.4	35.3	29.4	23.5	20.6	-	2.9
	40代	38	28.9	57.9	23.7	44.7	31.6	18.4	31.6	7.9	7.9
	50代	66	48.5	62.1	19.7	60.6	33.3	57.6	31.8	-	4.5
	60代	67	28.4	53.7	7.5	46.3	25.4	35.8	35.8	3.0	14.9
	70歳以上	39	33.3	53.8	10.3	51.3	23.1	51.3	33.3	-	15.4
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## &lt;平成9年8月調査より&gt;

問28 SQ-1 <問28で「参加している」に1つ以上答えた人に>あなたがその活動に参加しているのはどのような理由からですか。

表7-5 地域活動に参加している理由N=304

単位：%

		合計	活動に参加している理由										
			役目が順番制だから	自分の専門や能力をいかしたいから	人や世の中、地域に役立つから	自分を成長させたいから	教養になるから	実生活に役立つから	行政や他人任せではいけないから	友達ができるから	時間に余裕があるので	その他	無回答
全体		100.0	32.2	8.2	23.0	2.4	7.9	5.3	4.9	28.0	9.2	3.3	9.2
性別	女性	62.8	33.5	6.8	15.7	22.0	9.9	6.3	2.1	27.7	9.9	2.6	11.0
	男性	36.8	30.4	10.7	35.7	20.5	3.6	3.6	9.8	28.6	8.0	44.5	6.3
	無回答	0.3	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
年齢別	20代	6.9	14.3	14.3	9.5	42.9	9.5	4.8	-	19.0	9.5	19.0	-
	30代	17.8	35.2	13.0	22.2	22.2	11.1	7.4	5.6	25.9	3.7	3.7	3.7
	40代	23.7	43.1	6.9	27.8	23.6	5.6	22.8	4.2	22.2	8.3	1.4	8.3
	50代	18.8	29.8	8.8	19.3	28.1	5.3	3.5	1.8	31.6	12.3	11.8	8.8
	60歳以上	32.6	27.3	5.1	25.3	11.1	9.1	7.1	8.1	32.3	11.1	2.0	15.2
	無回答	0.3	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-

## [平成9年8月調査との比較]

性別で見ると、前回調査では「役目が順番制だから」(女性：33.5%、男性：30.4%)が最も高かったが、今回調査は女性では「自分の生きがいのため」59.2%、男性では「地域や社会をよくするために」52.0%が最も高くなっており、自主的な地域活動への意識が高くなっていることがうかがえる。

## 2．社会活動に参加する上での支障について

問 37 あなたが社会活動に参加する上で、支障になることはありますか。あてはまるものをすべて選んで を付けてください。

### 《仕事に次いで健康や体力に自信がないが高い》

#### [全体]

社会活動に参加する上で、支障になることについてたずねたところ、全体では「仕事」が31.8%で最も高く、次いで「健康や体力に自信がない」22.7%となっており、最も低いのは「子どもをみてくれる人・施設がない」3.3%となっている。

#### [性別]

男女ともに「仕事」(女性：28.1%、男性：36.9%)が最も高く、次いで、女性では「健康や体力に自信がない」25.3%、男性では「興味のもてる活動が見つからない」と「特に支障になることはない」がともに21.1%となっている。

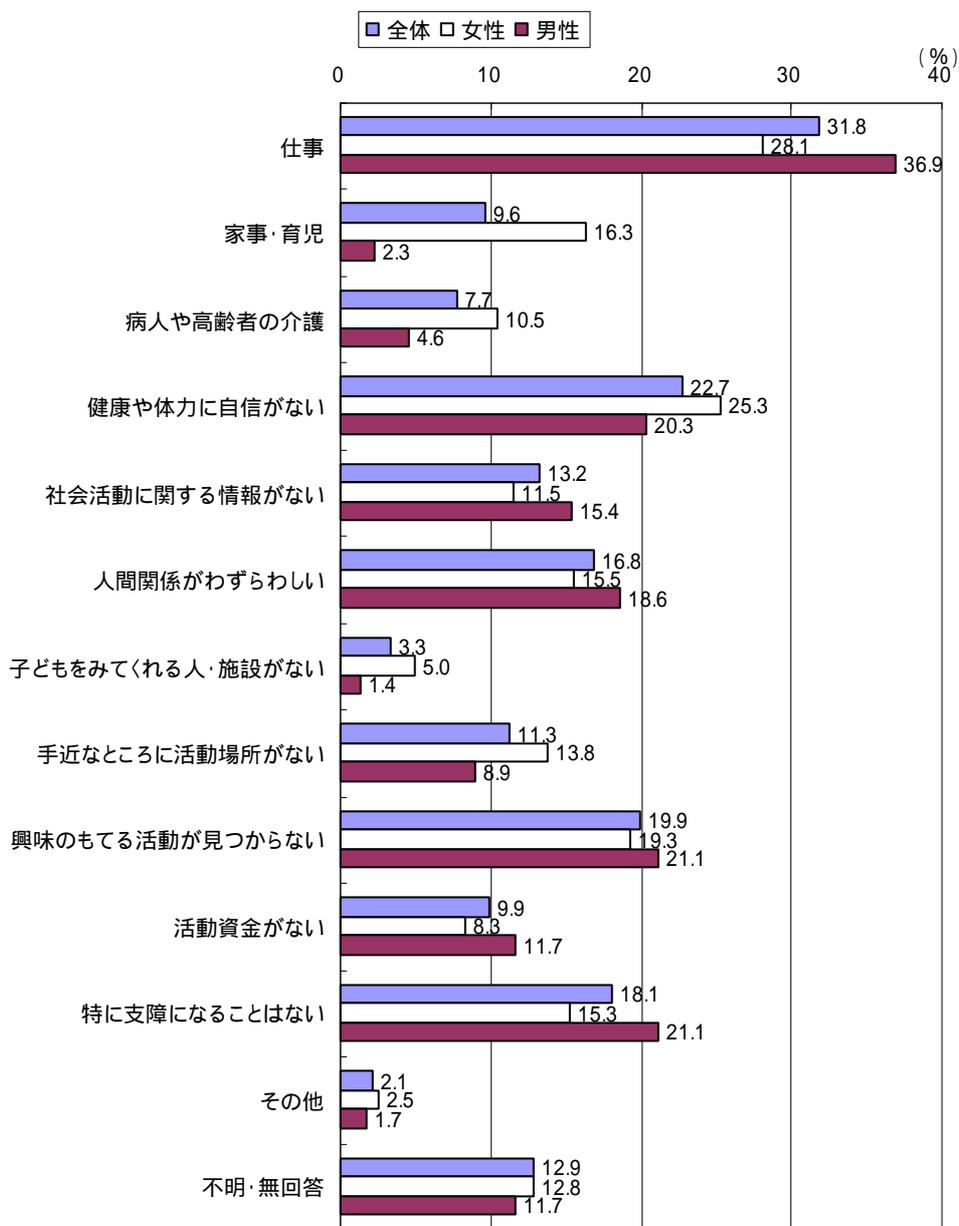
また、男女を比較すると、男女ともに、興味のもてる活動がない、体力的に辛いといった意識が共通しているが、女性では、家事・育児も支障になっていることがうかがえる。

#### [年齢別]

男女ともに、60代以上は「健康や体力に自信がない」(女性60代以上：30%以上、男性60代以上：20%以上) それ以外は「仕事」が最も高くなっており、男女が同様の意識を持っていることがうかがえる。

図7-6 社会活動に参加する上で、支障になることについて

全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



[ 調査資料 167 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付 ]

表7-7 社会活動に参加する上で、支障になることについて【男女年齢別】 単位：%

	標本数	仕事	家事・育児	護 病人や高齢者の介	が 健康や体力に自信	情 報がない	社 会活動に関する	わ ざらぬ	人 間関係がわずら	子 どもをみてくれ	動 場所がない	手 近なところに活	興 味のもてる活動	活 動資金がない	特 に支障になるこ	そ の他	不 明・無回
女性	399 100.0	112 28.1	65 16.3	42 10.5	101 25.3	46 11.5	62 15.5	20 5.0	55 13.8	77 19.3	33 8.3	61 15.3	10 2.5	51 12.8			
年齢別	20代	45	35.6	28.9	2.2	11.1	26.7	26.7	13.3	15.6	26.7	8.9	17.8	4.4	-	-	-
	30代	46	43.5	39.1	2.2	17.4	17.4	19.6	26.1	10.9	21.7	6.5	6.5	-	6.5	-	-
	40代	71	38.0	26.8	16.9	15.5	11.3	21.1	2.8	15.5	32.4	8.5	8.5	2.8	7.0	-	-
	50代	93	33.3	6.5	11.8	23.7	11.8	12.9	-	22.6	20.4	8.6	20.4	2.2	6.5	-	-
	60代	76	22.4	9.2	14.5	39.5	6.6	11.8	-	11.8	11.8	6.6	25.0	2.6	6.6	-	-
	70歳以上	68	1.5	2.9	8.8	36.8	2.9	7.4	-	2.9	5.9	-	8.8	2.9	47.1	-	-
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	350 100.0	129 36.9	8 2.3	16 4.6	71 20.3	54 15.4	65 18.6	5 1.4	31 8.9	74 21.1	41 11.7	74 21.1	6 1.7	41 11.7			
年齢別	20代	46	39.1	6.5	-	6.5	19.6	19.6	6.5	13	34.8	17.4	26.1	-	2.2	-	-
	30代	46	65.2	6.5	2.2	8.7	21.7	21.7	4.3	8.7	17.4	15.2	17.4	-	2.2	-	-
	40代	42	59.5	-	4.8	19.0	14.3	23.8	-	11.9	33.3	19.0	14.3	4.8	4.8	-	-
	50代	80	51.3	1.3	6.3	20.0	15.0	20.0	-	8.8	18.8	7.5	20.0	-	7.5	-	-
	60代	79	17.7	1.3	3.8	26.6	17.7	17.7	-	8.9	21.5	11.4	26.6	1.3	16.5	-	-
	70歳以上	57	1.8	-	8.8	33.3	5.3	10.5	-	3.5	7	5.3	19.3	5.3	31.6	-	-
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<平成9年8月調査より>

問28 SQ-2 <問28で「参加している」に1つも答えなかった人に>あなたが活動に参加していないのはどのような理由からですか。

表7-8 地域活動に参加していない理由 N=208 単位：%

	合計	活動に参加していない理由											
		活動するための施設が近くにないから	そのような活動に関心がないから	趣味や関心の持てる講座やサークルがない	職業を持っているから	忙しいから	家事・育児・家族の介護などで	自分が高齢・病弱だから	経済的に余裕がないから	家族の協力が得られないから	一緒に参加する仲間がないから	その他	無回答
全体	100.0	13.0	13.9	11.1	37.0	13.0	12.0	18.3	3.4	19.7	7.2	17.3	
性別	女性	61.1	11.0	13.4	12.6	30.7	19.7	15.7	18.1	5.5	21.3	9.4	15.0
	男性	38.0	16.5	13.9	8.9	48.1	2.5	5.1	17.7	-	16.5	3.8	21.5
	無回答	1.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-
年齢別	20代	22.6	12.8	21.3	17.0	34.0	21.3	-	10.6	2.1	21.3	12.8	10.6
	30代	13.5	14.3	7.1	14.3	35.7	39.3	-	14.3	-	17.9	3.6	10.7
	40代	15.9	12.1	18.2	9.1	48.5	3.0	3.0	21.2	-	27.3	3.0	18.2
	50代	23.1	12.5	10.4	8.3	60.4	6.3	8.3	27.1	8.3	12.5	10.4	16.7
	60歳以上	24.5	13.7	11.8	7.8	1.8	3.9	37.3	15.7	3.9	21.6	3.9	27.5
	無回答	0.5	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-

[平成9年8月調査との比較]

性別にみると、今回調査では、男女とも自分の社会活動の参加に支障になるものは「仕事」(女性：28.1%、男性：36.9%)である割合が高くなっており、前回調査も同様に男女とも「職業を持っているから」(女性：30.7%、男性：48.1%)が高い。社会活動参加の支障となっているものは仕事であることは変わっていないことがわかる。



## 第8章 女性の政治や行政への関わりについて

### 1. 政治や行政への女性の意見反映について

問 38 あなたは政治や行政に女性の意見が反映されていると思いますか。 1つだけ選んで を付けてください。

#### 《女性は男性に比べて反映されていないと感じている》

##### [全体]

政治や行政に女性の意見が反映されていると思うかについてたずねたところ、全体では「あまり反映されていない」が47.8%で最も高く、次いで「まあまあ反映されている」35.4%となっている。また、「十分反映されている」と「まあまあ反映されている」をあわせた『反映されていると感じている』層は4割弱となっている。

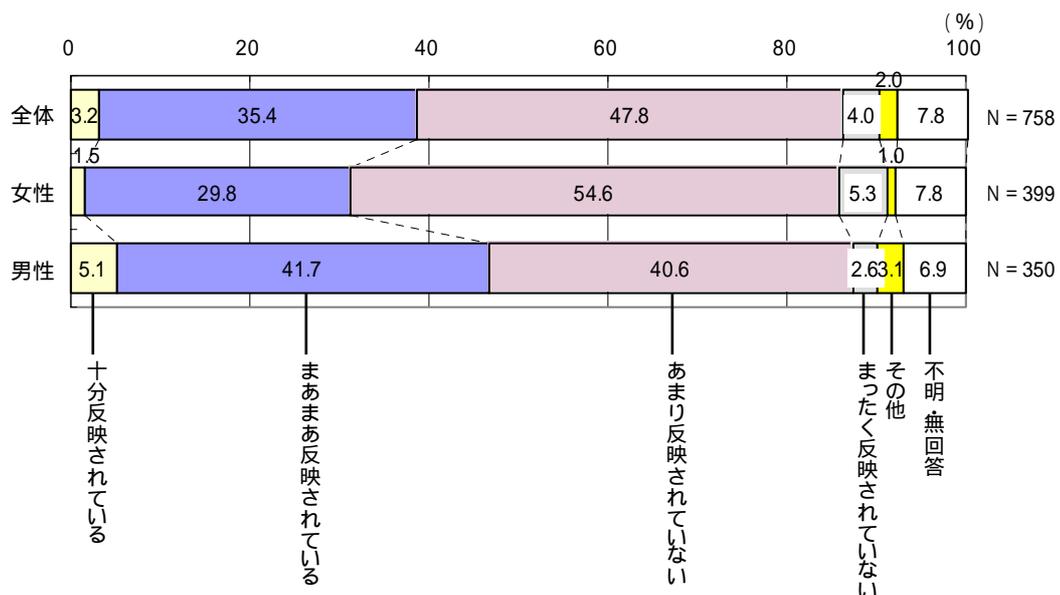
##### [性別]

女性では「あまり反映されていない」が54.6%で最も高く、次いで「まあまあ反映されている」29.8%、男性では「まあまあ反映されている」が41.7%で最も高く、次いで「あまり反映されていない」40.6%となっており、男女に差がみられる。

##### [年齢別]

男性の60代は「まあまあ反映されている」と「あまり反映されていない」がともに40.5%、女性の70歳以上と男性の50代、70歳以上の「まあまあ反映されている」がそれぞれ32.4%、45.0%、49.1%で最も高く、それ以外は「あまり反映されていない」が最も高くなっている。

図8 - 1 政治や行政への女性の意見反映について



〔調査資料 168 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表8 - 2 政治や行政への女性の意見反映について【男女年齢別】

単位：%

	女性							男性						
	標本数	十分反映されている	まあまあ反映されている	あまり反映されていない	まったく反映されていない	その他	不明・無回答	標本数	十分反映されている	まあまあ反映されている	あまり反映されていない	まったく反映されていない	その他	不明・無回答
全体	399 100.0	6 1.5	119 29.8	218 54.6	21 5.3	4 1.0	31 7.8	350 100.0	18 5.1	146 41.7	142 40.6	9 2.6	11 3.1	24 6.9
年齢別														
20代	45	-	22.2	75.6	2.2	-	-	46	4.3	39.1	43.5	6.5	6.5	-
30代	46	-	30.4	56.5	6.5	2.2	4.3	46	6.5	39.1	43.5	2.2	4.3	4.3
40代	71	1.4	22.5	62.0	9.9	2.8	1.4	42	4.8	33.3	52.4	2.4	4.8	2.4
50代	93	2.2	32.3	58.1	3.2	-	4.3	80	5.0	45.0	42.5	1.3	2.5	3.8
60代	76	1.3	35.5	52.6	2.6	1.3	6.6	79	6.3	40.5	40.5	3.8	-	8.9
70歳以上	68	2.9	32.4	29.4	7.4	-	27.9	57	3.5	49.1	24.6	-	3.5	19.3
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 2. 政治や行政への女性の参画について

問 39 あなたは政治や行政の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで を付けてください。

《政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は、男性優位の組織運営がトップ》

[全体]

政治や行政の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思ふかについてたずねたところ、全体では「男性優位の組織運営」が58.8%で最も高く、次いで、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」42.7%となっており、最も低いのは「参画しようとしている人の足を引っ張る」8.4%となっている。

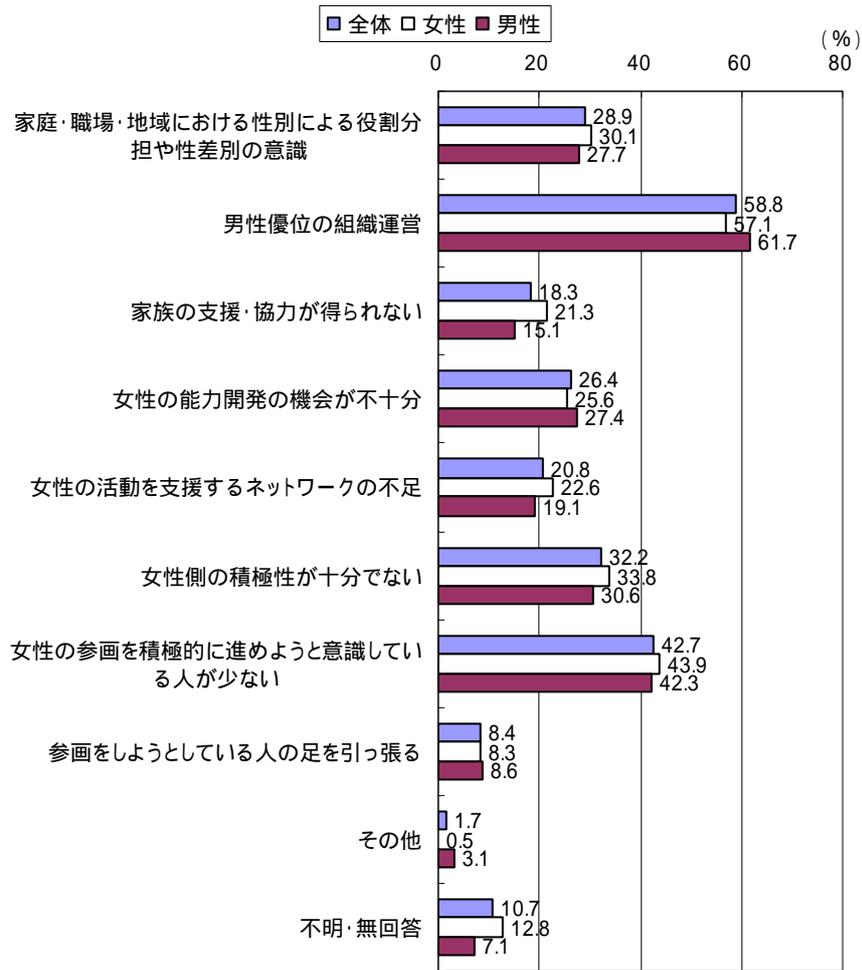
[性別]

性別にみると、男女ともに、「男性優位の組織運営」(女性：57.1%、男性：61.7%)が最も高く、次いで「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」(女性：43.9%、男性：42.3%)、「女性側の積極性が十分でない」(女性：33.8%、男性：30.6%)、「女性の能力開発の機会が不十分」(女性：25.6%、男性：27.4%)で上位4項目が同順となっており、男女が同様の意識を持っていることがうかがえる。

[年齢別]

60代の女性は「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」が53.9%で最も高く、それ以外は、男女ともに各年齢層「男性優位の組織運営」が最も高くなっている。次いで、女性の20代、30代、男性の20代は「家庭・職場・地域における性別による役割分担や性差別の意識」(女性20代：44.4%、女性30代：47.8%、男性20代：39.1%)、それ以外は、男女ともに各年齢層「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」となっている。

図 8 - 3 政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由について  
 全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



〔調査資料 168 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表 8 - 4 政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由について【男女年齢別】

単位：%

性別	年齢別	標本数	家庭・職場・地域における性別による役割分担や性差別の意識	男性優位の組織運営	家族の支援・協力が得られない	女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動を支援するネットワークの不足	女性側の積極性が十分でない	女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない	参画をしようとしている人の足を引っ張る	その他	不明・無回答
女性	全体	399	120	228	85	102	90	135	175	33	2	51
		100.0	30.1	57.1	21.3	5.6	22.6	33.8	43.9	8.3	0.5	12.8
	20代	45	44.4	73.3	26.7	24.4	28.9	33.3	44.4	4.4	-	-
	30代	46	47.8	69.6	26.1	13.0	23.9	28.3	32.6	13.0	-	6.5
	40代	71	38.0	73.2	21.1	28.2	26.8	38.0	45.1	14.1	1.4	8.5
	50代	93	26.9	57.0	17.2	30.1	15.1	35.5	51.6	4.3	-	8.6
	60代	76	18.4	46.1	28.9	25.0	26.3	38.2	53.9	7.9	1.3	13.2
70歳以上	68	17.6	33.8	11.8	26.5	19.1	26.5	27.9	7.4	-	35.3	
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	全体	350	97	216	53	96	67	107	148	30	11	25
		100.0	27.7	61.7	15.1	27.4	19.1	30.6	42.3	8.6	3.1	7.1
	20代	46	39.1	60.9	10.9	34.8	15.2	28.3	37.0	8.7	4.3	-
	30代	46	26.1	65.2	17.4	4.3	15.2	21.7	54.3	6.5	4.3	-
	40代	42	28.6	69.0	21.4	19.0	19.0	28.6	42.9	2.4	2.4	2.4
	50代	80	31.3	70.0	18.8	30.0	22.5	31.3	43.8	10.0	1.3	5.0
	60代	79	29.1	54.4	13.9	35.4	20.3	39.2	40.5	13.9	2.5	8.9
70歳以上	57	12.3	52.6	8.8	31.6	19.3	28.1	36.8	5.3	5.3	22.8	
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

### 3 . 社会活動の委員就任意向について

問 40 あなた（男性の場合は、身近な女性）が県や市町村から審議会などの委員に就任してほしいと依頼されたらどうしますか。 1つだけ選んで を付けてください。

《就任する（就任することを勧める）は65%と高い》

[全体]

県や市町村から審議会などの委員に就任してほしいと依頼されたらどうするかについてたずねたところ、全体では「知識や能力のある分野なら就任する（就任することを勧める）」が39.1%で最も高く、次いで「断る（断ることを勧める）」20.3%となっている。

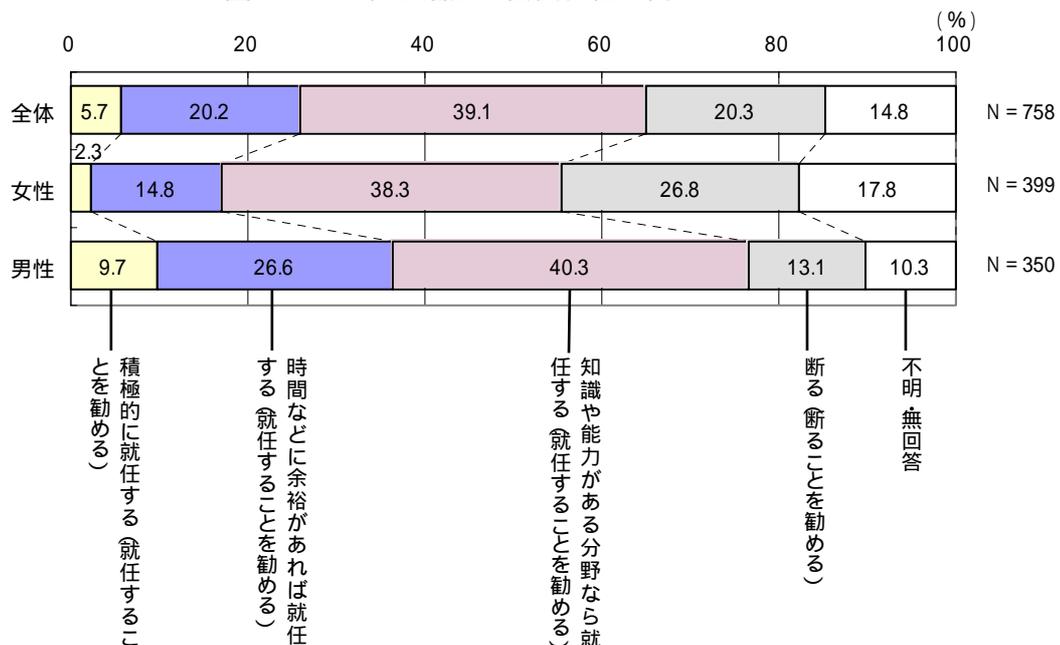
[性別]

男女ともに「知識や能力のある分野なら就任する（就任することを勧める）」（女性：38.3%、男性：40.3%）が最も高くなっているが、次いで、女性では「断る（断ることを勧める）」26.8%、男性では「時間などに余裕があれば就任する（就任することを勧める）」26.6%となっており、男女に差がみられる。

[年齢別]

男性の30代、40代は「時間などに余裕があれば就任する（就任することを勧める）」（30代：45.7%、40代：40.5%）それ以外は、男女ともに「知識や能力のある分野なら就任する（就任することを勧める）」が最も高く、女性の30代、70歳以上は「断る（断ることを勧める）」もそれぞれ32.6%、20.6%で最も高くなっている。

図8 - 5 社会活動の委員就任意向について



〔調査資料 169 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表8 - 6 社会活動の委員就任意向について【男女年齢別】

単位：%

		女性					男性						
		標本数	積極的に就任する(就任することを勧める)	時間などに余裕があれば就任する(就任することを勧める)	知識や能力がある分野なら就任する(就任することを勧める)	断る(断ることを勧める)	不明・無回答	標本数	積極的に就任する(就任することを勧める)	時間などに余裕があれば就任する(就任することを勧める)	知識や能力がある分野なら就任する(就任することを勧める)	断る(断ることを勧める)	不明・無回答
全体		399 100.0	9 2.3	59 14.8	153 38.3	107 26.8	71 17.8	350 100.0	34 9.7	93 26.6	141 40.3	46 13.1	36 10.3
年齢別	20代	45	-	20.0	42.2	37.8	-	46	8.7	26.1	54.3	6.5	4.3
	30代	46	4.3	26.1	32.6	32.6	4.3	46	6.5	45.7	32.6	10.9	4.3
	40代	71	4.2	21.1	38.0	26.8	9.9	42	9.5	40.5	31.0	14.3	4.8
	50代	93	-	15.1	50.5	24.7	9.7	80	6.3	31.3	42.5	13.8	6.3
	60代	76	1.3	5.3	40.8	25.0	27.6	79	13.9	10.1	51.9	12.7	11.4
	70歳以上 不明・無回答	68 -	4.4 -	7.4 -	20.6 -	20.6 -	47.1 -	57 -	12.3 -	17.5 -	22.8 -	19.3 -	28.1 -

問40 - 1 では、あなたの配偶者が依頼されたらどうしますか。上記の問40の設問中の番号を1つだけ選んで番号を記入してください。配偶者がおられない場合も、仮にしているとしてお答えください。

#### 《配偶者が依頼されたら就任する(就任することを勧める)は6割以上》

##### [全体]

配偶者が県や市町村から審議会などの委員に就任してほしいと依頼されたらどうするかについてたずねたところ、全体では「知識や能力のある分野なら就任する(就任することを勧める)」が36.0%で最も高く、次いで「時間などに余裕があれば就任する(就任することを勧める)」20.6%となっている。

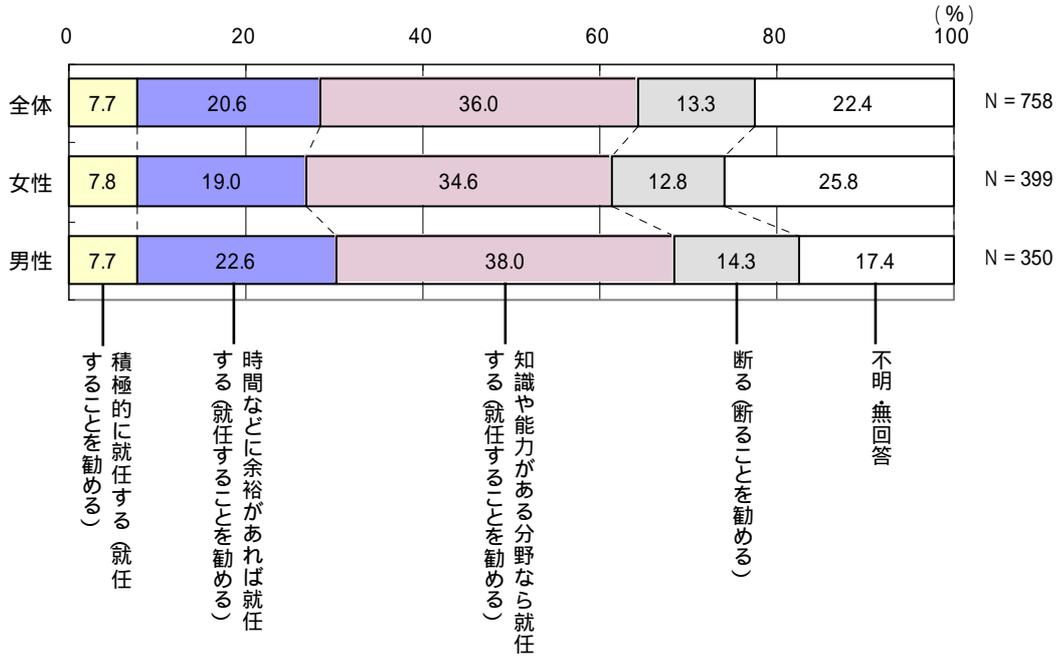
##### [性別]

男女ともに「知識や能力のある分野なら就任する(就任することを勧める)」(女性:34.6%、男性:38.0%)が最も高く、次いで「時間などに余裕があれば就任する(就任することを勧める)」(女性:19.0%、男性:22.6%)、「断る(断ることを勧める)」(女性:12.8%、男性:14.3%)となっており、男女が同様の意識を持っていることがうかがえる。

##### [年齢別]

女性の30代、男性の40代は「時間などに余裕があれば就任する(就任することを勧める)」(女性30代:39.1%、男性40代:38.1%)が最も高く、それ以外は、男女ともに「知識や能力のある分野なら就任する(就任することを勧める)」が最も高くなっている。

図 8 - 7 社会活動の委員就任を配偶者が依頼された場合について



〔調査資料 169 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表 8 - 8 社会活動の委員就任を配偶者が依頼された場合について【男女年齢別】単位：%

	女性						男性					
	標本数	積極的に就任することをお勧めする	時間などに余裕があれば就任することをお勧めする	知識や能力がある分野なら就任することをお勧めする	断る(断ることを勧める)	不明・無回答	標本数	積極的に就任することをお勧めする	時間などに余裕があれば就任することをお勧めする	知識や能力がある分野なら就任することをお勧めする	断る(断ることを勧める)	不明・無回答
全体	399	31	76	138	51	103	350	27	79	133	50	61
	100.0	7.8	19.0	34.6	12.8	25.8	100.0	7.7	22.6	38.0	14.3	17.4
20代	45	4.4	17.8	44.4	24.4	8.9	46	8.7	26.1	47.8	15.2	2.2
30代	46	6.5	39.1	30.4	19.6	4.3	46	6.5	30.4	32.6	19.6	10.9
40代	71	5.6	21.1	40.8	11.3	21.1	42	4.8	38.1	31.0	16.7	9.5
50代	93	9.7	20.4	36.6	14.0	19.4	80	11.3	20.0	41.3	15.0	12.5
60代	76	9.2	17.1	34.2	7.9	31.6	79	6.3	19.0	48.1	6.3	20.3
70歳以上	68	8.8	4.4	22.1	5.9	58.8	57	7.0	10.5	21.1	17.5	43.9
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 第9章 老後と介護について

### 1. 自分の老後への不安について

問 41 あなたは自分の老後についてどのような不安がありますか。次の中から2つまで選んで を付けてください。

#### 《健康に過ごせるかが一番の不安》

[全体]

自分の老後についてどのような不安があるか 10項目から2つまでたずねた。

1位は「健康に過ごせるか」で59.5%、2位は「経済的にやっていけるか」で44.3%、3位は「配偶者(夫・妻)に先立たれること」で24.3%となっており、自分の健康や経済的な問題に不安を感じていることがうかがえる。また、「特に不安はない」と感じている割合は7.7%となっており、全体の約1割は自分の老後に不安を感じていないことがうかがえる。

[性別]

1位は男女とも「健康に過ごせるか」(女性60.2%、男性58.9%)で、女性の方がやや不安は大きい。2位も男女同じく「経済的にやっていけるか」(女性45.6%、男性43.7%)であり、女性の方がやや不安は大きくなっている。3位は、女性では「漠然とした不安がある」23.8%、男性では「配偶者(夫・妻)に先立たれること」26.6%となっている。また、男性が女性より高くなっている項目は「面倒をみてくれる人がいるか」、「生きがいが見つけれらるか」、「配偶者(夫・妻)に先立たれること」など生きがいや介護に関するものであった。

[年齢別]

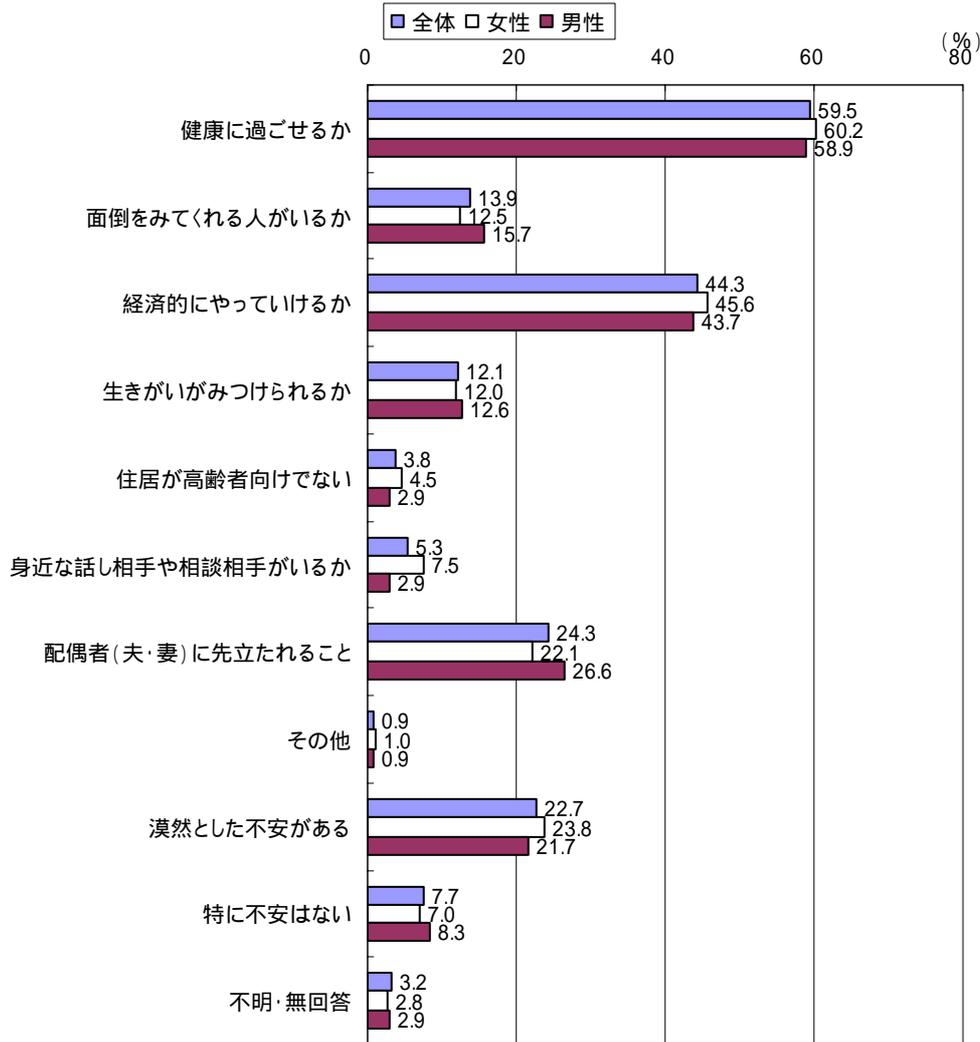
男女とも年齢が高くなるにともない「経済的にやっていけるか」よりも「健康に過ごせるか」に対しての不安を強く感じている。

女性では、40代以上、男性では50代以上が「健康に過ごせるか」(女性40代以上：50%以上、男性50代以上：40%以上)に対しての不安を強く感じており、女性の方が男性よりも若い年代で健康に関しての不安があることがうかがえる。

また、男性では「配偶者(夫・妻)に先立たれること」が年齢が高くなるにともない不安を強く感じており、女性よりも男性の方が配偶者に対しての不安を感じていることがうかがえる。

図9 - 1 自分の老後への不安について

全体N = 758、女性N = 399、男性N = 350



〔調査資料 170 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表9 - 2 自分の老後について【男女年齢別】

単位：%

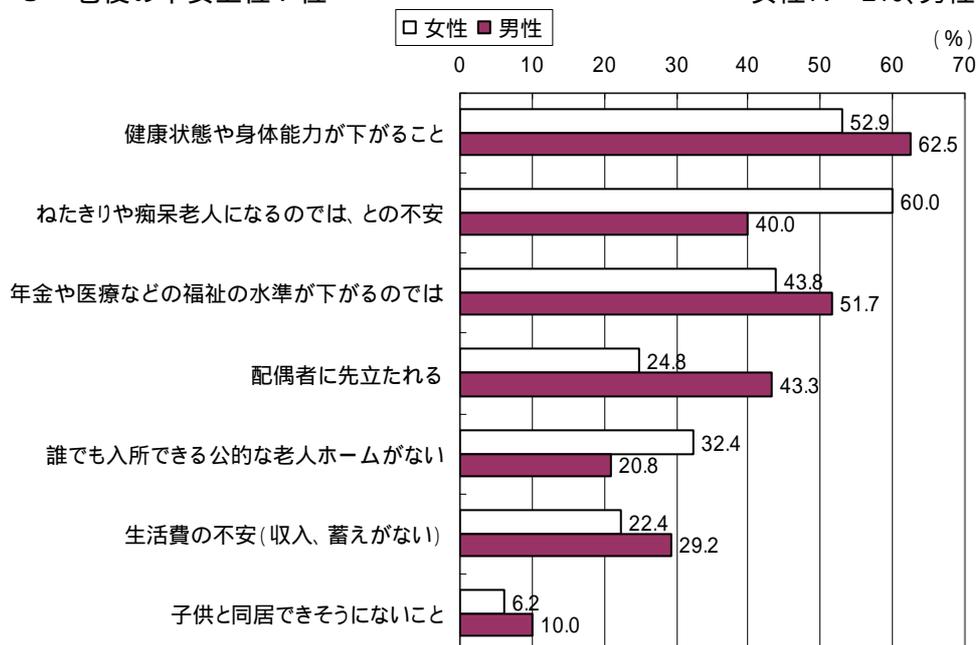
	標本数	健康に過ごせるか	面倒をみてくれる人がいるか	経済的にやっていけるか	生きがいが見つけれられるか	住居が高齢者向けでない	身近な話し相手や相談相手がいるか	配偶者(夫・妻)に先立たれること	その他	漠然とした不安がある	特に不安はない	不明・無回答
女性	399	240	50	182	48	18	30	88	4	95	28	11
	100.0	60.2	12.5	45.6	12.0	4.5	7.5	22.1	1.0	23.8	7.0	2.8
20代	45	42.2	24.4	64.4	17.8	-	13.3	13.3	-	20.0	4.4	-
30代	46	50.0	17.4	76.1	2.2	-	6.5	28.3	-	15.2	-	-
40代	71	64.8	4.2	50.7	19.7	-	7.0	22.5	1.4	18.3	9.9	-
50代	93	67.7	8.6	50.5	14.0	4.3	10.8	22.6	1.1	34.4	4.3	-
60代	76	69.7	14.5	32.9	10.5	11.8	5.3	22.4	1.3	23.7	6.6	2.6
70歳以上	68	52.9	13.2	14.7	5.9	7.4	2.9	22.1	1.5	23.5	14.7	13.2
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	350	206	55	153	44	10	10	93	3	76	29	10
	100.0	58.9	15.7	43.7	12.6	2.9	2.9	26.6	0.9	21.7	8.3	2.9
20代	46	50.0	21.7	50.0	13.0	2.2	8.7	19.6	2.2	23.9	6.5	-
30代	46	63.0	17.4	67.4	4.3	-	-	13.0	2.2	21.7	6.5	-
40代	40	54.8	16.7	66.7	16.7	2.4	2.4	19.0	-	16.7	4.8	2.4
50代	80	68.8	7.5	46.3	18.8	1.3	2.5	27.5	-	22.5	7.5	2.5
60代	79	60.8	16.5	32.9	13.9	2.5	1.3	34.2	-	24.1	7.6	2.5
70歳以上	57	49.1	19.3	14.0	5.3	8.8	3.5	36.8	1.8	19.3	15.8	8.8
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<平成9年8月調査より>

問 25 SQ - 1 <老後を不安に思っている方に>ではあなたは次のどのようなことに不安を感じますか。

図 9 - 3 老後の不安上位7位

女性N = 210、男性N = 120



[平成9年8月調査との比較]

全体でみると、前回調査にくらべ、今回調査では「健康に過ごせるか」が59.5%で健康について老後に不安を感じている人が最も高くなっている。また、それに次いで、「経済的にやっていけるか」44.3%の割合が高くなっているが、前回調査では「健康状態や身体能力が下がること」(女性：52.9%、男性：62.5%)に次いで「ねたきりや痴呆老人になるのでは、との不安」(女性：60.0%、男性：40.0%)であり、自分の健康面での不安から経済的な不安に変化していることがうかがえる。

## 2. 介護保険の利用について

問 42 あなたは介護保険の利用についてどのように感じておられますか。 すべて選んで を付けてください。

《「要介護認定の判定のしくみがわからない」への回答の割合が5割以上》

[全体]

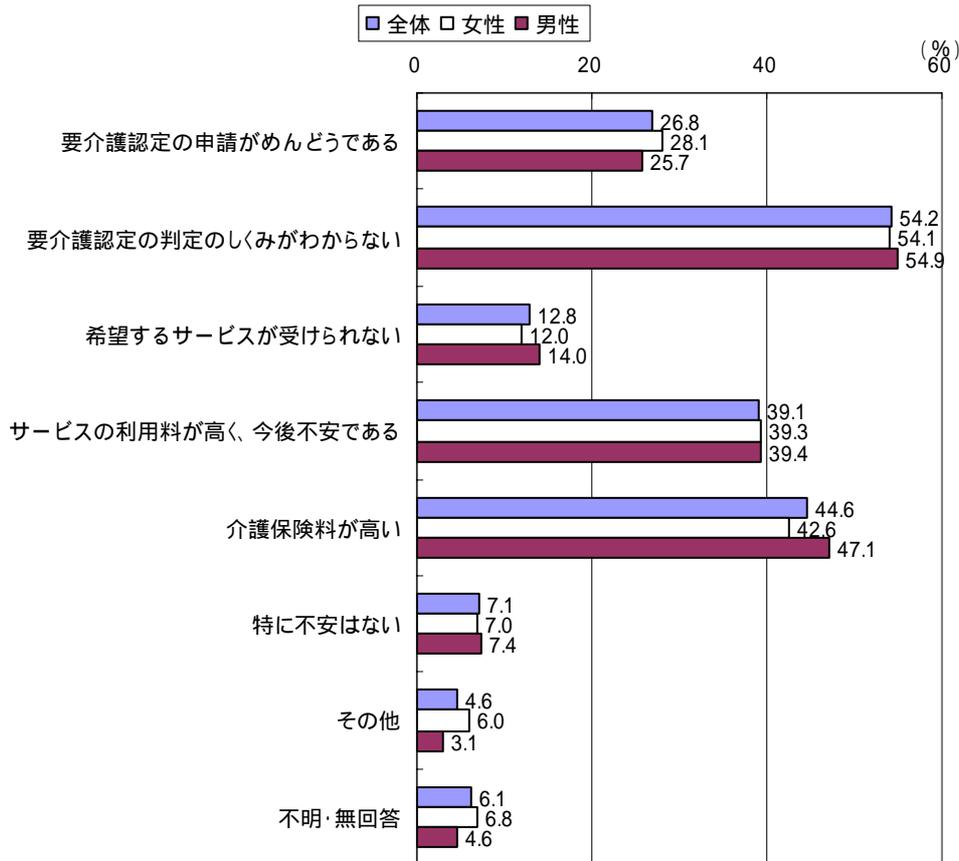
介護保険の利用について感じていることをたずねた。

「要介護認定の判定のしくみがわからない」が54.2%と最も高く、次いで「介護保険料が高い」44.6%、「サービスの利用料が高く、今後不安である」39.1%となっている。介護保険制度や介護保険料に関するものへの割合が高くなっていることがうかがえる。

[性別]

男女とも「要介護認定の判定のしくみがわからない」(女性 54.1%、男性 54.9%)が最も高く、女性よりも男性の方がやや不満に感じており、それに次いで「介護保険料が高い」(女性 42.6%、男性 47.1%)となっているが、こちらも女性よりも男性の方がやや不満に感じている。また、女性が男性よりも高くなっている項目は「要介護認定の申請がめんどうである」(女性：28.1%、男性：25.7%)のみであり、男女とも介護保険制度に関して、制度の内容や保険料について関心があることがうかがえる。

図9 - 4 介護保険の利用について 全体N = 758、女性N = 399、男性N = 350



[調査資料 171 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付]

### 3. 介護への希望について

問 43 あなたが介護される立場になったら、どのようにしたいですか。1つだけ選んで を付けてください。すでに老後の生活に入っている方も、希望をお答えください。

#### 《自宅で家族以外のホームヘルパーなどに介護してほしい》

[全体]

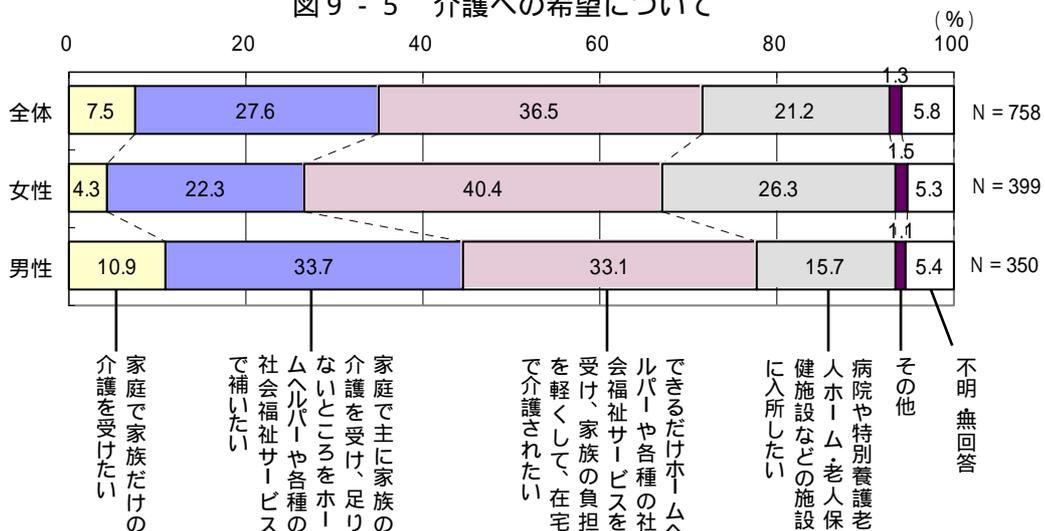
自分が介護される立場になったとき、どのようにしてほしいかをたずねた。

「できるだけホームヘルパーや各種の社会福祉サービスを受け、家族の負担を軽くして、在宅で介護されたい」が 36.5%と最も高く、次いで「家庭で主に家族の介護を受け、足りないところをホームヘルパーや各種の社会福祉サービスで補いたい」27.6%、「病院や特別養護老人ホーム・老人保健施設などの施設に入所したい」21.2%となっている。4項目のうち、最も低かったのは「家庭で家族だけの介護を受けたい」7.5%であり、自宅で家族だけに介護してほしいと考えている人は少ないことがわかる。また、自宅で介護してほしいと考えている割合は71.6%と高くなっている。

[性別]

女性では「できるだけホームヘルパーや各種の社会福祉サービスを受け、家族の負担を軽くして、在宅で介護されたい」が 40.4%と最も高く、次いで「病院や特別養護老人ホーム・老人保健施設などの施設に入所したい」26.3%となっており、「家庭で家族だけの介護を受けたい」は 4.3%と最も低くなっている。男性では、「家庭で主に家族の介護を受け、足りないところをホームヘルパーや各種の社会福祉サービスで補いたい」と「できるだけホームヘルパーや各種の社会福祉サービスを受け、家族の負担を軽くして、在宅で介護されたい」がどちらも 33%程度と拮抗して高く、「家庭で家族だけの介護を受けたい」は 10.9%と最も低くなっているが、女性にくらべ自宅で家族だけに介護してほしいと考えている割合は2倍以上と高くなっている。また、女性は家族よりもホームヘルパーなどの介護や施設入所を考えている割合が高くなっている。

図9 - 5 介護への希望について



〔調査資料 171 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕



## 第 10 章 ストレスや生きがいについて

### 1 . 悩みなどのストレスについて

問 44 あなたは、毎日の生活のなかで何か悩みなどストレスを感じていることがありますか。すべて選んで を付けてください。

《男女とも健康のことにストレスを感じており、また、男性は仕事のことでも感じている》

[全体]

毎日の生活のなかで何か悩みなどストレスを感じていることがあるかをたずねた。

1 位は「健康のこと」で 40.2%、2 位は「仕事のこと」29.0%、3 位は「家計のこと」24.7% と健康に関してのストレスが多く、仕事や経済的な悩みも多くなっていることがうかがえる。また、「特に悩みやストレスはない」は 18.3%となっている。

[性別]

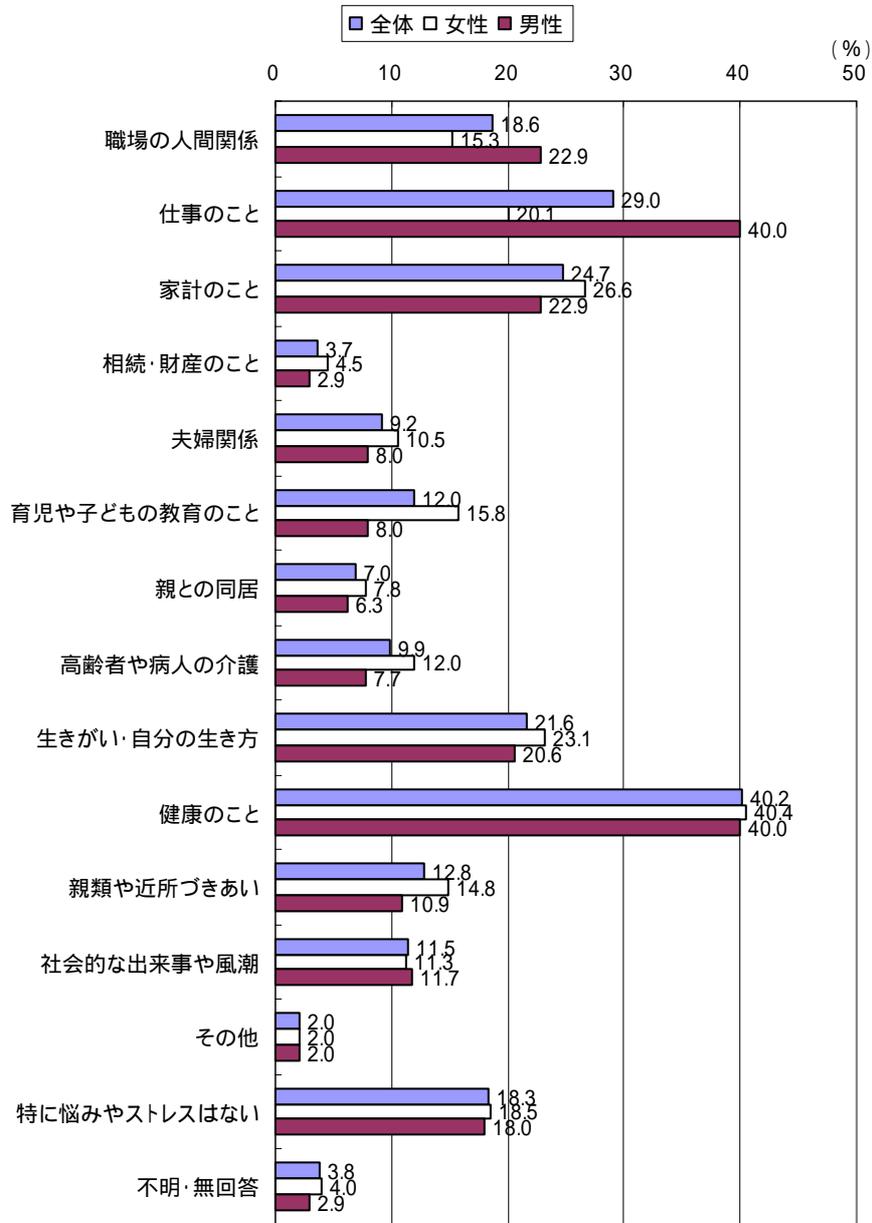
女性では「健康のこと」が 40.4%、男性では「健康のこと」と「仕事のこと」がともに 40.0%で最も高くなっており、「仕事のこと」では、男性は女性の約 2 倍ストレスを感じている割合が高くなっている。それ以外に、男性が女性よりも高くなっているものは「職場の人間関係」(女性：15.3%、男性：22.9%)、「社会的な出来事や風潮」(女性：11.3%、男性：11.7%)であり、男性は社会的なことについてストレスを感じていることがわかる。また、女性は自分自身のことや家庭の問題についてのストレスを感じていることがうかがえる。

[年齢別]

女性では、20 代が「仕事のこと」55.6%、30 代が「家計のこと」39.1%、40 代が「育児や子どもの教育のこと」43.7%、50 代以上は「健康のこと」がそれぞれ 50 代 41.9%、59.2%、51.5%と最も高くなっており、30 代は経済的な問題、40 代は育児、50 代以上は自分の健康についてのストレスを感じていることがわかる。また、男性では、20 代～50 代まで「仕事のこと」(40%以上)でストレスを強く感じており、60 歳以上では、女性同様「健康のこと」(50%以上)でストレスを感じている。男性は女性とくらべ、仕事についてストレスを感じている年齢幅が広く、男性は仕事、女性は家庭といった生活状況が背景にあることがうかがえる。

図 10 - 1 悩みなどストレスを感じることにについて

全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



〔調査資料 172 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

表 10 - 2 悩みなどストレスを感じることに【男女年齢別】

単位：%

	標本数	職場の人間関係	仕事のこと	家計のこと	相続・財産のこと	夫婦関係	育児や子どもの教育のこと	親との同居	高齢者や病人の介護	生きがい・自分の生き方	健康のこと	親類や近所づきあい	社会的な出来事や風潮	その他	特に悩みやストレスはない	不明・無回答	
女性	399 100.0	61 15.3	80 20.1	106 26.6	18 4.5	42 10.5	63 15.8	31 7.8	48 12.0	92 23.1	161 40.4	59 14.8	45 11.3	8 2.0	74 18.5	16 4.0	
年齢別	20代	45	33.3	55.6	28.9	2.2	4.4	15.6	11.1	2.2	37.8	24.4	8.9	6.7	11.1	11.1	-
	30代	46	23.9	28.3	39.1	-	13.0	34.8	6.5	2.2	30.4	23.9	10.9	8.7	2.2	13.0	-
	40代	71	21.1	26.8	28.2	7.0	14.1	43.7	12.7	16.9	21.1	28.2	26.8	16.9	-	15.5	-
	50代	93	17.2	15.1	29.0	4.3	14.0	8.6	14.0	12.9	22.6	41.9	17.2	7.5	-	17.2	4.3
	60代	76	5.3	7.9	27.6	2.6	13.2	1.3	-	17.1	14.5	59.2	10.5	18.4	1.3	26.3	2.6
	70歳以上	68	-	4.4	10.3	8.8	1.5	-	1.5	13.2	20.6	51.5	10.3	7.4	1.5	23.5	14.7
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	350 100.0	80 22.9	140 40.0	80 22.9	10 2.9	28 8.0	28 8.0	22 6.3	27 7.7	72 20.6	140 40.0	38 10.9	41 11.7	7 2.0	63 18.0	10 2.9	
年齢別	20代	46	41.3	76.1	23.9	2.2	-	2.2	13.0	2.2	41.3	17.4	13.0	15.2	4.3	10.9	-
	30代	46	37.0	60.9	34.8	4.3	6.5	15.2	15.2	10.9	17.4	23.9	6.5	8.7	-	13.0	-
	40代	42	52.4	57.1	23.8	-	9.5	19.0	7.1	4.8	26.2	23.8	11.9	11.9	2.4	11.9	2.4
	50代	80	20.0	46.3	26.3	2.5	8.8	13.8	3.8	7.5	17.5	36.3	11.3	13.8	-	20.0	-
	60代	79	6.3	19.0	20.3	1.3	11.4	1.3	3.8	10.1	13.9	58.2	11.4	10.1	3.8	19.0	2.5
	70歳以上	57	1.8	1.8	10.5	7.0	8.8	-	-	8.8	15.8	63.2	10.5	10.5	1.8	28.1	12.3
	不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 2. 生きがいについて

問 45 あなたが生きていく上で「生きがい」に感じているものは何ですか。 3つまで選んで を付けてください。

### 《子どもや孫、趣味に生きがいを感じている》

[全体]

生きていく上で「生きがい」に感じているものについてたずねた。

1位は「子ども・孫」で 53.2%、2位は「趣味・娯楽・スポーツ」49.2%、3位は「のんびりした生活」40.5%となっており、子育てや趣味に生きがいを感じていることがわかる。また、「特にない」は6.3%となっている。

[性別]

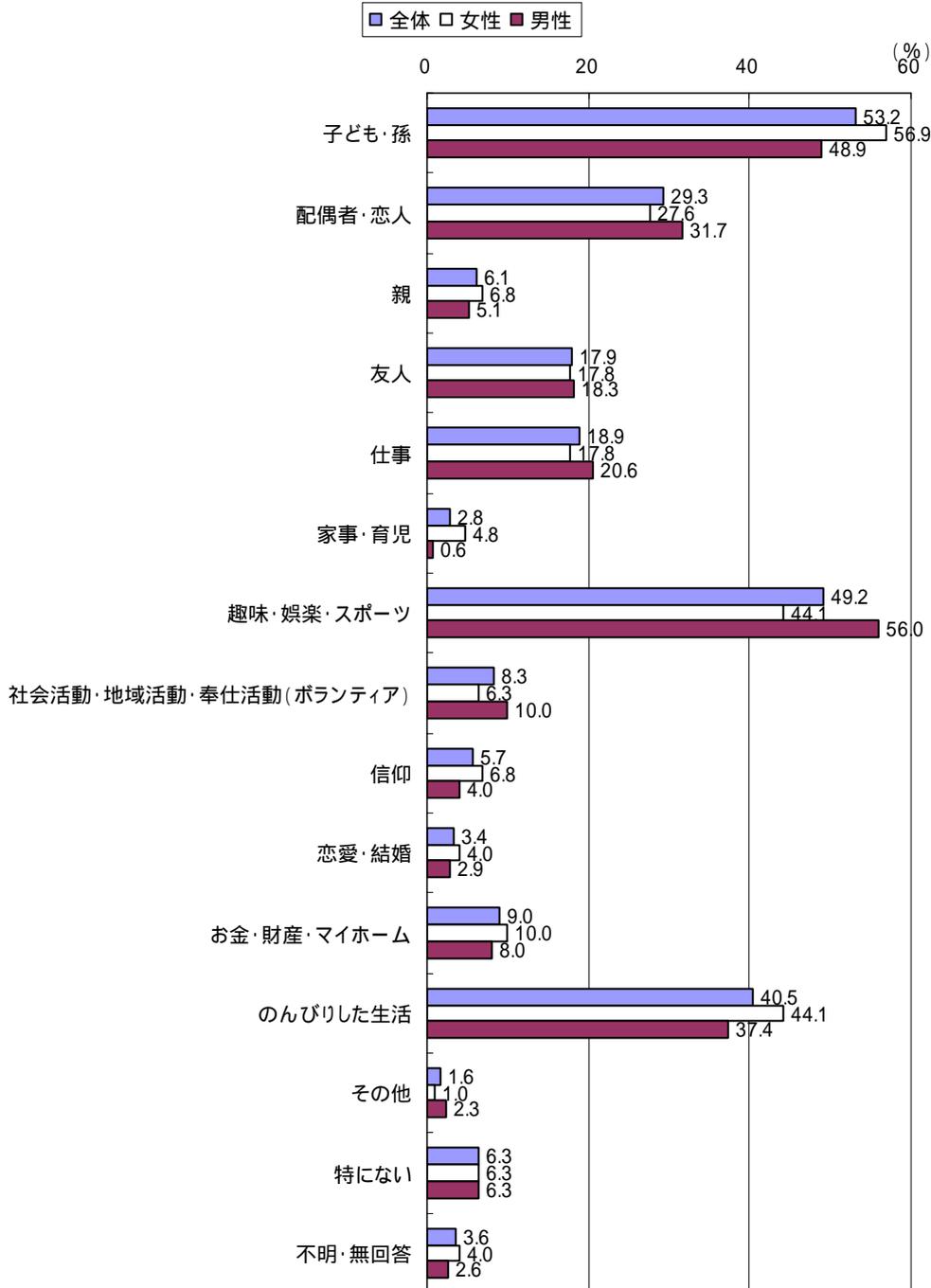
女性では「子ども・孫」が 56.9%と最も高く、次いで「趣味・娯楽・スポーツ」、「のんびりした生活」ともに 44.1%となっており、男性では「趣味・娯楽・スポーツ」が 56.0%で最も高く、女性にくらべ 11.9ポイント高い。それに次いで「子ども・孫」が 48.9%、「のんびりした生活」37.4%となっている。また、女性が男性よりも高くなっているものは「子ども・孫」(女性：56.9%、男性：48.9%)、「親」(女性：6.8%、男性：5.1%)、「家事・育児」(女性：4.8%、男性：0.6%)、「信仰」(女性：6.8%、男性：4.0%)、「恋愛・結婚」(女性：4.0%、男性：2.9%)、「お金・財産・マイホーム」(女性：10.0%、男性：8.0%)、「のんびりした生活」(女性：44.1%、男性：37.4%)となっており、女性は男性よりも仕事や社会活動などの社会参加へ生きがいを感じていないことがうかがえる。

[年齢別]

女性では20代が「配偶者・恋人」48.9%、その他の年齢層では「子ども・孫」がそれぞれ50%以上と最も高くなっている。また、男性では、20代～40代と60代が「趣味・娯楽・スポーツ」それぞれ50%以上と生きがいを感じており、50代と70歳以上では「子ども・孫」が50%以上と高く、男性は女性にくらべ、趣味などに生きがいを感じていることがうかがえる。

図 10 - 3 「生きがい」に感じているものについて

全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



[調査資料 173 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付]

表 10 - 4 「生きがい」に感じているものについて【男女年齢別】

単位：%

	標本数	子ども・孫	配偶者・恋人	親	友人	仕事	家事・育児	趣味・娯楽・スポーツ	仕活動(ボランティア)	社会活動・地域活動・奉	信仰	恋愛・結婚	お金・財産・マイホーム	のんびりした生活	その他	特にな	不明・無回答
女性	399 100.0	227 56.9	110 27.6	27 6.8	71 17.8	71 17.8	19 4.8	176 44.1	25 6.3	27 6.8	16 4.0	40 10.0	176 44.1	4 1.0	25 6.3	16 4.0	
年齢別																	
20代	45	28.9	48.9	17.8	26.7	20.0	8.9	44.4	2.2	-	22.2	20.0	31.1	2.2	6.7	-	
30代	46	54.3	39.1	15.2	13.0	19.6	8.7	39.1	4.3	6.5	10.9	13.0	32.6	2.2	4.3	2.2	
40代	71	60.6	35.2	8.5	18.3	15.5	8.5	43.7	7.0	5.6	-	12.7	32.4	1.4	8.5	2.8	
50代	93	63.4	19.4	3.2	14.0	24.7	4.3	50.5	6.5	2.2	1.1	8.6	45.2	-	4.3	2.2	
60代	76	63.2	22.4	2.6	19.7	13.2	1.3	55.3	11.8	6.6	-	2.6	59.2	-	9.2	3.9	
70歳以上	68	57.4	14.7	1.5	17.6	13.2	-	26.5	2.9	19.1	-	8.8	54.4	1.5	4.4	11.8	
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
男性	350 100.0	171 48.9	111 31.7	18 5.1	64 18.3	72 20.6	2 0.6	196 56.0	35 10.0	14 4.0	10 2.9	28 8.0	131 37.4	8 2.3	22 6.3	9 2.6	
年齢別																	
20代	46	13.0	28.3	10.9	26.1	17.4	-	69.6	4.3	2.2	13.0	6.5	30.4	-	4.3	4.3	
30代	46	43.5	47.8	6.5	23.9	32.6	2.2	56.5	-	-	6.5	17.4	19.6	4.3	2.2	2.2	
40代	42	54.8	33.3	9.5	11.9	19.0	-	59.5	7.1	4.8	-	7.1	33.3	4.8	2.4	2.4	
50代	80	56.3	40.0	3.8	10.0	22.5	1.3	52.5	13.8	2.5	1.3	6.3	42.5	1.3	8.8	-	
60代	79	53.2	22.8	1.3	20.3	22.8	-	60.8	11.4	1.3	-	8.9	41.8	3.8	8.9	2.5	
70歳以上	57	61.4	21.1	3.5	21.1	8.8	-	40.4	17.5	14.0	-	3.5	47.4	-	7.0	5.3	
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	



## 第 11 章 女性問題全般について

### 1. 女性問題で見たり聞いたりしたことのあることについて

問 46 次のことから、あなたが見たり聞いたりしたことのある、または知っているものの番号をすべて選んで を付けてください。

#### 《セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスが高い》

##### [全体]

女性問題で見たり、聞いたりしたことのある、または知っているもの 26 項目についてたずねた。

1 位は「セクシュアル・ハラスメント」で 74.0%、2 位は「ドメスティック・バイオレンス(家庭内暴力・夫や恋人から受ける暴力)」で 73.6%、3 位は「育児休業制度」で 71.8%、4 位は「男女雇用機会均等法」で 69.3%、5 位は「離婚しても、そのまま離婚前の姓を名乗ってもよい」で 54.0%となっている。1 位から 4 位までの項目は約 7 割以上の人認知している。

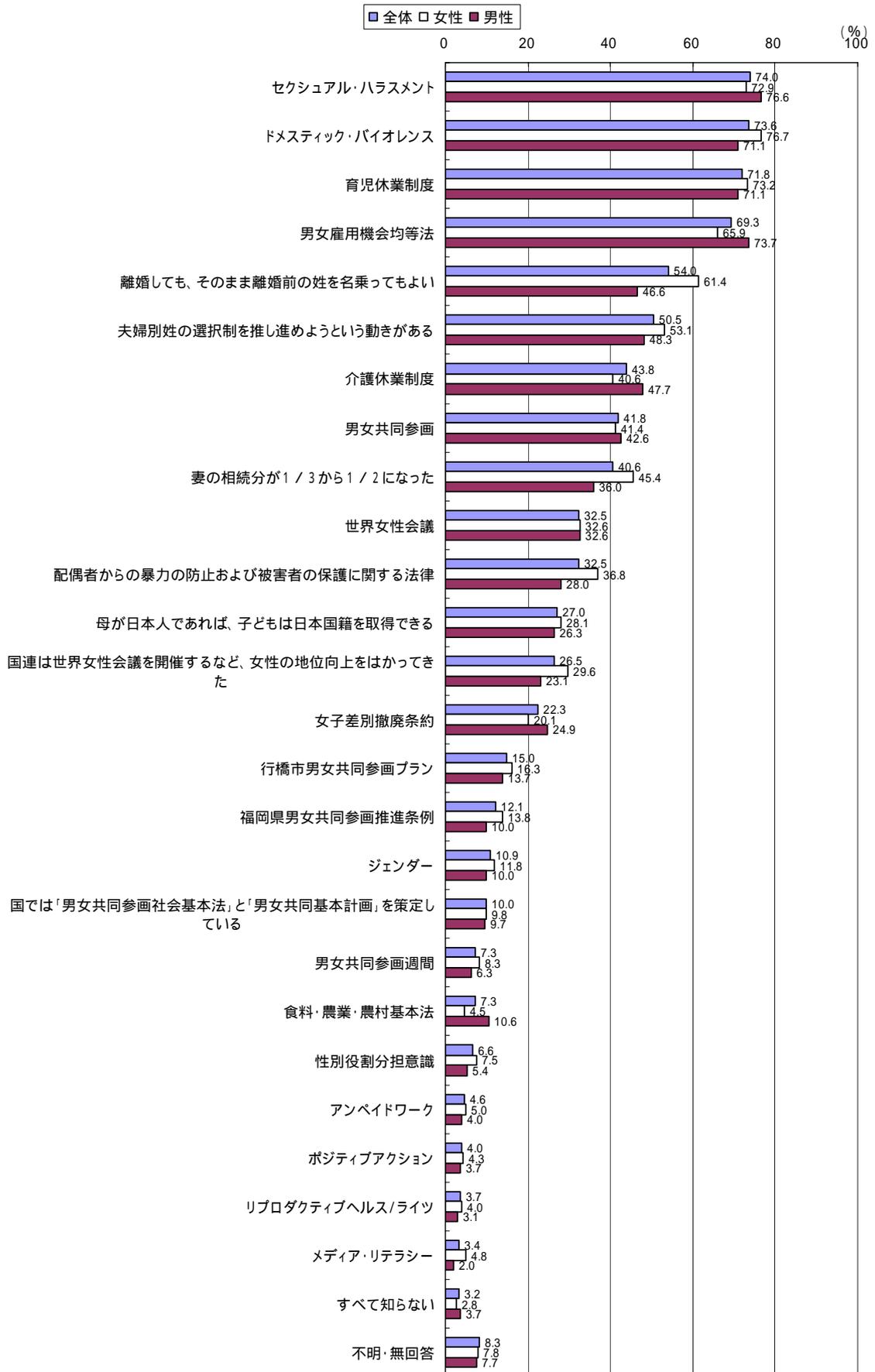
##### [性別]

女性では「ドメスティック・バイオレンス(家庭内暴力・夫や恋人から受ける暴力)」が 76.7%と最も高く、次いで「育児休業制度」73.2%となっている。

男性では「セクシュアル・ハラスメント」が 76.6%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」73.7%となっている。

また、男性が女性よりも高くなっているものは、「セクシュアル・ハラスメント」(女性：72.9%、男性：76.6%)、「男女雇用機会均等法」(女性：65.9%、男性：73.7%)、「介護休業制度」(女性：40.6%、男性：47.7%)、「男女共同参画」(女性：41.4%、男性：42.6%)、「女子差別撤廃条約」(女性：20.1%、男性：24.9%)、「食料・農業・農村基本法」(女性：4.5%、男性：10.6%)の 6 項目であり、この項目については男性よりも女性のほうが女性問題において意識が高いことがうかがえる。

図 10 - 5 女性問題で見たり聞いたりしたことのあることについて  
 全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



〔調査資料 174～175 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

## 2. 男性が女性とともに家事などに参加していくために必要なこと

問 47 今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで を付けてください。

### 《男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めることが大切》

#### [全体]

今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要かとたずねた。

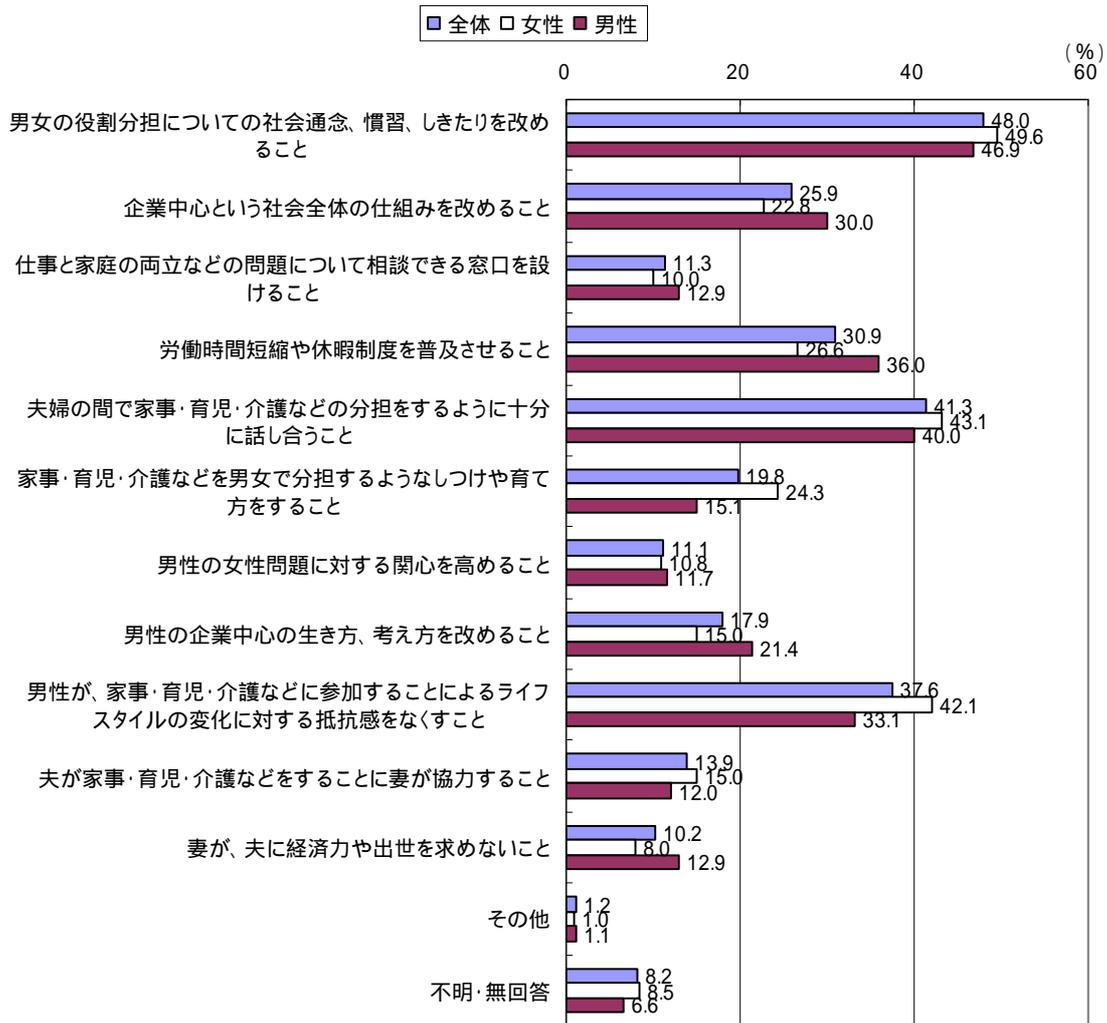
1位は「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」で48.0%、2位は「夫婦の間で家事・育児・介護などの分担をするように十分に話し合うこと」で41.3%、3位は「男性が、家事・育児・介護などに参加することによるライフスタイルの変化に対する抵抗感をなくすこと」で37.6%となっており、男女の役割分担や家庭への関わりが必要であるという項目が高くなっている。

#### [性別]

男女とも「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(女性：49.6%、男性：46.9%)が最も高く、次いで「夫婦の間で家事・育児・介護などの分担をするように十分に話し合うこと」(女性：43.1%、男性：40.0%)となっており、いずれの項目も男性よりも女性が高くなっている。

また、男性が女性よりも高いものは、「企業中心という社会全体の仕組みを改めること」(女性：22.8%、男性：30.0%)、「仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること」(女性：10.0%、男性：12.9%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(女性：26.6%、男性：36.0%)、「男性の女性問題に対する関心を高めること」(女性：10.8%、男性：11.7%)、「男性の企業中心の生き方、考え方を改めること」(女性：15.0%、男性：21.4%)、「妻が、夫に経済力や出世を求めないこと」(女性：8.0%、男性：12.9%)であり、男性は仕事に関連する意見が女性よりも高いことがわかる。

図 10 - 6 男性が女性とともに家事などに参加していくために必要なことについて  
 全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



〔調査資料 176 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付〕

### 3. 「男女共同参画社会」への市の取り組みについて

問 48 「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、市の行政はどのようなことに力を入たらよいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで を付けてください。

**《育児保育施設などを充実させることに取り組んでいくことが必要》**

[全体]

「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、市の行政はどのようなことに力を入れるべきかたずねた。

1位は「育児保育施設などを充実させる」で 39.8%、2位は「高齢者や病人のための施設や在宅介護サービスを充実させる」で 39.3%、3位は「男女平等意識を育てる教育」で 36.0%、4位は「男女共同参画社会づくりのための行政の総合的プランを策定し、その進捗状況を公表する」で 33.9%となっている。

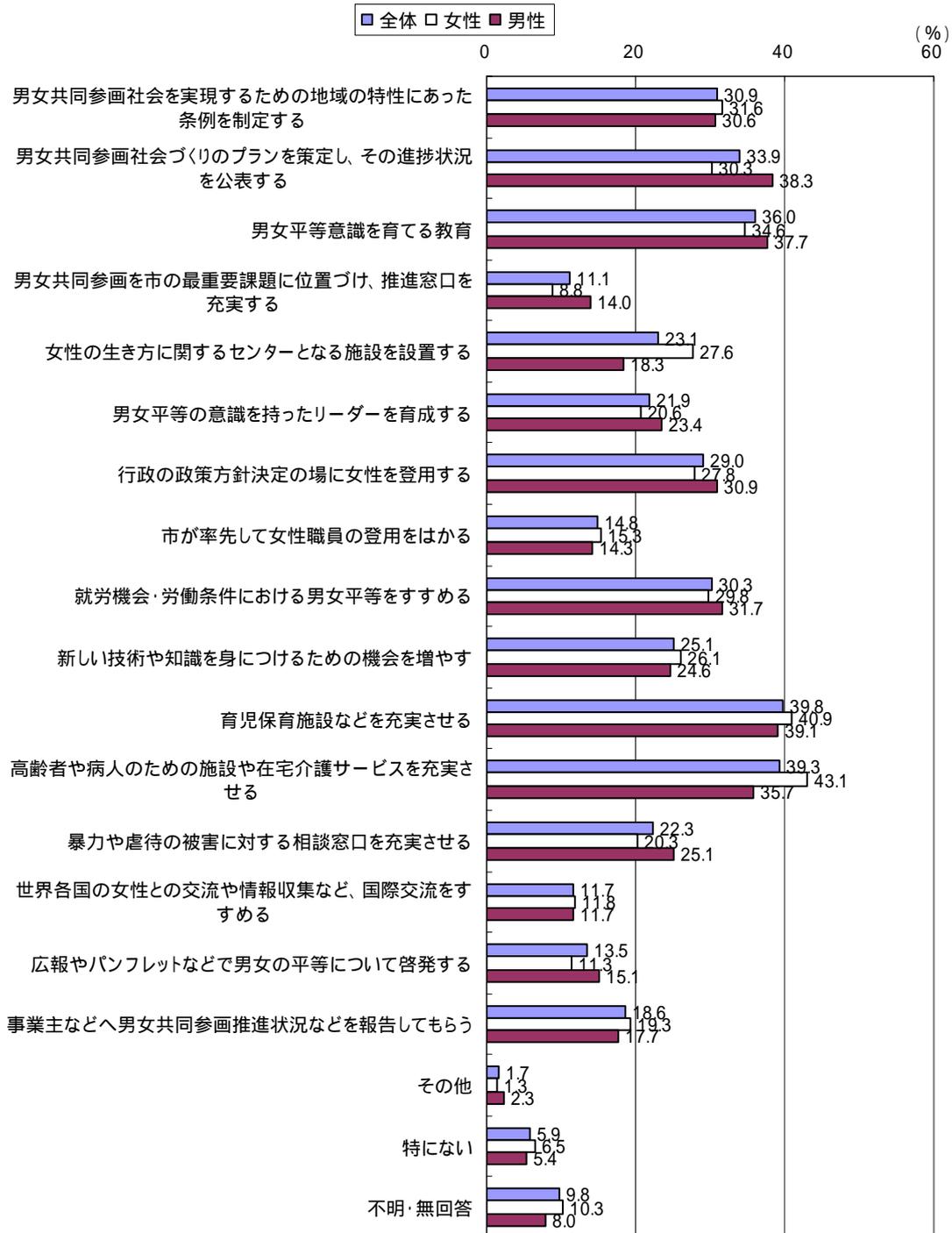
[性別]

女性では「高齢者や病人のための施設や在宅介護サービスを充実させる」が43.1%で最も高く、次いで「育児保育施設などを充実させる」が40.9%となっている。

男性では「育児保育施設などを充実させる」が39.1%で最も高く、次いで「男女共同参画社会づくりのための行政の総合的プランを策定し、その進捗状況を公表する」が38.3%となっており、男女とも育児保育施設などへの要望が挙がっている。また、「男女共同参画社会を実現するための地域の特性にあった条例を制定する」は女性31.6%、男性30.6%、「男女平等意識を育てる教育」は女性34.6%、男性37.7%、「市が率先して女性職員の登用をはかる」は女性27.8%、男性30.9%となっている。

図 10 - 7 「男女共同参画社会」への市の取り組みについて

全体 N = 758、女性 N = 399、男性 N = 350



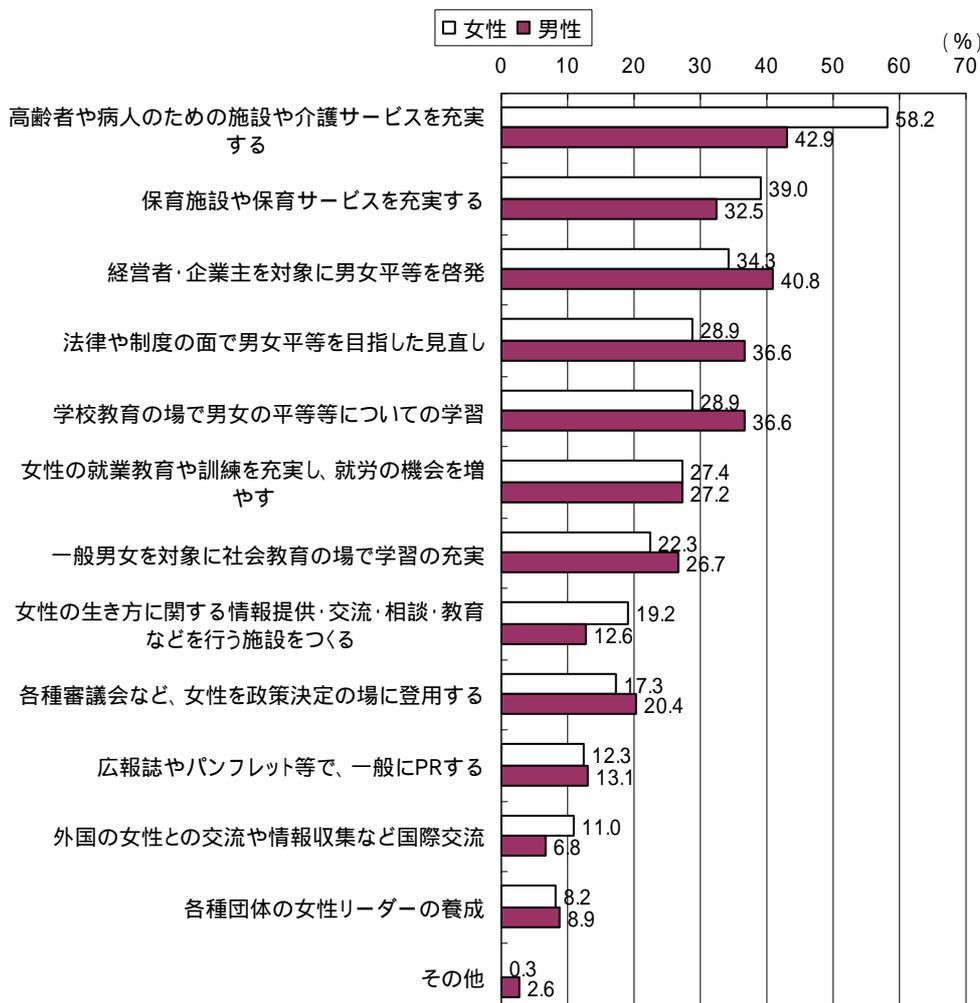
[調査資料 177 ページに性別、年齢別、職業別の数表添付]

<平成9年8月調査より>

問 29 国や県、市町村の行政機関は何をすべきだと思いますか。

図 10 - 8 行政に対する要望について

女性 N = 318、男性 N = 191



[平成9年8月調査との比較]

全体で見ると、前回調査にくらべ、今回調査でも同様に「育児保育施設などを充実させる」39.8%や「高齢者・病人のための施設や在宅介護サービスを充実させる」39.3%と、このような取り組みが必要という意向が高くなっている。また、前回調査の「高齢者や病人のための施設や介護サービスを充実する」(女性：58.2%、男性：42.9%)と「保育施設や保育サービスを充実する」(女性：39.0%、男性：32.5%)が高いことから、今回調査は前回調査と変化はないことがうかがえる。

育児への取り組みの項目で、前回調査の「保育施設や保育サービスを充実する」(女性：39.0%、男性：32.5%)よりも今回調査の「育児保育施設などを充実させる」(女性：40.9%、男性：39.1%)の方が男女差が小さいことから、男性の育児への意識が高くなっていることがうかがえる。

## 調査結果のまとめ

行橋市では、5年前の平成9年に「市民の女性に関する意識調査」を実施しました。この調査は、すでに女性問題がパートナーである男性の問題でもある、との考え方で取り組まれていました。「男女共同参画」の考え方を一足早く先取りし、「ジェンダー」不平等の是正、女性も男性も個性と人権を尊重される、のびやかで笑顔あふれるまちづくりが目指されてきたのです。

具体的には、行政の推進体制を整備し、市民の意識啓発のためのフォーラムや学習会を重ねるなどの努力が行われ、京築地方では初めての男女共同参画計画が作られました（平成11年3月）。市民の中には、1995年の国連の第4回世界女性会議（於北京）への参加に引き続き、ニューヨークで開催された国連特別総会「2000年女性会議」にも参加するなど、国内の他地域のNGOとも連携しながら、世界規模での情報と国内の他の地域での歩みと連携しながら、地道に地域の男女共同参画の実現に取り組む人たちも現れています。こうした官と民とのパートナーシップを基礎に、今日、男女共同参画推進条例への取り組みが始まっています。「計画」の再策定と条例制定を目標としているこのような時期に、本調査が企画されたことは、実に意義のあるまた必要な事業だと評価されます。

その間、国では、大きな前進が見られました。平成11年の「男女共同参画社会基本法」の制定、これに基づく「男女共同参画基本計画」の策定（同年）、内閣府により大きな権限と予算を持つ男女共同参画局の設置、2001年の「配偶者からの暴力の防止と被害者保護に関する法律」などです。「基本法」では、地方公共団体の責務について記し、なかでも14条第3項では、男女平等を地域の特性に配慮しながら「男女共同参画条例」を策定するように努めること、としています。今日全国では、851の市町村区で「男女共同参画推進計画」、同じく145の市町村区で「条例」の制定が行われてきております。

平成9年の調査で、行橋市の特徴と考えられた事項を少し整理してみましょう。

回答者の偏りに見られるように、60代以上の女性の間で男女共同参画への関心が多く、若い世代や男性の間での関心の広がりがかけていたこと。

男女平等の浸透度が、〈職場〉〈政治〉の場で低いという評価はほぼ全国調査と同様であるが、

イ) 社会通念・慣習等の分野で高い不平等感が見られること

ロ) あらゆる分野で「平等」か「不平等」か〈わからない〉という、留保的な態度が目立っていること

ハ) 「家庭」や「地域活動」という比較的女性が日常頑張っている場で、〈不平等感〉が強いこと

男女共同参画にかかわる情報収集手段が、マスメディアと市の広報に集中しており、「市民に広がりのある地域活動の場を通じた情報収集」が低調であること

女性のライフコース選択において、結婚や育児をしながらも「職業を継続したい」という意見が「理想のコース」となっていたこと

などが挙げられます。どれも、重要な課題を示していると思いますが、特に については、その後全国的にも、そして、女性だけでなく男性の間でも「妻の望ましいライフコース」として一位に上がる傾向が出てきています。問題は、このような意識が実現されていくために、行政や個人が、それぞれにどんな努力をするべきかです。以下のまとめでは、こうした特徴がどう変化しているかにも目配りしつつ、内容を取りまとめていきます。

### 1) 回答者について

男女でバランスの取れた回答が得られています。また、女性の50代以上の比率が高いものの、全年齢の市民から、比較的同じ比率での回答が寄せられています。この問題への関心が偏らずに、市民に広がってきたことが表れていると言えます。

### 2) 「男は仕事・女は家庭」の固定的性別役割分業観について

「同感しない」が「同感する」を大きく上回っています。男性の間でも「同感しない」が「同感する」の2倍近くとなっています。しかし、問題は回答の中に「どちらともいえない」という留保的意見が最も多いことです。

この留保が、なんらかの情報への接近で「ああ、そういうことか」と、共同参画の賛同に変わられるものなのか、あるいは、そうでないのかは大きな分かれ目です。こうした方々に向けて、行政が適切な説明、広報を行うことは大変重要なことです。

### 3) 男女の立場平等意識

家庭、職場、学校、政治のあらゆる場で、「平等」になっているという意識は増加しています。「社会通念・しきたり・慣習」「政治」では、しかし、その前進は弱いといえます。町議会女性議員数が全体の三分の一を超えた福岡県福岡市、過半数を超えた神奈川県大磯町などの事例もすでに現れています。そして、地域に根ざした魅力的なまちづくりが始まっています。どのような環境がそのために必要か、議論が必要でしょう。また、市民の立場にたってリーダーシップを発揮できる人材の発掘・育成が求められます。

### 4) 「慣習やしきたり」における男性優遇について

地域や社会全体で男性が優遇されているという認識には、依然、抜きたいものが

みられます。この事態は、何が主な原因になっているのでしょうか。

このデータをもとに、市民の身近な地域や公民館活動でこそ、また、若い男女を巻き込んだ形で、原因を議論することが必要です。男女共同参画が「優位にある男性を告発する」ためのものでなく、すべての人間が責任を分かち合い、のびのびと個性を認め合う作業だということを、浸透させることが必要です。このための「場」作りには工夫が必要でしょうし、一過性のイベントでは、成果を期待するのは難しいことでしょう。ひとつの有効な考え方は、「地域を支えている世帯単位」の考え方の見直しが必要とされるでしょう。

## 5) 女性の人権について

ドメスティック・バイオレンスとセクシュアル・ハラスメントは、半数に近い男女、とくに女性の間で、女性に対する人権侵害だとの認識が見られます。とくにないという人は1割以上は見られますが、多くの市民はこのような人権侵害・暴力に対して、正当な感受性で受け止めておられることは頼もしいことです。

しかし他方では、「何を言っても無視する」「交友関係や電話を細かくチェックする」「俺がいないときは外出しないように、という」などを、「場合によっては許される」「許される」と考える男性が過半数を超えています。「無視」については、女性にも同じ態度が見られます。夫婦間のスムーズなコミュニケーションを作り出していこうという家族文化作りが必要なのではないのでしょうか。家族の中からの小さな民主主義ということが、国際家族年(1994年)のスローガンでした。男女の相互理解は個人的な関係性の中からもしっかりと築く必要があるもので、社会教育や公教育の役割が求められます。「殴るふりをして脅す」「だれのおかげでお前は食べられているんだという」「見たくないのにわいせつなビデオや雑誌を見せる」などに関しても、2~3割の男性が「許される」「場合によっては許される」と答えており、啓発や話し合いが必要です。

さらに、実際に被害者保護と自立支援、被害者が声を上げやすい環境や窓口作り、加害者の更生支援なども急がれる課題です。

## 6) 理想の行き方 = ライフコースと現実の生き方

5年前に注目された女性の「就業継続」への意向は、今回も一位で見られます。特に結婚・出産時期にある20代、30代でこの考え方は3割から4割にも達しようとしています。結婚や子育てが女性の側だけに狭い選択を押しつけるのではなく、男性にも、社会とくに企業にもそのコスト・負担を共有してもらおうというのは、今日世界的な動きです。地方自治体のレベルでも、職業機会の確保、職業訓練機会へのアクセス確保、起業支援、良質で多様柔軟な保育サービスの確保や子育て支援センターの充実、男性や中高年世代の意識啓発など、さまざまな環境整備に取り組む必要があります。

また、今年制定された少子化社会対策基本法や次世代育成基本法などをも勘案しながら、男女がともに役割と責任を分かち合えるよう、自治体としての有効なプラン作りとも、整合性を持っていくことが必要でしょう。

## 7) 家庭内の役割分担について

「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業意識と関連していると思われませんが、家庭での仕事の分担は非常に女性にとって過重なものになっています。「生計費を得る」は、「主に男性がする」が55%となっはいますが、「夫婦とも同程度にする」も33.5%です。これは他の調査と比べて、かなり高い比率だといえます。たとえば、福岡県調査では(平成12年)「夫婦とも同程度」は、わずかに11.8%にすぎません。行橋の女性は、家計への貢献度がかなり高いのです。

他方で、「食事の支度・後片付け」、「洗濯」は8割から9割が妻、「掃除」は7割が同じく妻がやっています。この実態は、本市の5年前調査と比べて、わずかに妻の負担が減っていますが、その変化は非常にわずかなものです。逆に「(親の)介護」や「近所づきあい」は、かえって「夫婦で共同」が減っています。

つまり、「男は仕事、女は家庭」という<意識>の面で、「同感しない」市民が増えたにもかかわらず、<実行>面では、男性の後退と女性の負担増が見られるのです。この矛盾を速やかに解決する必要があります。

## 8) 仕事や職場について

「働いている理由について」の問いでは、「自分が家計に中心だから」という男性の答えは、女性よりはるかに高くなっています。が、「生計を維持するため」という福岡県調査(平成14年)での男性の答えが83%であるのと比較すると、若干回答のニュアンスは異なるものの、多少緩やかな考え方であるといえます。今回の調査では、女性の「生計の中心ではないが、自分が働かないと生活が成り立たないから」「家計の状態をよくしたいから」という、家計貢献への強い意欲が現れています。それと同時に注目されるのは、「経済的に自立したいから」という、20代、30代女性の非常に強い意識です。20代では51.7%、30代でも34.8%が「自立したいから」をあげています。

結婚や離婚に対する若い男女の考え方が、急速に変わっていることは、本調査でも示されていますが、「経済的自立」「職業を通じて自分を向上させたい」「能力・技術を生かす」「社会との接点を持つ」「耐久消費財の購入」などに関して、若い女性が男性とほとんど変わらない自立志向、自己実現志向を持っていることがわかります。これらの若い男女が行橋市の中核的な市民となるのも、もうすぐです。このようなしっかりした考え方が実現でき、男女が自立とともに、支えあえる地域社会の環境作りが行政には求められています。

## 9) 職場の環境について

職場で女性が男性に比べて、どのような面で不当な取り扱いを受けているか、の問いでは、「賃金格差」「昇進や昇格の格差」「補助的な仕事しかやらせてもらえない」などが上がっています。注目されるのは、男性のほうが、「昇格・昇進格差」「女性の補助的な仕事の割り当て」を不当だと女性より多く回答している点です。「賃金格差」はこのようなもろもろの格差が集積したものだといわれていますが、職場の中でこのような実態が男性のほうによく把握されている点は注目すべきです。男性の力も借りながら、男女の平等で公平な働き方ができる職場を作り出していく方策が求められます。男女共同参画推進に関し、企業の社会的責任を認識・実行してもらうために、基本法は法人を含む国民の責務を定めていますから、条例等において、このような企業の努力を求めることは可能であり必要な事項だといえます。

## 10) 地域社会の活動について

地域社会で従来的な意識や慣行・慣習を見直していくことは、粘り強い学習の積み重ねと、学習した内容を行動に活かしていく実践力が非常に大事です。学習には、<やる気>が、まず大切です。調査では、自治会・老人クラブ、趣味の活動、子ども会等の活動で、現在すでに活動している市民が比較的多く見られます。今後したい活動としても、多様な内容があがっています。自然保護・公害防止（男性がかなり多い）、福祉分野でのボランティア（女性がやや多い）、国際交流・国際平和の活動、保健衛生の分野など大変多岐にわたっています。学習と活動へのポテンシャルが非常に高いといえます。また、女性の間では、女性問題の学習や女性の地位向上に関する活動が、19%も上がっています。これらの意欲を実際の学習や活動へ展開してもらうためには、活動の拠点作りや、リーダーの幅広い発掘・育成が急務といえましょう。

## 11) 方針決定への女性の参画

国の「基本法」は、この課題を基本理念の5つの中に含めるとともに、「基本計画」のトップに位置づけています。議会で、審議会や委員会で、営利・非営利の各種組織で女性が公的な場での問題を学び、把握し、そこから地域の課題を知り現実の行動にプラン作りから参加・参画できるようになることが、行橋市の活性化を生み、男性との対話を可能にし、役割分担のためのシステム作りにつながると考えられます。

そのための、積極的な改善措置の必要も基本法では述べています。地方自治体においても、方針決定への参画を進めていくための積極的な改善措置を可能な限り取り入れる必要があります。

